

研究プロジェクト名：マウスからヒトへ：大型動物を利用する橋渡し研究
プロジェクト番号：S1311030

平成 25 年度～平成 29 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

研 究 成 果 報 告 書

平成 30 年 5 月

学校法人名 自治医科大学
大 学 名 自治医科大学
研究組織名 自治医科大学ピッグセンター
研究代表者 花園 豊
(自治医科大学 医学部)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

**平成 25 年度～平成 29 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 自治医科大学 2 大学名 自治医科大学

3 研究組織名 自治医科大学 NCD 研究拠点

4 プロジェクト所在地 栃木県下野市薬師寺3311-1

5 研究プロジェクト名 非感染症疾患の病態解明と診断・治療法の開発拠点の形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
永井 良三	自治医科大学・医学部	学長

8 プロジェクト参加研究者数 23 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
永井 良三	学長	研究の総括	研究組織の効率的な運営・トランスレーショナルリサーチの推進
高橋 将文	医学部・教授	生活習慣病・心血管病における自然炎症機構の解明	自然炎症の分子機構の解明・炎症領域の総括
古川 雄祐	医学部・教授	幹細胞と間質細胞とのネットワーク解析	幹細胞と周囲環境ネットワーク機構の解明・幹細胞領域の総括
矢田 俊彦	医学部・教授	視床下部炎症による脳・末梢関連障害の生活習慣病発症基盤の解明	脳・末梢臓器関連の解明
尾仲 達史	医学部・教授	慢性炎症における神経ペプチドの役割の解明	脳・末梢臓器関連の解明
岩本 禎彦	医学部・教授	生活習慣病における慢性炎症に関連する遺伝子変異の解析	慢性炎症の病態解明とバイオマーカーの開発
苅尾 七臣	医学部・教授	エクソソーム解析による心血管病の新規バイオマーカー	心血管病バイオマーカーの開発・臨床データベ

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

		の開発	ース構築
研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
石橋 俊	医学部・教授	脂質代謝異常が惹起する炎症における自然免疫細胞の役割の解明	脂質代謝異常が惹起する炎症機構の解明・臨床データベース構築
椎崎 和弘	医学部・講師	慢性腎臓病における自然炎症の分子機構の解明	慢性炎症の分子機構の解明・臨床データベース構築
簗田 清次	医学部・教授	関節リウマチ再燃過程解析による発症機構解明と治療標的分子の同定	慢性炎症の分子機構の解明と治療法開発・臨床データベース構築
松原 茂樹	医学部・教授	妊娠高血圧症候群における自然炎症機構の解明	自然炎症の分子機構の解明・臨床データベース構築
高橋 秀徳	医学部・講師	サイトカイン迅速測定による眼炎症性疾患オーダーメイド医療の開発	オーダーメイド医療および医療機器開発
遠藤 仁司	医学部・教授	がんミトコンドリア異常の網羅的解析による創薬標的の同定	がんにおけるミトコンドリア異常の解明
多胡 憲治	医学部・講師	がん遺伝子産物による炎症シグナル機構の解明	がんと炎症の関連における制御機構の解明
仁木 利郎	医学部・教授	肺がんにおける細胞間ネットワークと病態の関連の解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・臨床データベース構築
安田 是和	医学部・教授	NASH から肝臓がんに至る細胞間ネットワーク解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・臨床データベース構築
鈴木 光明	医学部・教授	婦人科がんの播種・転移・再発機構の解明	がんの浸潤・転移・進展機構の解明
山本 博徳	医学部・教授	消化管におけるがんや炎症性疾患の病態解析	がんと慢性炎症機構の解明・メタゲノム解析・臨床データベース構築
川上 潔	医学部・教授	歯周組織幹細胞の発生・分化・再生機構の解明	幹細胞の分化・再生機構の解明
花園 豊	医学部・教授	大型動物を用いたヒト造血システムの構築と解析	幹細胞を用いた再生医療の開発、モデル動物開発と前臨床試験
大森 司	医学部・教授	iPS・間葉系幹細胞を用いた出血性疾患に対する新規治療法の開発	幹細胞を用いた再生医療の開発

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

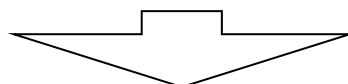
小澤 敬也	医学部・客員教授	キメラ抗原受容体を利用した新規養子免疫遺伝子療法の確立	新規養子免疫療法の開発と有効性のメカニズム解明
研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
黒尾 誠	医学部・教授	慢性腎臓病における慢性炎症の分子機構の解明	慢性炎症の分子機構の解明
西村 智	医学部・教授	生体分子イメージング法の開発とこれを利用した心血管病の病態解明	新規生体分子イメージング法の開発
(共同研究機関等) 浦野 泰照	東京大学・教授	蛍光・発光プローブの開発	新規診断技術・医療機器開発
濡木 理	東京大学・教授	同定標的因子における分子高次構造の決定	分子標的治療薬の開発
黒田 雅彦	東京医科大学・教授	がんにおける microRNA 異常の解析と間質への作用の解明	microRNA によるがん・炎症の病態解明と治療への応用
本田 賢也	理化学研究所	がん・生活習慣病におけるメタゲノム解析	メタゲノム解析
間野 博行	東京大学・教授	がんと周囲環境のクロストークにおけるゲノム解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・がん領域まとめ

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧(所属変更)

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
慢性腎臓病における慢性炎症の分子機構の解明	テキサス大学・教授	黒尾 誠	慢性炎症の分子機構の解明

(変更の時期:平成 25 年 10 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
テキサス大学・教授	自治医科大学・医学部・教授	黒尾 誠	慢性炎症の分子機構の解明

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

新(追加)

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京大学 TSBMI 特任准教授	医学部・教授	西村 智	新規生体分子イメージング法の開発

(追加の時期:平成 25 年 8 月 15 日)

旧(減員)

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
低酸素ストレス環境におけるがんの浸潤・転移機構の解明	医学部・教授	穂積 康夫	がんの浸潤・転移・進展機構の解明・臨床データベース構築

(変更の時期:平成 25 年 9 月 30 日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

生体にとって基本的な制御ネットワークの一つであるストレス応答の破綻が、がんや生活習慣病、心血管病といった非感染性疾患(Non-communicable disease: NCD)を引き起こすことが明らかとなってきた。これまで、自治医科大学ではがんや炎症、生活習慣病を中心として、NCD に関連する数多くの先駆的な研究が行われており、国内外から高い評価を得ている。そこで、本プロジェクトでは、生体ストレスによるネットワーク恒常性維持の破綻から NCD 発症に至る機構の解明を分子レベルで遂行するとともに、新たな治療標的分子やバイオマーカーの同定から、創薬を標的とする生体バイオイメーキングシステムによる新規治療・診断法の開発と実用化など、イノベーション促進を視野に入れたトランスレーショナル・リサーチへと展開することで、世界の NCD 研究における基礎・臨床連携研究拠点の形成を目指す。

(2) 研究組織

1. 研究代表者の役割

研究代表者は、本プロジェクトに参加する基礎・臨床計23グループの研究主導を行い、グループ間の協力・分担・連携の統括を行っている。

2. 各研究者の役割分担や責任体制の明確さ

研究代表者の下、「慢性炎症」と「がん・幹細胞」の2つの研究領域を中心に、基礎・臨床研究グループを有機的に配置し、トランスレーショナル・リサーチが展開可能な組織を構築した。各研究領域の実施リーダーとして、高橋将文(炎症・免疫研究部)と古川雄祐(幹細胞制御研究部)を置き、参加研究グループや各領域の連携を強化している。各研究者は、それぞれの専門性の上にNCDにおけるストレス応答や生体ネットワークの視点を据えた研究を実施し、成果をあげる。また、各研究領域の実施リーダーが、研究の進捗状況や共同研究の定期的な確認と評価を行う。

3. 研究プロジェクトに参加する研究者の人数

本プロジェクトの遂行のため、主な研究者23名を含む計74名の研究者が参加している。

4. 大学院生・PD及びRAの人数・活用状況

大学院生 31名、博士研究員(PD) 7名、リサーチアシスタント(RA) 24名(延べ62名)が本研究プロジェクトに参加している。

5. 研究チーム間の連携状況

定期的な研究ミーティングおよび研究成果報告会により、前述した2つの研究領域内連携および領域間での連携は非常に良好であり、トランスレーショナル・リサーチ実施に向けた共同研究が積極的に行われている。

6. 研究支援体制

学長が本研究プロジェクトの研究代表者となっていることから、大学本部を介して研究支援課や大学リニューアル推進室等の担当事務が広報などの事務的な支援を行っている。また、分子病態治療研究センターと実験医学センターが研究支援のコアとなり、研究装置や機器利用に際して研究参加者への技術的な支援を行うとともに、研究代表者・参加者が協力して全学一致した体制で本研究プロジェクトを推進している。

7. 共同研究機関等との連携状況

テキサス大学や東京大学、東北大学、広島大学、信州大学、明治大学、北里大学等、国内外の研究機関と数多くの共同研究が実施され、数多くの研究成果をあげている。

(3) 研究施設・設備等

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

自治医科大学 NCD 研究拠点として、既存の大学施設(教育・研究棟:15,893m²)を中心に、実験医学センター(4,503m²)を74名の研究者と62名の大学院生・PD・RAが常時利用している。また、研究設備については、FACS Aria セルソーター(1,242 時間)、生体ネットワーク再現システム(680 時間)、生体ネットワーク観察システム(424 時間)、生体ネットワーク構成細胞分離システム(37.5 時間)、ゲノム・エピゲノム解析システム(1,552 時間)、炎症関連タンパク質解析システム(680 時間)を整備し、効率的に運用している。

(4)研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

【慢性炎症領域】

1. 生活習慣病・心血管病における自然炎症機構の解明 【炎症・免疫研究部】

非感染性疾患(NCD)の病態における新規自然炎症経路インフラマソームの役割を検討し、腹部大動脈瘤や慢性腎臓病、急性腎障害において、インフラマソームを介した炎症反応が重要な役割を果たしていることを明らかにした(*論文 17、20、38)。一方、インフラマソーム構成分子それぞれの遺伝子(NLRP3・ASC・Caspase-1)欠損マウス間で病態モデルによる表現型の違いがあることを見出し、NLRP3 のインフラマソーム非依存的な新たな機能を明らかにした(*論文 19、36)。また、妊娠高血圧やナノ粒子による妊娠合併症においてもNLRP3とASCで異なる機能を示すことが明らかになった(*論文 16、21)。さらに、インフラマソームを制御する分子機構を解明し、内因性インフラマソーム制御分子 CARD16 と CARD17 によるCARDドメインを介した新たなインフラマソーム制御機構を報告するとともに、NLRP3 と直接結合してインフラマソーム活性を負に制御する新規 E3 ユビキチンリガーゼ ARIH2 を同定した(*論文 3、18)。

2. 視床下部炎症による脳・末梢連関障害の生活習慣病発症基盤の解明 【統合生理学部門】

弓状核ニューロンの研究に関して以下の成果を得た。摂食行動のトリガーには、視床下部弓状核のグルコース(血糖値)センシングが重要であるが、その鍵分子としてNa,K ATPaseを同定した(*論文 79)。さらに、脂肪細胞由来のアディポネクチンが弓状核ニューロンの活性調節を行うことを明らかにした(*論文 55、67)。さらに、肥満モデル動物に対し、AAV ベクターを用いて、末梢性に抗炎症性サイトカイン IL-10 を発現することで、弓状核ニューロン機能変調を是正しうることを明らかにした(*論文 62、73)。弓状核 AgRP ニューロンの細胞内シグナル分子 PDK1 の活性化は摂食以外に骨成長を促進する事を明らかにした(*論文 58)。一方、室傍核 Nesfatin-1 ニューロンに関して、Nesfatin-1 ニューロンの発現概日リズムが摂食概日リズムを形成すること(*論文 70)、さらにその調節因子としてホルモン様作用を持つ FGF21 を同定した(*論文 60)。室傍核オキシトシンニューロンによる摂食抑制機構の解析を進めてきたが、今回オキシトシンは点鼻および腹腔内投与によっても摂食抑制作用を発揮することを明らかにした(*論文 83、84)。オキシトシンの抗肥満・糖尿病作用(*特許 1)は臨床的意義が大きく、今後トランスレーショナル研究に期待ができる。また、弓状核が第一次、室傍核が第二次中枢と捉えるのが定説であったが、室傍核から弓状核への逆向き神経回路を同定し、摂食調節機構のブレークスルーを起こした(*論文 89)。さらに、希少糖のアルロースが、腸管からの GLP-1 分泌を促進すること(*特許 2)、さらに分泌された GLP-1 が迷走神経求心路を活性化し、過食、肥満と糖代謝を改善することを明らかにした(*論文 52、特許 3)。

3. 慢性炎症における神経ペプチドの役割の解明 【神経脳生理学部門】

慢性炎症疾患・ストレス関連疾患における神経ペプチドの働きを明らかにすることを目的として、特定の神経ペプチド産生ニューロンの神経投射を可視・定量化する方法と、特定の神経ペプチド産生ニューロンを選択的に破壊する方法との開発を行った。さらに、神経ペプチド産生ニューロンを刺激するストレス条件の検討を行った。その結果、これまで知られていなかった新たなオキシトシン回路が明らかとなり、さらにその定量的解析によりオキシトシンが脳皮質への入力のフィルタリング機能を持つ可能性が出てきた(*論文 534)。神経ペプチドニューロンを活性化するストレス刺激に関しては、痛み刺激、条件恐怖刺激、皮膚への接触刺激、社会的敗北刺激カイン酸、セクレチンが有効であった(*論文 534、538、539、

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

542)。このうち条件恐怖刺激による賦活化に関しては、内側扁桃体と延髄の PrRP 産生ニューロンが中継することを見出した(*論文 542)。一方、オキシトシンの働きについて、樹状突起から放出されたオキシトシンが内側扁桃体に作用して社会記憶を促進していること(*論文 537)が見いだされた。この成果は樹状突起から放出された神経ペプチドの生理的働きを解明したもので特筆に値する。また、親和的行動がオキシトシン放出を促進させ出てきたオキシトシンは親和行動を促進させるという正のフィードバック系があり、このフィードバック回路がイヌの家畜化の進化に貢献していること(*論文 541)を見出した。一方、敵対的状況下ではオキシトシンは社会的敗北姿勢の反応を促進するという親和的行動とは逆の働きも持つことを見出した(*論文 534)。

4. 生活習慣病における慢性炎症に関連する遺伝子変異の解析【人類遺伝学研究室】

慢性炎症は生活習慣病の修飾因子として重要であり、脂質は動脈硬化や非アルコール性脂肪肝炎(NASH)、肥満症などにおける炎症惹起物質として注目されている。当研究室はそれらに関連する遺伝子を複数同定することに成功した(*論文 107、113、114、115、117)。また、脂質レベル関連遺伝子が関わる調節メカニズムを機能的に明らかにし、新たなパスウェイを提唱した(*論文 111、112、115)。また、生活習慣病にどの程度レアバリエーションが関わっているのかを明らかにするため、日本人 950 人を対象に非アルコール性脂肪肝(NAFLD)関連遺伝子の大規模なリシークエンスを行い、低頻度機能性バリエーションの存在を明らかにした(*論文 102)。さらに、非肥満 NAFLD のゲノムワイド関連解析を東北メディカルメगाバンクとの共同研究によって実施し、新たな関連候補遺伝子の同定に成功した。現在、これを検証するための 3400 例を超えるゲノムパネルを構築中であり、その腸内細菌叢の解析も実施している。

5. エクソソーム解析による心血管病の新規バイオマーカーの開発【循環器内科学部門】

慢性炎症及び動脈硬化のバイオマーカーである高感度 CRP(hsCRP)、S100A12、CPP(Calcioprotein particle)に着目し、これらのバイオマーカーに影響を与える因子、疾患との関連を検討した。まず、安定冠動脈疾患患者 652 名において S100A12 を測定し、平均 973 日の予後追跡を行い、S100A12 と心血管イベントとの関連を検討した。また、心血管系リスク因子を 1 つ以上もつ外来通院患者 1440 名に 24 時間自由行動下血圧計の血圧指標と高感度 C 反応蛋白(Hs-CRP)との関連を検討した。同団体の 480 名においても S100A12 を測定し、潜在性動脈硬化の指標となるかを検討した。さらに、入院中の非透析患者 14 名において、食前・食後を含む 5 ポイントで CPP を測定し、CPP に影響を与える因子を検討するとともに、安定型狭心症および急性冠症候群 72 名を対象に、CPP と血管内超音波による冠動脈プラーク性状との関連を検討した。

6. 脂質代謝異常が惹起する炎症における自然免疫細胞の役割の解明【内分泌代謝学部門】

本研究では、NCEH1、HSL および CES3 の選択的阻害剤を用いてマウス腹腔マクロファージにおける CE 水解活性の寄与度を検討した。その結果、NCEH1 がマウス腹腔マクロファージにおいて主要な CE 水解酵素であることを報告した(*論文 134)。また、NCEH1 欠損マウス腹腔マクロファージにおける酸化コレステロールとアポトーシスとの関連について検討した。NCEH1 欠損腹腔マクロファージに酸化コレステロールの一種である 25-ヒドロキシコレステロール(25-HC)を添加することで小胞体ストレス関連分子の発現およびアポトーシスが顕著に誘導されることを見出した。この時、マクロファージ内の 25-HC エステル体の含量が小胞体で顕著に増加し、ACAT1 阻害剤を添加することでこれらの現象は抑制された。従って、NCEH1 欠損による 25-HC エステル体の小胞体における蓄積が小胞体ストレス誘導を惹起し、アポトーシスを引き起こすことが示唆された(*論文 133)。さらに、ACAT1 および NCEH1 の動脈硬化疾患への影響を検討するため、野生型マウス、ACAT1 欠損マウス、NCEH1 欠損マウスおよび ACAT1/NCEH1 ダブル欠損マウスの 4 系統のマウス骨髓細胞の動脈硬化モデルマウス(LDLr 欠損マウス)への移植実験を試みた。マウス体重及び血漿脂質は 4 群間において差は認められなかったが、NCEH1 欠損骨髓移植マウスの動脈硬化病巣面積は野生型骨髓移植マウスに比して増悪した。一方、ACAT1/NCEH1 二重欠損骨髓移植マウスは野生型や ACAT1 欠損骨髓移植マウスと同等レベルまで改善した。以上の結果から、骨髓由来細胞における ACAT1 の欠損は、NCEH1 欠損による CE 加水分解不全に起因する動脈硬化病変の悪化を改善する可能性が示唆された。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

7. 慢性腎臓病における自然炎症の分子機構の解明【腎臓内科学部門】

末期腎不全(血液透析)患者の血中 Fibroblast growth factor 21 (FGF21)を測定し、生命予後及び心血管疾患(CVD)発症の有無を検討し、慢性腎臓病における血中 FGF21 は、生命予後の予測マーカーになりうることを明らかにした(*論文 137、学会 162、163)。また、血中 FGF21 値と睡眠呼吸障害の関連を調べたところ、末期腎不全患者の血中 FGF21 高値は、睡眠時の間欠的低酸素血症と関連することが明らかとなった(*学会 160)。さらに、保存期慢性腎臓病患者での検討で、血中 FGF21 高値は、体液貯留の指標である細胞外水分量比の上昇と関連することが明らかとなった(*学会 161)。一方、腎・腹膜線維化の新規遺伝子治療法の開発を行い、microRNA-146a が炎症促進シグナル、線維化促進シグナル抑制を介して腎線維化を抑制することを明らかにするとともに(*論文 140)、ライソソームをベースとしたナノパーティクルをキャリアとした TGF- β 1-siRNA による TGF- β 1 ノックダウンが腹膜線維症を抑制することを明らかにした(*論文 141)。

8. 関節リウマチ再燃過程解析による発症機構解明と治療標的分子の同定【アレルギー膠原病学部門】

関節リウマチ患者に対して、生物学的製剤(バイオ製剤)の使用により臨床的寛解を 1 年以上維持している患者において、同意を得たのちバイオ製剤を休薬して、再燃の有無とその再燃過程の患者毎の特徴を比較し解析した(*学会 170、201)。さらに、バイオ製剤休薬後に再燃した患者と寛解を維持した患者の血液検体を用いて、再燃過程の経時的な遺伝子発現の変動をジーンチップの手法で、血清中の炎症性サイトカインおよびケモカイン濃度の変動を網羅的に解析した。これらの解析により、バイオ製剤休薬後の関節リウマチの再燃過程の解析による、ヒト関節リウマチの病態解析のための新たな解析システムを構築し、これを利用することで新規疾患活動性および再燃予測マーカーや、新規治療ターゲットの候補となる遺伝子・microRNA・炎症性サイトカイン・ケモカインを同定することができた。

9. 妊娠高血圧症候群における自然炎症機構の解明【産科学部門】

妊娠高血圧症候群患者における様々な因子を評価し、妊娠 28-29 週における LIGHT (TNF superfamily member14)の高値は、その後の妊娠高血圧腎症(preeclampsia, PE)の発症を予測すること、妊娠 18-24 週の母体血中 Galectin-1 (Gal-1)の低下は、その後の早発型 PE、遅発型 PE、および妊娠高血圧(gestational hypertension, GH)を予測することを明らかにした。また、妊婦の血中で活性化した白血球, Th17 細胞, NK 細胞, 及び、樹状細胞を、6 カラーのフローサイトメトリーを用いて同定する方法を開発した。一方、マウス妊娠高血圧症モデルである STOX1 過剰発現マウスでホモを作成し、野生型マウスと STOX1 過剰発現ホモマウスを掛け合わせて、PE 様症状の発現を確認したが、早期に流産が起り、その確認が出来なかった。また、STOX1 を過剰発現させたヒト由来栄養膜細胞(JEG3)では、LPS 誘導性の IL-6 産生が欠如していることがわかった。

10. サイトカイン迅速測定による眼炎症性疾患オーダーメイド医療の開発【眼科学部門】

レチノール過量摂取による網膜色素上皮細胞の血管内皮増殖因子(VEGF)発現亢進を介した脈絡膜新生血管悪化について(*論文 352)論文発表し、新たな滲出型加齢黄斑変性増悪機序を明らかにした。加齢黄斑変性治療における抗 VEGF 薬投与遅れと視力予後の関連について(*論文 350)報告し、病院側理由による投与遅れに警鐘を鳴らした。治療中の脈絡膜厚変化について(*論文 348)、硝子体出血を繰り返す網膜過誤腫にヘアピン状血管を認めたこと(*論文 341)、後部ぶどう腫に伴う網膜下液に抗 VEGF 薬の効くことがあること(*論文 340)抗 VEGF 治療による可逆性視力低下について(*論文 335)報告した。さらに加齢黄斑変性視力良好例に対するアフリベルセプト計画的投与の 1 年目成績(*学会 354)、2 年目成績(*学会 350)、事後解析としてポリープ状脈絡膜血管症のタイプ別解析(*学会 347)、視力維持の条件検討(*学会 345 *論文 333)報告した。より強力な抗 VEGF 薬ではむしろ視力予後が不良であること(*学会 352、353)、脈絡膜新生血管を伴わない網膜色素上皮剥離のベルテポルフィン半量光線力学療法を検討(*学会 351)を報告した。

全体として、眼科における本研究対象である炎症性眼疾患、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症について、主に前房水のサイトカインプロファイル測定から病態の詳細を明らかにし、現在行われている治療の問題点を明らかにし、より正確な診断と良い予後をもたらす治療方針を提示してきた。また、カラー眼底写真からの深層学習による脈絡膜厚推測(*学会 348、349)を報告し、深層学習を利用した画像からの診断技術確立できた。深層学習は様々な医用画像に応用可能であり、その端緒を眼科の炎

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

症性疾患でつかむことができた。

11. 慢性腎臓病における慢性炎症の分子機構の解明 【抗加齢医学研究部】

リンは生命に必須の6大元素の一つであり、リン恒常性の維持は生存の絶対条件である。実際、ヒトやマウスでは、リン恒常性が破綻して体にリンが貯留すると、全身の臓器に老化類似の様々な病態が生じ、早死にする。しかし、リンがなぜ悪いのか、そのメカニズムは不明である。本研究開発の目的は、リン恒常性維持機構の適応と破綻がもたらす病態(Phosphatopathy)を理解し、その典型である慢性腎臓病(CKD)の新たな治療標的を同定することにある。細胞外液中のリンは、カルシウムと結合してリン酸カルシウム(CaPi)のナノ粒子となって析出すると、自然免疫反応や細胞障害を誘導する「病原体」に変貌する。この粒子は calcioprotein particles(CPP) と呼ばれ、生体内では血中や原尿中にコロイド状に分散している(*論文 514)。一方、CKD 患者を対象とした臨床研究で、血中 CPP レベルが動脈硬化、慢性炎症、生命予後の悪化と相関することが報告された。CPP の「病原体」としての活性を考えると、この相関関係は実は因果関係の可能性があるが、現時点では証明されていない。本研究開発では、「CPP が Phosphatopathy の原因物質である」という仮説、すなわち「CPP 病原体説」を証明することを目標としている。本研究の主要な成果は、高血圧や糖尿病などを始め、様々な原因で起こる CKD に共通の病理である腎線維症の発症・進行のメカニズムに、CPP による尿細管障害が関与することを明らかにし、新たな治療介入点と治療薬を複数同定したことである(*学会 534、535、536、537、538、542、543、546、547、548、549、550)。

12. 生体分子イメージング法の開発とこれを利用した心血管病の病態解明 【分子病態研究部】

我々の講座では心血管病や生活習慣病の新たな治療標的探索を目的としてイメージング装置ならびにフローサイトメーターを用いた検討を行った。さらに、それら知見をもとにヒト臨床に応用可能な新規イメージング装置の開発を行った。従来の顕微鏡観察技術は高い解像度と引き替えに時間分解能が低く、時々刻々と病態が変化・進行する心血管病や生活習慣病の十分な解析が出来なかった。西村は過去に生体深部を多色(4ch)・高解像度(200nm)・高速(30fps)で連続撮影するシステムを独自に開発し関連特許を取得している。この技術に応用し、病態形成の初期から発症後の生体反応までを一細胞のレベルでリアルタイムに解析することに成功した。フローサイトメーターによる細胞種の特異・定量法と併せた検討で種々の病的ストレスに対する生体応答を評価することができた。新規イメージング装置の開発では癌の診断・治療に有用と思われる手持ち式の小型顕微鏡、8k 撮像センサーを用いた高解像度と広視野を両立する顕微鏡、ロボット技術とヘッドマウントディスプレイを用いた複数モダリティ画像の同時評価撮影システム、イメージングをベースとした埋め込み型の体内環境センシングシステム、遺伝子編集や RNA 創薬の評価ができる蛍光と発光の同時イメージング装置などの開発を行った。

【がん・幹細胞領域】

1. 幹細胞と間質細胞とのネットワーク解析 【幹細胞制御研究部】

生体内において、がん幹細胞は間質細胞によって形成された微小環境内に存在する。このがん微小環境は酸素分圧が低く、かつ酸性という特殊な環境である。この特殊条件を *in vitro* で再現し、がん幹細胞を生体に近い環境で維持できる実験系を確立し、間質細胞との共培養によって骨髄腫細胞に抗がん剤耐性が賦与されることを確認した(*論文 419)。その際のシグナル伝達を解析し、接着によって PI3K-AKT 経路が活性化されることを明らかにした。引き続き、AKT の下流でおこるエピジェネティック変化をスクリーニングし、histone H3-lysine27 (H3K27) のメチル化が特異的に抑制されることを見いだした。この抑制は H3K27 に対する特異的ヒストンメチル化酵素 EZH2 が AKT によってリン酸化を受け、核移行が阻害されるためであった。この EZH2 の不活化により、IGF-1、BCL-2、HIF-1 などの標的遺伝子の転写が脱抑制され、抗がん剤抵抗性が獲得されることを示した(*論文 412)。同様に、急性骨髄性白血病においても抗がん剤耐性が誘導されることを明らかにした(*論文 409)。引き続き EZH2 の不活化による接着耐性獲得のエフェクター分子のスクリーニングを行い、non-canonical Toll-like receptor CD180/RP105 を同定した。上述の実験系を用いて、CD180 が骨髄間質細胞との接着ならびに低酸素環境にて骨髄腫細胞表面に特異的に発現することを確認した。マウスへの移植実験でも間質細胞との接着によって誘導され、とくに骨髄腫幹細胞に発現していることを明らかにした。CD180/RP105 はリポ多糖体(LPS)の受容体として知られている。そこで低酸素・接着条件で LPS を作用させると、*in vitro* の培養系ならびにマウス移植系の両方で骨髄

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

腫細胞の増殖促進が確認された。その際、siRNAを用いてCD180の発現を抑制すると効果が無くなることから、CD180が受容体として働いていることがわかった。これらの結果は微小環境によるがん幹細胞の新たな制御機構を明らかにしたもので、がん幹細胞を標的とする新たな治療戦略の開発に貢献すると期待される(*論文 408)。

2. がんミトコンドリア異常の網羅的解析による創薬標的の同定【機能生化学部門】

ミトコンドリアを中心としたエネルギー代謝の機能低下は加齢性疾患と密接に関連し、がんの発生・増殖や進展にも大きく関与すると予測される。本研究では、まずミトコンドリア機能に影響を与えるタンパク質の解析(*論文 359、363、364、特許 8-10)やミトコンドリア遺伝子(mtDNA)のコピー数や分配等を制御するミトコンドリアヌクレオイドタンパク質の機能を解明した(*論文 358、360、362)。mtDNA 異常によるミトコンドリア脳筋症の発症にはヘテロプラスミーの割合が関与する。我々はヘテロプラスミーを制御する mtDNA の分配機構には TFAM のオリゴマー形成が重要であることを示した(*論文 360)。また、我々の同定したミトコンドリア膜タンパク質 M19/UQC2(*特許 8)が、新たなミトコンドリア脳筋症の原因遺伝子であることを明らかにした(*論文 363)。また、遺伝性疾患の原因遺伝子の上流にある uORF が新たなミトコンドリアタンパク質をコードすることを明らかにした(*論文 364)。さらに、ALSなどの神経変性疾患で形成される細胞質凝集体に、我々が同定した RNA 結合タンパク質(Drb1/RBM45)が局在するとの報告から、Drb1/RBM45 は核と細胞質のシャトルタンパク質であること、変異の導入により神経細胞で細胞質凝集体を形成し、ミトコンドリア機能を障害することを in vitro で明らかにした(*論文 359)。迅速に遺伝子改変マウス個体を作製する方法を開発(*論文 361)する一方、ミトコンドリアヌクレオイドタンパク質と p53 遺伝子のダブルヘテロノックアウト(DKO)マウスを作製した。発がん率とミトコンドリア遺伝子の不安定性の関連性を検討した結果、有意な関連性を観察した。傍腫瘍小脳変性症は腫瘍に特異的な自己抗体により発症する。本症患者血清を用いて、エネルギー関連酵素のクレアチンキナーゼ B(CKB)を自己抗原として新規に同定し、診断マーカーとなることを示した(*論文 365、366)。

TCA 回路に由来する代謝物は発ガンや腫瘍進展に影響をあたえる。イソクエン酸脱水素酵素(IDH)の遺伝子変異は発ガンに寄与する一方、神経膠腫腫瘍では IDH 野生型に比べ IDH 変異型は予後良好であることが知られている。神経膠腫腫瘍の網羅的なメタボローム解析を行った結果、変異型 IDH を有する神経膠腫では脂肪酸代謝が極端に低下しており、脳腫瘍の進展にカルニチン代謝系が重要であることを初めて示した(*特許 6)。

3. がん遺伝子産物による炎症シグナル機構の解明【構造生化学部門】

プロトがん遺伝子産物 c-Myc とがん抑制遺伝子産物 Arf の機能的相互作用について解析した。Arf は c-Myc の結合タンパク質 DDX5 に結合し、c-Myc の形質転換能を抑制した。大腸がん検体を用いた解析では、腫瘍部位における c-Myc と DDX5 の協調的な高発現が観察された(*論文 378、382、学会 396)。DDX5 の新規結合蛋白質 NF-HEV/IL-33 は、がん化型 Ras 変異体(Ras (G12V))により発現が誘導され、Cyclin D1 のタンパク質合成に関与した(*論文 377、図書 33)。さらに、NF-HEV の下流で機能するチロシンキナーゼ MerTK を見出した(*学会 388)。一方、がん化型 Ras 変異体または Ras を介した細胞増殖刺激は ERK 経路、転写因子 STAT3 の活性化を介して ST2 の発現を誘導した(*論文 372、学会 391)。ST2 の強制発現は、がん化型 Ras 変異体の形質転換能に重要な役割を有することが明らかになった(*論文 369、380、383)。ST2/IL-33 シグナルを調節する新規タンパク質 IFITM3 を見出した(*学会 392)。さらに、Ras シグナルが転写因子 NF- κ B 活性化に与える影響を検討し、Ras (G12V)は TNF α 刺激による NF- κ B の活性化を顕著に増強すること、Ras (G12V)は p65/RelA サブユニットの Ser-276 のリン酸化を介して転写活性化を増強することを明らかにした。また、p65/RelA のリン酸化は、大腸がん病変部においても強く亢進していた(*学会 390、395、397)。さらに、新規 Ras ファミリー μ B-Ras について解析し、 μ B-Ras はその結合タンパク質 TRB3 との相互作用を介して Akt および mTORC1 の活性化を制御することを見出した(*学会 393、394)。

4. 肺がんにおける細胞間ネットワークと病態の関連の解析【統合病理学部門】

癌の浸潤・転移などの生物学的特性を制御する因子として間質との相互作用、微小環境が注目されている。癌細胞だけでなく、癌間質相互作用を制御するネットワークを解明することは、多様な形態、分子異常を示す肺癌を

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

体系的に理解し治療戦略を立てるうえで重要である。これまで分化形質やチロシンキナーゼの発現などから肺癌を上皮型と間葉型に大別できることを報告した。上皮型と間葉型ではドライバー変異の頻度や細胞形質に違いがあり、癌の発生・進展経路、分子標的、ひいては癌・間質相互作用において違いのあることが想定される。癌間質相互作用のネットワークを包括的に解析するため、ヒト肺癌細胞 40 株の xenograft を系統的に作成し、上皮型の癌細胞は線維性間質に富む腫瘍を形成するが、間葉型の癌細胞では髄様で線維性間質に乏しい腫瘍であることを示した。さらに次世代シーケンサによる Interactome 解析を行い、上皮型の癌では TGF- β 1/TGFR1, CXCL16/CXCR6, CX3CL1/CX3CR1 の系が、間葉型の癌細胞では Osteopontin/Integrin α の系がそれぞれ働いていることを明らかにした。

間葉型の肺腺癌では、EGFR、MET など既知のドライバー変異の頻度が低いが、クロマチンリモデリング因子の構成分子、なかでも BRG1、BRM の異常が間葉型の肺腺癌で特徴的にみられること、また未分化癌では、BRG1、BRM のほか ARID1A、ARID1B なども含めたクロマチンリモデリング因子の構成因子の発現喪失が複数みられることを示した(*論文 397)。間葉型の肺腺癌ではヒストン修飾酵素の1つである PRMT5 (Protein arginine methyltransferase 5)が高発現していることも明らかにした(*論文 393)。間葉型の肺腺癌では、epigenetics を介した細胞の分化ネットワークの異常が起きていることを示す結果と考えられた。上皮型の肺腺癌の多くは、肺のマスター遺伝子 TTF-1 陽性を示す TRU (terminal respiratory unit)-type の腺癌である。non-TRU-type の肺腺癌 43 例の全エクソーム解析を行い、マスター遺伝子 TTF-1 自体の失活変異が比較的高率 (7/43, 16.3%)みられることを明らかにした(*論文 388)。TTF-1 陰性の肺腺癌では、消化管上皮のマーカーを発現し分化異常を示す症例の頻度が高い。以上、肺腺癌が多彩な形態と分化形質を示す原因として、マスター遺伝子とクロマチンリモデリング因子の異常を介した分化ネットワークの異常が関与していることを示す結果と考えられた。

5. NASH から肝臓がんに至る細胞間ネットワーク解析 【消化器外科学部門】

褐色細胞腫患者の腫瘍周囲脂肪組織に褐色脂肪細胞が多く存在することに注目し、該当する患者から同意を得た上で腫瘍摘出時に採取した周囲の脂肪細胞を分離培養した。数回の継代培養の結果、約 30% の細胞で褐色細胞特異的に発現していることで知られている UCP1 遺伝子陽性を認めた。そこでヒト由来褐色脂肪細胞を用いた、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の抑制や肥満治療への可能性を模索すべく実験を行ってきた。しかし、培養細胞の褐色脂肪細胞の純度が低く、バルクでの vitro や vivo の実験ではその有効性は見いだせなかった。一方褐色脂肪細胞は、未だ特異的な膜抗原が確認されておらず、褐色脂肪細胞のみを分取可能とするため膜抗原の特定や純度の高い褐色脂肪細胞の収集を目指すこととした。今回新規に倫理委員会へ申請した後、該当する患者1名より脂肪細胞を入手した。前回同様数回の境内後、UCP-1 遺伝子に特異的に結合する GFP-aptamer を用いて FACS sorting を行うことにより、1.95% の GFP 陽性細胞を採取することができた。同細胞集団が褐脂肪細胞と考え現在その特徴を見るため網羅的遺伝子解析を行っている。

6. 婦人科がんの播種・転移・再発機構の解明 【婦人科学部門】

血管新生の調節因子である vasohibin を中心に研究を行い、vasohibin-1 を強制発現させた卵巣がん細胞では、動物モデルにおいて腫瘍血管新生が阻害され、それに伴い腫瘍増殖が抑制されることを見出した。また、卵巣がんの主要な進展様式である腹膜播種形成も低下し、最終的に宿主の生存期間が延長した(*論文 401)。さらに、これらの効果は、VEGF のみならず PDGF など様々な血管新生因子を産生する卵巣がんに対しても確認された(*論文 400)。一方、vasohibin-2 には、腫瘍血管新生促進作用があることが明らかとし、vasohibin-2 を標的とした siRNA をアテロコラーゲン保護下に卵巣がん動物モデルの腫瘍局所に投与したところ、腫瘍血管新生が阻害され、それに伴い腫瘍増殖が抑制された(*論文 402)。さらに vasohibin-2 活性部位を明らかにし、中和抗体の作成に成功した。この中和抗体は卵巣がん動物モデルに対し、抗 VEGF 抗体として臨床応用が進んでいる bevacizumab に匹敵する効果を示した(*論文 399)。

7. 消化管におけるがんや炎症性疾患の病態解析 【消化器内科学部門】

ダブルバルーン小腸内視鏡 (DBE) を用いることによりこれまで到達困難であった全小腸へのアプローチが可能になった。第 2 世代の DBE は CCD の改良とレンズ設計の工夫により 2mm までの近接観察と約 70 倍の拡大観察を可能にするとともに、チャネル径の拡大により治療内視鏡を容易にし (EN-580T)、内視鏡径の縮小により高い挿入効率を実現した (EN-580XP)。これを応用して炎症性腸疾患 (IBD) の病態

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

解明や腸管狭窄の内視鏡治療に関して研究を行っている。IBD の病態には腸内細菌叢と腸管免疫が深く関与していると考えられているが、これまでの報告は主に糞便を用いたものである。IBD の一つであるクローン病は病変の主座が小腸であることから、小腸細菌叢が病態に関与していると考えられる。我々は慶応義塾大学と理化学研究所との共同研究において、DBE によって得られた小腸サンプルから次世代シーケンサーを用いた 16S rRNA メタ解析を行うことにより、疾患特異的な小腸細菌叢組成の解明を目指し研究を続けている。一方、潰瘍性大腸炎に合併する癌 (colitis-associated colorectal cancer; CAC) は形態診断単独での早期発見がしばしば困難である。潰瘍性大腸炎患者の正常に見える大腸粘膜における p53 の異常を調べることで dysplasia-carcinoma pathway の発動を評価し、その臨床的意義を検討することで CAC に対する早期介入の可能性を探るための研究が進行中である。

8. 歯周組織幹細胞の発生・分化・再生機構の解明 【細胞生物研究部】

歯根膜は、咬合圧の受容や緩衝を担う靱帯組織であり、歯小嚢に由来する。歯小嚢からは繊維芽細胞、骨芽細胞、セメント芽細胞、などの複数の細胞種が生じることが知られている。それらへの分化能をもつ、多能性幹細胞が歯根膜内に存在する。本研究はホメオボックス転写因子である SIX1 が細胞増速や分化の key 遺伝子であるとの仮説のもとに、マウス歯根膜細胞およびヒト培養歯根膜細胞における SIX1 の発現、機能を解析し、幹細胞の増殖と分化の制御機構の解明と、歯根膜幹細胞を用いた再生医療への応用をめざした基盤確立を目的とした。以下が主な成果である。1) マウス臼歯歯根膜の成熟に至る過程での *Six1* の発現と細胞増殖との相関、*Six1* 欠損マウスと野生型マウスにおける、歯小嚢での細胞増速効率の比較、およびヒト培養歯根膜細胞における SIX1 の増殖制御能について明らかにした (* 論文 434、学会 447、466)。2) *Six1* 欠損マウス下顎切歯における舌-唇軸非対称形成の異常、象牙芽細胞分化異常、切歯プラコードのパターン形成異常を明らかにした (* 学会 428)。3) 成体での SIX1 の機能解析を可能とする *Six1* 条件付きノックアウトマウス (*Six1*-floxed) の系統化に成功した (理化学研究所との共同研究)。

9. 大型動物を用いたヒト造血システムの構築と解析 【再生医学研究部】

ヒト造血幹細胞は、その自己複製および分化に際して、骨髄など体内の微小環境との相互作用を必須とする。したがってヒト造血幹細胞のアッセイには、動物個体を用いたヒト造血再構築実験が必須である。これには、従来、免疫不全マウスを用いた評価が一般的であった。今回、ヒツジ胎仔を用いたヒト造血幹細胞の生体内評価系 (ヒツジ子宮内移植系) を開発した。すなわち、ヒツジ体内においてヒト造血幹細胞を長期的に (3 年以上にわたって) 維持できた (* 論文 450、学会 490、501、505、510、511、515)。これほど長期間にわたるヒト造血幹細胞の維持は小型実験動物では困難であり、大型動物実験のメリットである。また、本実験系を利用し、CD34 陰性分画にも造血幹細胞が存在することを証明した (* 論文 448)。さらに、ヒツジ胎仔肝臓の微小環境を利用する本実験系をヒト iPS 細胞の造血分化誘導法として応用し、ヒト iPS 細胞由来造血幹細胞をもつヒツジの作製に成功した (* 学会 470、471、474、特許 21)。ヒツジ胎仔肝臓の微小環境において、移植細胞からは骨髄球系はもとより赤芽球系、巨核球系、リンパ球系細胞といった多系統の細胞への分化が観察された。また、造血幹細胞の発生に必須である Notch1 経路が活性化され、汎血球マーカーである CD45 が陽性化し、CD45 陽性細胞は骨髄内へと移行することがわかった。さらに、ヒツジ体内で発生したヒト iPS 細胞由来造血は、移植から 3 年以上の長期にわたって維持された。以上から、ヒツジ胎仔肝臓内の微小環境を利用して、ヒト iPS 細胞から造血幹細胞を分化誘導することに成功した。

10. iPS・間葉系幹細胞を用いた出血性疾患に対する新規治療法の開発 【病態生化学部門】

細胞骨格蛋白質 Vinculin が移植後の造血幹細胞維持・Repopulation に必須の因子であることを見出した (Ohmori *et al.*, J Biol Chem 2010)。Vinculin による造血幹細胞機能の制御機構を明らかにするため、マイクロアレイ解析を用いて Vinculin 抑制により造血幹細胞 mRNA 発現が著明に低下する因子として転写因子 Foxf1a を同定した。本研究の目的は、Foxf1a ノックアウトマウスを作成し、生体における Foxf1a の役割を明らかにすることである。Foxf1a ノックアウトマウスは胎生致死なため、コンディショナルノックアウトマウスを作製した。Foxf1a は肺組織での発現が最も高く、ついで腸管、脾臓、肝臓での発現が高かった。発現パターンを参考にノックアウトマウスの作製をさらに進めた。造血細胞誘導性 Cre 発現 (Mx-Cre) マウスを作製した。Foxf1a 欠損造血幹細胞は、移植後の生着が低下し、細胞周期では S 期が亢進した。その結

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

果、Foxf1a 欠損により、骨髄細胞数の増加を認めた。以上より、Foxf1a は造血幹細胞の静止期を保ち、造血幹細胞機能を維持すると考えられた。血小板／巨核球特異的欠損マウスは、インテグリンの発現、血小板機能に影響を認めなかった(*学会 519)。線維芽細胞特異的 Cre 発現(S100a4-Cre)、心筋細胞 Cre 発現(Myh6-Cre)発現、肺胞上皮特異的 Cre 発現(Nx2.1-Cre)マウスはメンデルの法則に基づき生誕した。また予備的結果として、Foxf1a が非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH)の線維化に関与するデータが得られてきている。

11. キメラ抗原受容体を利用した新規養子免疫遺伝子療法の確立【遺伝子治療研究部】

難治性B細胞性悪性リンパ腫・白血病を対象としたキメラ抗原受容体(chimeric antigen receptor: CAR)発現Tリンパ球を用いた養子免疫遺伝子療法の基礎研究および臨床開発を行った。基礎研究としては、移植後再発B細胞性急性リンパ性白血病を対象に、多くの症例に適応可能なユニバーサル型CAR導入T細胞の開発を目指した。その際には移植片対宿主病(GVHD)の原因となる内在性T細胞受容体(TCR)の発現を抑制する方法の開発が必要であり、そのための手段としてCRISPR/Cas9システムの有効性を証明することができた。臨床開発としては臨床研究実施計画書「CD19抗原特異的キメラ抗原受容体発現Tリンパ球を用いた難治性B細胞性悪性リンパ腫に対する遺伝子治療臨床研究」が学内IRBと厚生労働省での承認を経て計7例の患者登録に及び、当該患者より採取したリンパ球を元にCAR導入T細胞を作製した。そのうち2例に対して輸注を実施するに至った。輸注後はこれまでのところ順調に推移しており、重篤な有害事象等は認めていない。

<優れた成果が上がった点>

本戦略事業により、数多くの優れた研究成果をあげることができた。例えば、慢性炎症領域では、NCDにおける自然炎症経路インフラマソームの制御機構の解明や希少糖アルロースによる肥満・糖代謝への作用機序の解明、神経ペプチド産生ニューロンの新たな可視化・定量法の開発、内臓脂肪蓄積に関連する遺伝因子 GIP/GIPR の同定、コレステロールエステル水解酵素 NCEH1 の同定とその役割の解明、慢性腎臓病・老化における新たな治療標的物質 CPP の発見とその治療への応用、深層学習による糖尿病網膜症病期分類の開発、組織慢性炎症や骨髄造血における新たな分子イメージング法の開発、深層学習による糖尿病網膜症病期分類の開発などがある。一方、がん・幹細胞領域では、抗がん剤耐性におけるエピジェネティック機構の解明やがん関連小脳変性症の新規自己抗原 CKB の同定、羊を利用したヒト iPS 細胞からの造血幹細胞の分化誘導、新規 Vasohibin 中和抗体の開発とその抗血管新生療法への応用、CAR 導入 T 細胞を用いた難治性造血器腫瘍に対する新規遺伝子治療などがあり、いずれも今後の発展が期待できる成果である。

<課題となった点>

慢性炎症領域、がん・幹細胞領域ともに、十分な質と量の成果発表が行われており、この点では当初の計画・目標を上回る研究成果を達成していると判断される。また、各部門とも、小さな課題は散見されたが、概ね順調に進展していると考えている。

<自己評価の実施結果と対応状況>

研究グループの進捗状況確認のための成果発表会を定期的を開催するとともに、3年目と5年目には各研究グループが成果を発表する全学的な公開シンポジウムを開催して、研究グループ相互による自己評価を行っている。また、本研究プロジェクトの中核を担っている分子病態治療研究センター主催の国際シンポジウムを毎年開催し、国内外の関連研究者を招聘して研究成果に関する議論を活発に行っている。この国際シンポジウムのテーマは、本研究プロジェクトと関連したテーマが選定されており、本戦略事業の促進に大きく寄与することができたと考えている。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

国際雑誌への原著論文発表、学会発表および特許申請により、客観的に評価している。また、HPでの情報公開やメディアへの発表も行い、関連する研究者や社会への還元を積極的に行うことで、外部から

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

の客観的な評価を受けることができた。一方、全学的な本戦略事業のシンポジウムを3年目と5年目に、国際シンポジウムを毎年開催している。これらは全て公開シンポジウムとして開催し、外部からの評価を受けている。また、本プロジェクトに関連する外部専門家として、戦略事業公開シンポジウムでは1名の外部講師を、国際シンポジウムでは毎年5名（に国内から3名、海外から2名）の研究者を招聘して、研究成果に関する議論を活発に行い、その評価結果をフィードバックすることにより、本研究プロジェクトの推進に努めてきた。これらのシンポジウムでは他の大学・研究機関からの参加者も多く、活発な議論が行われた。また、当該領域で国際的に評価の高い招待講演者からも高評価を受けたことから、客観的に評価されたものと考えられる。

<研究期間終了後の展望>

本研究プロジェクト5年間で、本学でのNCD研究に関する基盤整備が進行し、数多くの成果をあげることに成功した。自治医科大学では、平成29年度から文科省・私立大学研究ブランディング事業に採択されている。このブランディング事業では、本学の使命である「地域住民の医療・福祉の増進」に貢献するため、地域において最も重要な課題の一つである「高齢化（老化）」を取り上げ、これに関連する疾患を減少させる「実践的な抗加齢医学の創出と普及（健康長寿）」を目指すことで、本学のブランディングを確立する事業計画となっている。老化に関連する疾患のほとんどはNCDに属すると考えられることから、本学の将来ビジョンを踏まえて、本戦略事業で培ってきた本学独自のNCD研究の成果を「地域社会においても実践できる抗加齢医学」の形にさらに発展させて行くことを希望している。

<研究成果の副次的効果>

本研究事業によって、特許申請や取得がなされた。（※別添表参照）

メディア報道としては、ヒツジ等の大型動物を用いた再生医療の研究成果に関して、日本経済新聞や読売新聞、下野新聞等で報道された。また、肥満・生活習慣病の研究成果に関して、日本経済新聞や朝日新聞、下野新聞、時事通信等で報道された。

トランスレーショナル・リサーチ等の実用化については、すでに本研究プロジェクトの成果を利用した臨床試験が開始されている。また、今後の臨床応用や実用化が期待されるものとしては、慢性腎不全の重症度を評価するバイオマーカーとしての血中CPPや遺伝子ノックアウトブタの作製、肥満・生活習慣病に関する各種測定方法や創薬シーズなどがある。

12 キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

- | | | |
|------------|--------------|----------|
| (1) 非感染性疾患 | (2) 慢性炎症 | (3) がん |
| (4) 幹細胞 | (5) 生活習慣病 | (6) 微小環境 |
| (7) ストレス応答 | (8) 生体ネットワーク | |

13 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付すこと。

<雑誌論文>

※別添表参照

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

<図書>

※別添表参照

<学会発表>

※別添表参照

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

自治医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム2015

(2015 年 7 月 6 日 開催)

自治医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム2017

(2017 年 7 月 10 日 開催)

第 10 回 自治医科大学国際シンポジウムーTranslational Epigenomicsー

(2013 年 10 月 17 日 開催)

第 11 回 自治医科大学国際シンポジウムーInflammation, Cancer and Microenvironmentー

(2014 年 10 月 30 日 開催)

第 12 回 自治医科大学国際シンポジウムーFrontiers in Translational Neuroscienceー

(2015 年 11 月 20 日 開催)

第 13 回 自治医科大学国際シンポジウム

ーInnovative Technologies for Developmental-and Aging-related Researchー

(2016 年 10 月 28 日 開催)

第 14 回 自治医科大学国際シンポジウムーMolecular Target Therapy and Diagnosticsー

(2017 年 10 月 27 日 開催)

(URL: <http://www.jichi.ac.jp/kenkyushien/strategic/ncd.html>)

14 その他の研究成果等

1. 高橋将文 第 35 回日本炎症再生医学会・優秀演題賞
2. 高橋将文 最新医学 Vol.69. No.6 トップランナーに聞く 最先端の医療に挑む若手研究者へのインタビュー 新たな自然炎症経路・インフラマソームの研究(2014 年 6 月 10 日)
3. 矢田俊彦 毎日新聞 希少糖「アルロース」、過食など改善に効果、自治医大など 創薬への応用期待(2018 年 1 月 10 日)
4. 矢田俊彦 読売新聞 希少糖 肥満改善仕組み解明、自治医大などグループ、糖尿病治療に期待(2018 年 1 月 10 日)
5. 矢田俊彦 下野新聞 希少糖作用の仕組みを解明、食事療法や創薬 応用期待、経口摂取で糖尿病改善、自治医大など研究チーム(2018 年 1 月 10 日)
6. 矢田俊彦 日本経済新聞 希少糖の一種に肥満を防ぐ機能、自治医大、マウス実験(2018 年 1 月 10 日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

日)	
7.	<u>矢田俊彦</u> 朝日新聞 希少糖使い肥満・糖尿病改善に、自治医大の矢田教授ら、マウス実験で突き止める(2018年1月10日)
8.	<u>矢田俊彦</u> 毎日新聞 受容体阻害で効率アップ、1型糖尿病移植療法、自治医大矢田教授らグループ豪と共同研究(2017年9月13日)
9.	<u>矢田俊彦</u> 下野新聞 膵島移植効率化へ、自治医大・矢田教授・出崎准教授、受容体を欠損させ効果(2017年9月7日)
10.	<u>矢田俊彦</u> 読売新聞 高血糖で食欲抑制作用、自治医科大学など分泌物質効果発見、糖尿病治療に期待(2017年6月27日)
11.	<u>矢田俊彦</u> 読売新聞 善玉ホルモン血糖値が鍵、自治医科大学など発見、食欲作用肥満治療などへ期待(2016年9月4日)
12.	<u>矢田俊彦</u> 日本経済新聞 食欲調整酵素のしくみを解明、自治医大など(2015年7月6日)
13.	<u>矢田俊彦</u> 日経産業新聞 脳内酵素、食欲を低減、副作用少ない薬開発に光、自治医大など仕組み解明(2015年7月6日)
14.	<u>矢田俊彦</u> 下野新聞 肥満・糖尿病治療に光、ラットでメカニズム解明、脳内物質が内蔵脂肪減-自治医大・矢田教授ら(2013年10月9日)
15.	<u>矢田俊彦</u> 朝日新聞 インスリン新たな経路発見(2013年7月15日)
16.	<u>矢田俊彦</u> 日本工業新聞 膵臓分泌のインスリン、神経経由で脳に情報—自治医大が発見—(2013年6月28日)
17.	<u>矢田俊彦</u> 時事通信 膵臓神経から脳へ＝インスリン感知に新ルート—増強剤で肥満治療も—(2013年6月27日)
18.	<u>尾仲達史</u> 安らぎをもたらす脳内ホルモン—オキシトシン—(後編)オキシトシンのストレス・社会行動における働き. 中学保健ニュース 第1655号:2-3, 2016. 高校保健ニュース 第560号:2-3, 2016
19.	<u>尾仲達史</u> 安らぎをもたらす脳内ホルモン—オキシトシン—(前編)オキシトシンの基本的な働き. 中学保健ニュース 第1652号:2-3, 2016. 高校保健ニュース 第557号:2-3, 2016
20.	<u>花園豊</u> RADIO BERRY FM 栃木 B-UP Morning Update 栃木放射線 presents 教えてドクター(2017年7月3日、7月10日、7月17日、7月24日、7月31日)
21.	<u>花園豊</u> 日経産業新聞 難病克服へ iPS 活用 大型動物で再生医療研究(2015年2月10日)
22.	<u>花園豊</u> 日本経済新聞 万能細胞受精卵に近づく 培養容易に実用化へ一歩(2014年11月23日)
23.	<u>花園豊</u> 日本経済新聞 「臓器工場」実用化へ動く 動物の体内で人間の臓器を作る(2014年8月4日)
24.	<u>花園豊</u> 下野新聞 「ヒト型」を「マウス型」に 培養、分化能力に違い(2014年1月31日)
25.	<u>花園豊</u> 日本経済新聞 iPS 細胞の正体に迫る がん化と紙一重、謎多く(2013年12月22日)
26.	<u>花園豊</u> 読売新聞 豚使う細胞実験容易に センター増設手術支援ロボも(2013年12月6日)
27.	<u>花園豊</u> 日経北関東経済面 再生医療拠点を強化 プタ用手術ロボ導入(2013年12月6日)
28.	<u>花園豊</u> 時事通信社 免疫不全ブタ、半年で作製＝再生医療研究を促進—明治大など(2013年10月10日)
29.	<u>花園豊</u> 日本経済新聞 再生医療研究に力 北関東の中核拠点めざす(2013年9月7日)
30.	<u>花園豊</u> 日本経済新聞 iPS 細胞から赤血球 輸血・貧血向け製剤(2013年8月27日)
31.	<u>花園豊</u> 下野新聞 ヒツジから膨らむ想像(2013年8月26日)
32.	<u>花園豊</u> 下野新聞 動物体内でヒト血液 iPS 研究本県でも進む(2013年8月20日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

33. 花園豊 iPS 細胞が拓く新しい医療:現状と課題 平成 25 年度自治医科大学公開講座(下野)(2013 年 7 月 13 日)
34. 花園豊 下野新聞 iPS 実用化へ5拠点 技術開発、自治医大に支援(2013 年 7 月 3 日)
35. 黒尾誠 NHK スペシャル「人体」第1集に出演
36. 黒尾誠 アステラス製薬(株)との共同研究契約「急性腎障害および慢性腎臓病の新規創薬標的としての Klotho-FGF 内分泌系」
37. 西村智 NHK サイエンスゼロ「ミクロの限界を超えろ! 解き明かされる生命の神秘」(2017 年 9 月 24 日)
38. 西村智 可視化情報全国講演会 ベストプレゼンテーション賞[京都](2015 年 10 月 10 日)
39. 西村智 サイトメトリ学会 最優秀発表賞[東京](2015 年 7 月 11 日)
40. 西村智 動脈硬化学会 優秀ポスター賞[仙台](2015 年 7 月 10 日)
41. 西村智 花王研究奨励賞「表面の科学」医学・生物学分野[東京](2015 年 6 月 5 日)
42. 西村智 総合健診医学会第 43 回学術大会長奨励賞[富山](2015 年 2 月 20 日)
43. 西村智 第 9 回日本免疫学会研究奨励賞(2014 年 12 月 11 日)
44. 西村智 第 75 回日本血液学会学術集会奨励賞[大阪](2014 年 10 月 31 日)
45. 西村智 Royal Microscopy Society 2014 Scientific Imaging Competition, Short Video, 1st prize(2014 年 6 月 30 日)
46. 西村智 Milwaukee, SSC 2014 Best Oral Award(2014 年 6 月 23 日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

組織に、連携を計る名目的でない実施リーダーが必要ではないか。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

留意事項として、組織体制についての指摘があったことから、研究代表者である学長の下に実施リーダーとして、慢性炎症領域では高橋将文(炎症・免疫研究部)、がん・幹細胞領域では古川雄祐(幹細胞制御研究部)の2名を配置した。この2名の実施リーダーが、各研究参加グループの定期的な進捗状況の確認や、基礎と臨床における共同研究の橋渡しなど、本研究プロジェクトのハブ的な役割を果たし、参加研究グループおよび各研究領域の連携を強化している。また、定期的な成果発表会、中間・最終報告のためのシンポジウム等についても、この2名が中心となって企画・運営しており、本研究プロジェクトの効率的な運営に大きく貢献している。

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし。

1 3 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

《 雑 誌 論 文 》

（部門名）ウイルス学部門

査読の有無	通し番号	
有	*論文1	Nagashima S, Takahashi M, Kobayashi T, Tanggis, Nishizawa T, Nishiyama T, Primadharsini PP, Okamoto H : Characterization of the quasi-enveloped hepatitis E virus particles released by the cellular exosomal pathway. <i>J Virol</i> 91:e00822-17, 2017
有	論文2	Nakano T, Takahashi M, Takahashi K, Nagashima S, Suzuki Y, Nishigaki Y, Tomita E, Okano H, Oya Y, Shiraki K, Takase K, Sugimoto K, Koyama J, Mizuo H, Ikezawa K, Aikawa T, Arai M, Okamoto H : Hepatitis E virus subtype 3f strains isolated from Japanese hepatitis patients with no history of travel to endemic areas--the origin analyzed by molecular evolution. <i>Virology</i> 513: 146-152, 2017
有	論文3	Primadharsini PP, Miyake M, Kunita S, Nishizawa T, Takahashi M, Nagashima S, Tanggis, Ohnishi H, Kobayashi T, Nishiyama T, Jirintai S, Okamoto H : Full-length genome of a novel genotype 3 hepatitis E virus strain obtained from domestic pigs in Japan. <i>Virus Res</i> 240: 147-153, 2017
有	論文4	Tsatsralt-Od B, Primadharsini PP, Nishizawa T, Ohnishi H, Nagashima S, Takahashi M, Jirintai S, Nyamkhuu D, Okamoto H : Distinct changing profiles of hepatitis A and E virus infection among patients with acute hepatitis in Mongolia: The first report of the full genome sequence of a novel genotype 1 hepatitis E virus strain. <i>J Med Virol</i> 90: 84-92, 2018
有	論文5	Yokoyama K, Kumagai H, Takahashi M, Nagashima S, Okamoto H , Yamagata T: Occult hepatitis B virus infection in immunized children born to carrier mothers. <i>Pediatr Int</i> 59: 1010-1016, 2017
有	論文6	Jiang X, Kanda T, Haga Y, Sasaki R, Nakamura M, Wu S, Nakamoto S, Shirasawa H, Okamoto H , Yokosuka O: Glucose-regulated protein 78 is an antiviral against hepatitis A virus replication. <i>Exp Ther Med</i> 13: 3305-3308, 2017
有	論文7	Suzuki K, Kumagai I, Yoshida Y, Miyasaka A, Takikawa Y, Kamiya R, Kondo K, Kato A, Chiba T, Okamoto H : Asymptomatic acute hepatitis E in a female patient with ulcerative colitis. <i>Clin J Gastroenterol</i> 10: 255-260, 2017
有	論文8	Yamazaki Y, Naganuma A, Arai Y, Takeuchi S, Kobayashi T, Takakusagi S, Hatanaka T, Hoshino T, Namikawa M, Hashizume H, Takizawa D, Ohyama T, Suzuki H, Horiguchi N, Takagi H, Sato K, Kakizaki S, Kusano M, Nagashima S, Takahashi M, Okamoto H , Yamada M: Clinical and virological features of acute hepatitis E in Gunma prefecture, Japan between 2004 and 2015. <i>Hepatol Res</i> 47: 435-445, 2017
有	論文9	Miura M, Inoue J, Tsuruoka M, Nishizawa T, Nagashima S, Takahashi M, Shimosegawa T, Okamoto H : Full-length genomic sequence analysis of new subtype 3k hepatitis E virus isolates with 99.97% nucleotide identity obtained from two consecutive acute hepatitis patients in a city in northeast Japan. <i>J Med Virol</i> 89: 1116-1120, 2017

有	論文10	Yamaguchi Y, Takagi H, Suzuki Y, Maruhashi K, Kosone T, Kakizaki S, Sato K, Yamada M, Nagashima S, Takahashi M, Okamoto H : Autochthonous sporadic acute hepatitis E caused by two distinct subgenotype 3b hepatitis E virus strains with only 90% nucleotide identity. <i>Clin J Gastroenterol</i> 10: 168-173, 2017
有	論文11	Satake M, Matsubayashi K, Hoshi Y, Taira R, Furui Y, Kokudo N, Akamatsu N, Yoshizumi T, Ohkohchi N, Okamoto H , Miyoshi M, Tamura A, Fuse K, Tadokoro K: Unique clinical courses of transfusion-transmitted hepatitis E in patients with immunosuppression. <i>Transfusion</i> 57: 280-288, 2017
有	論文12	Miura Y, Kanda T, Yasui S, Takahashi K, Haga Y, Sasaki R, Nakamura M, Wu S, Nakamoto S, Arai M, Nishizawa T, Okamoto H , Yokosuka O: Hepatitis A virus genotype IA-infected patient with marked elevation of aspartate aminotransferase levels. <i>Clin J Gastroenterol</i> 10: 52-56, 2017
有	論文13	Nwe Win N, Kanda T, Nakamura M, Nakamoto S, Okamoto H , Yokosuka O, Shirasawa H: Free fatty acids or high-concentration glucose enhances hepatitis A virus replication in association with a reduction in glucose-regulated protein 78 expression. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 483: 694-699, 2017
有	論文14	Sato K, Hosonuma K, Yamazaki Y, Kobayashi T, Takakusagi S, Horiguchi N, Kakizaki S, Kusano M, Ohnishi H, Okamoto H , Yamada M: Combination therapy with ombitasvir/paritaprevir/ritonavir for dialysis patients infected with hepatitis C virus: A prospective multi-institutional study. <i>Tohoku J Exp Med</i> 241: 45-53, 2017
有	論文15	Nishizawa T, Hoshino T, Naganuma A, Kobayashi T, Nagashima S, Takahashi M, Takagi H, Okamoto H : Enhanced pregenomic RNA levels and lowered precore mRNA transcription efficiency in a genotype A hepatitis B virus genome with C1766T and T1768A mutations obtained from a fulminant hepatitis patient. <i>J Gen Virol</i> 97: 2643-2656, 2016
有	論文16	Takahashi M, Kobayashi T, Tanggis, Jirintai S, Mulyanto, Nagashima S, Nishizawa T, Kunita S, Okamoto H : Production of monoclonal antibodies against the ORF3 protein of rat hepatitis E virus (HEV) and demonstration of the incorporation of the ORF3 protein into enveloped rat HEV particles. <i>Arch Virol</i> 161: 3391-3404, 2016
有	論文17	Tanaka T, Akamatsu N, Sakamoto Y, Inagaki Y, Oshiro Y, Ohkohchi N, Okamoto H , Kokudo N: Treatment with ribavirin for chronic hepatitis E following living donor liver transplantation: A case report. <i>Hepatol Res</i> 46: 1058-1059, 2016
有	論文18	Nagashima S, Morishima K, Okamoto H , Ishibashi S: Possible involvement of PCSK9 overproduction in hyperlipoproteinemia associated with hepatocellular carcinoma: A case report. <i>J Clin Lipidol</i> 10: 1045-1049, 2016
有	*論文19	Nagashima S, Kobayashi T, Tanaka T, Tanggis, Jirintai S, Takahashi M, Nishizawa T, Okamoto H : Analysis of adaptive mutations selected during the consecutive passages of hepatitis E virus produced from an infectious cDNA clone. <i>Virus Res</i> 223: 170-180, 2016

有	論文20	Hoshino T, Takagi H, Suzuki Y, Naganuma A, Sato K, Kakizaki S, Nishizawa T, Okamoto H , Yamada M: Fatal fulminant hepatitis caused by infection with subgenotype A1 hepatitis B virus with C1766T/T1768A core promoter mutations. <i>Clin J Gastroenterol</i> 9: 160-167, 2016
有	論文21	Kurihara T, Yoshizumi T, Itoh S, Harimoto N, Harada N, Ikegami T, Inagaki Y, Oshiro Y, Ohkohchi N, Okamoto H , Maehara Y: Chronic hepatitis E virus infection after living donor liver transplantation via blood transfusion: a case report. <i>Surg Case Rep</i> 2: 32, 2016
有	論文22	Kobayashi T, Takahashi M, Tanggis, Mulyanto, Jirintai S, Nagashima S, Nishizawa T, Okamoto H : Characterization and epitope mapping of monoclonal antibodies raised against rat hepatitis E virus capsid protein: An evaluation of their neutralizing activity in a cell culture system. <i>J Virol Methods</i> 233: 78-88, 2016
有	論文23	Smith DB, Simmonds P, Izopet J, Oliveira-Filho EF, Ulrich RG, Johne R, Koenig M, Jameel S, Harrison TJ, Meng XJ, Okamoto H , Van der Poel WH, Purdy MA: Proposed reference sequences for hepatitis E virus subtypes. <i>J Gen Virol</i> 97: 537-542, 2016
有	論文24	Tsatsralt-Od B, Baasanjav N, Nyamkhuu D, Ohnishi H, Takahashi M, Kobayashi T, Nagashima S, Nishizawa T, Okamoto H : Molecular analysis of hepatitis A virus strains obtained from patients with acute hepatitis A in Mongolia, 2004-2013. <i>J Med Virol</i> 88: 622-630, 2016
有	論文25	Tsatsralt-Od B, Baasanjav N, Nyamkhuu D, Ohnishi H, Takahashi M, Okamoto H : Prevalence of hepatitis viruses in patients with acute hepatitis and characterization of the detected genotype 4 hepatitis E virus sequences in Mongolia. <i>J Med Virol</i> 88: 282-291, 2016
有	論文26	Inagaki Y, Oshiro Y, Tanaka T, Yoshizumi T, Okajima H, Ishiyama K, Nakanishi C, Hidaka M, Wada H, Hibi T, Takagi K, Honda M, Kuramitsu K, Tanaka H, Tohyama T, Ikegami T, Imura S, Shimamura T, Nakayama Y, Urahashi T, Yamagishi K, Ohnishi H, Nagashima S, Takahashi M, Shirabe K, Kokudo N, Okamoto H , Ohkohchi N: A nationwide survey of hepatitis E virus infection and chronic hepatitis E in liver transplant recipients in Japan. <i>EBioMedicine</i> 2: 1607-1612, 2015
有	論文27	Kanda T, Yasui S, Nakamura M, Arai M, Sasaki R, Haga Y, Wu S, Nakamoto S, Okamoto H , Yokosuka O: Recent trend of hepatitis E virus infection in Chiba area, Japan: 3 of 5 cases with rheumatoid arthritis. <i>Case Rep Gastroenterol</i> 9: 317-326, 2015
有	論文28	Kanda T, Sasaki R, Nakamoto S, Haga Y, Nakamura M, Shirasawa H, Okamoto H , Yokosuka O: The sirtuin inhibitor sirtinol inhibits hepatitis A virus (HAV) replication by inhibiting HAV internal ribosomal entry site activity. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 466: 567-571, 2015
有	論文29	Inagaki Y, Oshiro Y, Imanishi M, Ishige K, Takahashi M, Okamoto H , Ohkohchi N: Acute infection by hepatitis E virus with a slight immunoglobulin M antibody response. <i>Clin J Gastroenterol</i> 8: 247-252, 2015

有	論文30	Yazaki Y, Sugawara K, Honda M, Ohnishi H, Nagashima S, Takahashi M, Okamoto H : Characteristics of 20 patients with autochthonous acute hepatitis E in Hokkaido, Japan: First report of bilateral facial palsy following the infection with genotype 4 hepatitis E virus. <i>Tohoku J Exp Med</i> 236: 263-271, 2015
無	論文31	岡本宏明 : E型肝炎ウイルスの培養系の確立とその展開. <i>医学のあゆみ</i> 262:1293-1298, 2017
無	論文32	岡本宏明 : E型肝炎の新展開 —感染源の多様性と慢性化. <i>医学のあゆみ</i> 261:830-831, 2017
有	論文33	稲垣克哲、高木慎太郎、本田洋士、井上基樹、森 奈美、川上広育、川上由育、川上万里、 岡本宏明 、辻 恵二、柘植雅貴、茶山一彰：原発性胆汁性胆管炎に genotype3b型E型急性肝炎を合併した1例. <i>肝臓</i> 58:183-190, 2017
無	論文34	岡本宏明 : A, E型肝炎. <i>日内会誌</i> 106:433-438, 2017
無	論文35	岡本宏明 : E型肝炎診断におけるHEV RNAの有用性. <i>肝胆膵</i> 74:241-247, 2017
有	論文36	岡野 宏、大矢由美、白木克哉、高瀬幸次郎、中野達徳、高橋雅春、 岡本宏明 : 三重県で発生した本邦では稀なHEV subgenotype 3 f株による急性E型肝炎の1例. <i>肝臓</i> 58: 53-59, 2017
有	論文37	宮崎慎一、野田裕之、森田照美、甲斐 弦、大廻あゆみ、小林富成、長嶋茂雄、高橋雅春、水尾仁志、 岡本宏明 : 猪胆（乾燥猪胆嚢）からの感染が疑われた急性E型肝炎の1例輸血によるE型急性肝炎の1例. <i>肝臓</i> 57: 606-613, 2016
有	論文38	小林 剛、佐藤 賢、山崎勇一、大山達也、堀口昇男、柿崎 暁、草野元康、山田正信、横濱章彦、 岡本宏明 : 輸血によるE型急性肝炎の1例. <i>日内会誌</i> 105:2215-2220, 2016
有	論文39	岡野 宏、前川直志、小林 真、山脇 真、二宮 淳、中野達徳、浦城聡子、田中秀明、白木克哉、竹井謙之、高橋雅春、 岡本宏明 : 三重県で発生したHEV genotype 1a株による急性E型肝炎の2例. <i>肝臓</i> 57: 81-88, 2016
無	論文40	岡野 宏、中野達徳、 岡本宏明 : 人畜共通感染症としてのE型肝炎. <i>肝胆膵</i> 71: 1311-1317, 2015
有	論文41	森田 進、吉澤 要、内山夏紀、藤森一也、滋野 俊、 岡本宏明 : 同一地区内で発症した遺伝子配列の異なるE型肝炎ウイルス株による急性肝炎の2例. <i>肝臓</i> 56: 625-627, 2015
有	論文42	清水省吾、杉原潤一、鈴木祐介、西垣洋一、高橋雅春、高橋和明、中野達徳、林 秀樹、加藤則廣、富田栄一、新井雅裕、 岡本宏明 : 岐阜市内の同一飲食店で異なる時期にブタレバーとブタ心臓を生食した後に孤発したE型急性肝炎の2症例. <i>肝臓</i> 56: 617-620, 2015

無	論文43	長嶋茂雄、 <u>岡本宏明</u> ：E型肝炎の現状. <i>臨床検査</i> 59：1380-1386, 2015
有	論文44	中村仁彦、楠元寿典、落合俊雅、川越富夫、田井 博、松岡 均、中野達徳、永田賢治、下田和哉、 <u>岡本宏明</u> ：12年前から宮崎県に存続している遺伝子型3型E型肝炎ウイルスによるE型急性肝炎の2症例—1例での急性末梢性顔面神経麻痺の合併—. <i>日消誌</i> 112:1533-1541, 2015
無	論文45	<u>岡本宏明</u> ：輸血後HEV感染の発生. <i>検査と技術</i> 43：752-755, 2015
無	論文46	<u>岡本宏明</u> ：豚肉を介したE型肝炎ウイルスの感染リスクを回避するために. <i>PIG JOURNAL</i> 18：19-23, 2015
有	論文47	Takeuchi S, Yamazaki Y, Sato K, Takizawa D, Yamada M, and <u>Okamoto H</u> : Full genome analysis of a European-type genotype 3 hepatitis E virus variant obtained from a Japanese patient with autochthonous acute hepatitis E. <i>J Med Virol</i> , 87: 1067-1071, 2015
有	論文48	Nakano T, Takahashi K, Takahashi M, Nishigaki Y, Watanabe N, Ishida S, Fujimoto S, Kato H, Okano H, Takei Y, Ayada M, Tomita E, Arai M, <u>Okamoto H</u> , and Mishiro S: Investigating the origin and global dispersal history of hepatitis E virus genotype 4 using phylogeographic analysis. <i>Liver Int</i> , 36(1): 31-41, 2016 January
有	論文49	Li C, Barnes E, Newton PN, Fu Y, Vongsouvath M, Klennerman P, <u>Okamoto H</u> , Abe K, Pybus OG, and Lu L: An expanded taxonomy of hepatitis C virus genotype 6: Characterization of 22 new full-length viral genomes. <i>Virology</i> , 476: 355-363, 2015
有	論文50	Kamitsukasa H, Iri M, Tanaka A, Nagashima S, Takahashi M, Nishizawa T, and <u>Okamoto H</u> : Spontaneous reactivation of hepatitis B virus (HBV) infection in patients with resolved or occult HBV infection. <i>J Med Virol</i> , 87: 589-600, 2015
有	論文51	Jiang X, Kanda T, Nakamoto S, Saito K, Nakamura M, Wu S, Haga Y, Sasaki R, Sakamoto N, Shirasawa H, <u>Okamoto H</u> , and Yokosuka O: The JAK2 inhibitor AZD1480 inhibits hepatitis A virus replication in Huh7 cells. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> , 458: 908-912, 2015
有	論文52	Inagaki Y, Oshiro Y, Hasegawa N, Fukuda K, Abei M, Nishi M, <u>Okamoto H</u> , and Ohkohchi N: Clinical features of hepatitis E virus infection in Ibaraki, Japan: autochthonous hepatitis E and acute-on-chronic liver failure. <i>Tohoku J Exp Med</i> , 235: 275-282, 2015
有	論文53	Watanabe S, Isoda N, Ohtake T, Hirosawa T, Morimoto N, Aoki K, Ohnishi H, Takahashi M, Sugano K, and <u>Okamoto H</u> : Full genome analysis of Philippine indigenous subgenotype IA hepatitis A virus strains from Japanese patients with imported acute hepatitis A. <i>Hepatol Res</i> , 44: 270-279, 2014
有	論文54	Takahashi M and <u>Okamoto H</u> : Features of hepatitis E virus infection in humans and animals in Japan. <i>Hepatol Res</i> , 44: 43-58, 2014
有	論文55	Takahashi M, Nishizawa T, Nagashima S, Jirintai S, Kawakami M, Sonoda Y, Suzuki T, Yamamoto S, Shigemoto K, Ashida K, Sato Y, and <u>Okamoto H</u> : Molecular characterization of a novel hepatitis E virus (HEV) strain obtained from a wild boar in Japan that is highly divergent from the previously recognized HEV strains. <i>Virus Res</i> , 180: 59-69, 2014

有	論文56	Suzuki K, Kataoka K, Miyamoto Y, Miyasaka A, Kumagai I, Takikawa Y, Takahashi M, and Okamoto H : Clinical and molecular analyses of sporadic acute hepatitis A and E and the specific viral genotypes isolated in Iwate and three neighboring prefectures in the northern part of Honshu, Japan, between 2004 and 2013. <i>Hepatol Res</i> , 45(7): 714–727, 2015
有	論文57	Okano H, Takahashi M, Isono Y, Tanaka H, Nakano T, Oya Y, Sugimoto K, Ito K, Ohmori S, Maegawa T, Kobayashi M, Nagashima S, Nishizawa T, and Okamoto H : Characterization of sporadic acute hepatitis E and comparison of hepatitis E virus genomes in acute hepatitis patients and pig liver sold as food in Mie, Japan. <i>Hepatol Res</i> , 44: E63–76, 2014
有	論文58	Okano H, Nakano T, Sugimoto K, Takahashi K, Nagashima S, Takahashi M, Arai M, and Okamoto H : High genomic similarity between European type hepatitis E virus subgenotype 3e strains isolated from an acute hepatitis patient and a wild boar in Mie, Japan. <i>Hepatol Res</i> , 44: 694–699, 2014
有	論文59	Okamoto D, Nakayama H, Ikeda T, Ikeya S, Nagashima S, Takahashi M, Sugai Y, and Okamoto H : Molecular analysis of the interspousal transmission of hepatitis B virus in two Japanese patients who acquired fulminant hepatitis B after 50 and 49 years of marriage. <i>J Med Virol</i> , 86: 1851–1860, 2014
有	論文60	Smith DB, Simmonds P, Jameel S, Emerson SU, Harrison TJ, Meng XJ, Okamoto H , Van der Poel WHM, Purdy MA: Consensus proposals for classification of the family <i>Hepeviridae</i> . <i>J Gen Virol</i> 95: 2223–2232, 2014
有	*論文61	Nagashima S, Takahashi M, Jirintai S, Tanggis, Kobayashi T, Nishizawa T, and Okamoto H : The membrane on the surface of hepatitis E virus particles is derived from the intracellular membrane and contains trans-Golgi network protein 2. <i>Arch Virol</i> , 159: 979–991, 2014
有	*論文62	Nagashima S, Jirintai S, Takahashi M, Kobayashi T, Tanggis, Nishizawa T, Kouki T, Yashiro T, and Okamoto H : Hepatitis E virus egress depends on the exosomal pathway, with secretory exosomes derived from multivesicular bodies. <i>J Gen Virol</i> , 95: 2166–2175, 2014
有	論文63	Mulyanto, Wibawa ID, Suparyatmo JB, Amirudin R, Ohnishi H, Takahashi M, Nishizawa T, and Okamoto H : The complete genomes of subgenotype IA hepatitis A virus strains from four different islands in Indonesia form a phylogenetic cluster. <i>Arch Virol</i> , 159: 935–945, 2014
有	論文64	Mulyanto, Suparyatmo JB, Andayani IG, Khalid, Takahashi M, Ohnishi H, Jirintai S, Nagashima S, Nishizawa T, and Okamoto H : Marked genomic heterogeneity of rat hepatitis E virus strains in Indonesia demonstrated on a full-length genome analysis. <i>Virus Res</i> , 179: 102–112, 2014
有	論文65	Mawatari S, Uto H, Moriuchi A, Tabu K, Muromachi K, Tabu E, Oda K, Imanaka D, Oshige A, Nakazawa J, Kumagai K, Tamai T, Okamoto H , Tsubouchi H, and Ido A: Horizontal transmission of de novo hepatitis B between spouses: A case report. <i>Hepatol Res</i> , 45(8): 933–938, 2015
有	論文66	Li C, Lu L, Murphy DG, Negro F, and Okamoto H : Origin of hepatitis C virus genotype 3 in Africa as estimated through an evolutionary analysis of the full-length genomes of nine subtypes, including the newly sequenced 3d and 3e. <i>J Gen Virol</i> , 95: 1677–1688, 2014
有	論文67	Jirintai S, Tanggis, Mulyanto, Suparyatmo JB, Takahashi M, Kobayashi T, Nagashima S, Nishizawa T, and Okamoto H : Rat hepatitis E virus derived from wild rats (<i>Rattus rattus</i>) propagates efficiently in human hepatoma cell lines. <i>Virus Res</i> , 185: 92–102, 2014

有	論文68	Jiang X, Kanda T, Wu S, Nakamoto S, Saito K, Shirasawa H, Kiyohara T, Ishii K, Wakita T, Okamoto H , and Yokosuka O: Suppression of La antigen exerts potential antiviral effects against hepatitis A virus. <i>PLoS One</i> , 9: e101993, 2014
有	論文69	Takagi H, Hoshino T, Naganuma A, Koitabashi E, Uehara S, Sakamoto N, Kudo T, Ryusaki K, Kakizaki S, and Okamoto H : Drug induced hypersensitivity syndrome by triple therapy of peginterferon alpha2b, ribavirin and telaprevir in patient with double positive for HBV and HCV. <i>Hepatogastroenterology</i> , 60: 1557–1560, 2013
有	論文70	Nakano T, Takahashi K, Arai M, Okano H, Kato H, Ayada M, Okamoto H , and Mishiro S: Identification of European-type hepatitis E virus subtype 3e isolates in Japanese wild boars: molecular tracing of HEV from swine to wild boars. <i>Infect Genet Evol</i> , 18: 287–298, 2013
有	論文71	Minekawa T, Takehara S, Takahashi M, and Okamoto H : Development of a highly sensitive bioluminescent enzyme immunoassay for hepatitis B virus surface antigen capable of detecting divergent mutants. <i>Clin Vaccine Immunol</i> , 20: 1255–1265, 2013
有	論文72	梅村真知子, 渡邊豊, 小川浩司, 山本義也, 矢和田敦, 榮浪克也, 長佐古友和, 川村直之, 工藤峰生, 松林桂二, 狩野吉康, 姜貞憲, 水尾仁志, 岡本宏明 , 高橋和明, 安倍夏生, 新井雅裕, 三代俊治: 函館地区で発生したE型急性肝炎に対する臨床的, ウイルス学的, 疫学的検討—函館4病院における症例探索から. <i>肝臓</i> , 55: 349–359, 2014
有	論文73	岡野宏, 中野達也, 岡本宏明 : 薬物性肝障害診断スコアリングにおけるE型肝炎の診断マーカー追加の必要性についての検討. <i>肝臓</i> , 55: 325–334, 2014
有	論文74	岡野宏, 赤池重宏, 中野達徳, 岡本宏明 : 三重県北中部で持続発生しているE型肝炎の主たる感染株 (ヨーロッパ型3e/3sp株) の県内産豚からの特定. <i>肝臓</i> , 55: 553–555, 2014
有	論文75	藤本信乃, 石田聡, 中野達徳, 北川良子, 樋口国博, 泉道博, 中川直樹, 相川竜一, 足立幸彦, 高橋雅春, 竹井謙之, 岡本宏明 : 三重県で発症した野生動物肉摂食歴のない4型E型肝炎ウイルス愛知静岡株による急性E型肝炎の1例. <i>肝臓</i> , 55: 405–408, 2014
無	論文76	岡本宏明 : E型肝炎の感染源となりうる食品と留意点. <i>日本医事新報</i> , 4655(7/13): 67–69, 2013
無	論文77	岡本宏明 : 実験動物感染症の現状: E型肝炎ウイルス. <i>実験動物ニュース</i> , 62: 74–77, 2013
無	論文78	高橋雅春, 岡本宏明 : 人獣共通感染症としてのE型肝炎. <i>G. I. Research</i> , 21: 532–539, 2013

(部門名) 医療技術トレーニング部門

有	*論文79	Yoshimitsu Izawa, Shuji Hishikawa , Tomohiro Muronoi, Keisuke Yamashita, Hiroyuki Maruyama, Masayuki Suzukawa, Alan Kawarai Lefor. Ex-vivo and live animal models are equally effective training for the management of a penetrating cardiac injury. <i>World Journal of Emergency Surgery</i> . 31;11:45, 2016. doi: 10.1186/s13017-016-0104-3.
---	-------	---

(部門名) 動物資源開発部門

査読の有無	通し番号	
-------	------	--

有	論文80	Tanggisa, Kobayashi T., Takahashi M., Jirintai S., Nishizawa T., Nagashima, S., Nishiyama T., Kunita S. , Hayama E., Tanaka T., Mulyanto, Okamoto H. , An analysis of two open reading frames (ORF3 and ORF4) of rat hepatitis E virus genome using its infectious cDNA clones with mutations in ORF3 or ORF4. <i>Virus Res.</i> 249, 16-30, 2018.
有	論文81	Kobayashi E. , Hanazono Y. , Kunita S. : Swine used in the medical university: overview of 20 years of experience.. <i>Exp Anim.</i> 67: 7-13, 2018.
有	*論文82	Primadharsini PP, Miyake M, Kunita S. , Nishizawa T, Takahashi M, Nagashima S, Tanggis, Ohnishi H, Kobayashi T, Nishiyama T, Jirintai S, Okamoto H. : Full-length genome of a novel genotype 3 hepatitis E virus strain obtained from domestic pigs in Japan. <i>Virus Res.</i> 15: 147-153, 2017.
有	論文83	Akinori Hirano A., Fujita J., Kanazawa H., Kawaguchi S., Handa N., Yamada Y., Okuda S., Hishikawa S. , Teratani T., Kunita S. , Tohyama S., Seki T., Tabei R., Nakajima K., Kishino Y., Okada M., Okamoto K., Shimizu H., Kobayashi E. and Fukuda K.: Cryoinjury-induced acute myocardial infarction model and ameroid constrictor-induced ischemic heart disease model in adult micro-mini pigs for preclinical studies. <i>Translational Medicine Communications</i> 2: 1-10, 2017.
有	論文84	Takahashi M, Kobayashi T, Tanggis, Jirintai S, Mulyanto, Nagashima S, Nishizawa T, Kunita S and Okamoto H. : Production of monoclonal antibodies against the ORF3 protein of rat hepatitis E virus (HEV) and demonstration of the incorporation of the ORF3 protein into enveloped rat HEV particles. <i>Arch. Virol.</i> 161: 3391-3404, 2016.
有	論文85	Abe T, Kono S, Ohnuki T, Hishikawa S. , Kunita S. , and Hanazono Y. : A swine model of acute thrombocytopenia with prolonged bleeding time produced by busulfan. <i>Exp Anim</i> , 65(4): 345-351, 2016

(部門名) 再生医学研究部

査読の有無	通し番号	
有	*論文86	Hara H, Shibata H, Nakano K, Abe T, Uosaki H, Ohnuki T, Hishikawa S. , Kunita S, Watanabe M, Nureki O, Nagashima H, Hanazono Y. Production and rearing of germ-free X-SCID pigs. <i>Exp Anim</i> , DOI 10.1538/expanim.17-0095.
有	*論文87	Matsunari H, Watanabe M, Nakano K, Enosawa S, Umeyama K, Uchikura A, Yashima S, Fukuda T, Klymiuk N, Kurome M, Kessler B, Wuensch A, Zakhartchenko V, Wolf E, Hanazono Y. , Nagaya M, Umezawa A, Nakauchi H, Nagashima H: Modeling lethal X-linked genetic disorders in pigs with ensured fertility. <i>Proc Natl Acad Sci U S A</i> , 115(4):708-713, 2018
有	論文88	Abe T, Matsuoka Y, Nagao Y, Sonoda Y, and Hanazono Y. : CD34-negative hematopoietic stem cells show distinct expression profiles of homing molecules that limit engraftment in mice and sheep. <i>Int J Hematol</i> , 106(5): 631-637, 2017
有	論文89	Abe T, Kono S, Ohnuki T, Hishikawa S. , Kunita S, and Hanazono Y. : A swine model of acute thrombocytopenia with prolonged bleeding time produced by busulfan. <i>Exp Anim</i> , 65(4): 345-351, 2016

有	論文90	Arai Y, Fukukawa H, Atozi T, Matsumoto S, Hanazono Y , Nagashima H, and Ohgane J: Ultra-deep bisulfite sequencing to detect specific DNA methylation patterns of minor cell types in heterogeneous cell populations: an example of the pituitary tissue. PLOS ONE , 11(1): e0146498, 2016 January
有	論文91	Abe T, Hanazono Y , and Nagao Y: A long-term follow-up study on the engraftment of human hematopoietic stem cells in sheep. Exp Anim , 63(4): 475–481, 2014
有	*論文92	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y, Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S, Kobayashi E, and Hanazono Y : MHC-matched induced pluripotent stem cells can attenuate cellular and humoral immune responses but are still susceptible to innate immunity. PLOS ONE , 13; 9(6): e98319, 2014
有	*論文93	Watanabe M, Nakano K, Matsunari H, Matsuda T, Maehara M, Kanai T, Kobayashi M, Matsumura Y, Sakai R, Kuramoto M, Hayashida G, Asano Y, Takayanagi S, Arai Y, Umeyama K, Nagaya M, and Hanazono Y , Nagashima H: Generation of interleukin-2 receptor gamma gene knockout pigs from somatic cells genetically modified by zinc finger nuclease-encoding mRNA. PLOS ONE , 9; 8(10): e76478, 2013
有	論文94	Arai Y, Ohgane J, Fujishiro S-H, Nakano K, Matsunari H, Watanabe M, Umeyama K, Azuma D, Uchida N, Sakamoto N, Makino T, Yagi S, Shiota K, Hanazono Y , and Nagashima H: DNA methylation profiles provide a viable index for porcine pluripotent stem cells. Genesis , 51(11): 763–776, 2013
有	論文95	Nakano K, Watanabe M, Matsunari H, Matsuda T, Honda K, Maehara M, Kanai T, Hayashida G, Kobayashi M, Kuramoto M, Arai Y, Umeyama K, Fujishiro S-H, Mizukami Y, Nagaya M, Hanazono Y , and Nagashima H: Generating porcine chimeras using inner cell mass cells and parthenogenetic preimplantation embryos. PLOS ONE , 23; 8(4): e61900, 2013
有	*論文96	Fujishiro SH, Nakano K, Mizukami Y, Azami T, Arai Y, Matsunari H, Ishino R, Nishimura T, Watanabe M, Abe T, Furukawa Y, Umeyama K, Yamanaka S, Ema M, Nagashima H, and Hanazono Y : Generation of naive-like porcine induced pluripotent stem cells capable of contributing to embryonic and fetal development. Stem Cells Dev , 22(3): 473–482, 2013

(部門名) 東洋医学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文97	Lee NC, Hwu WL, Muramatsu S , Falk DJ, Byrne BJ, Cheng CH, Shin NC, Chang KL, Tsai LK and Chien YH: A neuron-specific gene therapy relieves motor deficits in pompe disease mice. Mol Neurobiol , 55:5299-5309, 2018.
有	論文98	Nakamura S, Muramatsu S , Takino N, Ito M, FJimbo E, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T and Osaka H: Gene therapy for Glut1-deficient mouse using an adeno-associated virus vector with the human intrinsic GLUT1 promoter. J Gene Med , 20(4):e3013, 2018.
有	論文99	Sakurada T, Knoblich G, Sebanz N, Muramatsu S and Hirai M: Probing links between action perception and action production in Parkinson's disease using Fitts' law. Neuropsychologia , 111(2018):201-208, 2018.
有	論文100	Fu K, Miyamoto Y, Otake K, Sumi K, Saika E, Matsumura S, Sato N, Ueno Y, Seo S, Uno K, Muramatsu S and Nitta A: Involvement of the accumbal osteopontin-interacting transmembrane protein 168 in methamphetamine-induced place preference and hyperlocomotion in mice. Sci Rep , 7:13084, 2017.

有	論文101	Ohmori T, Nagao Y, Mizukami H, Sakata A, Muramatsu S , Ozawa K, Tominaga SI, Hanazono Y, Nishimura S, Nureki O and Sakata Y: CRISPR/Cas9-mediated genome editing via postnatal administration of AAV vector cures haemophilia B mice. Sci Rep , 7(1):4159, 2017.
有	論文102	Sehara Y, Fujimoto K, Ikeguchi K, Katakai Y, Ono F, Takino N, Ito M, Ozawa K, and Muramatsu S : Persistent expression of dopamine-synthesizing enzymes 15 years after gene transfer in a primate model of parkinson's disease. Hum Gene Ther Clin Dev , 28(2):74-79, 2017.
有	論文103	Taniguchi JB, Kondo K, Fujita K, Chen X, Homma H, Sudo T, Mao Y, Watase K, Tanaka T, Tagawa K, Tamura T, Muramatsu S and Okazawa H: RpA1 ameliorates symptoms of mutant ataxin-1 knock-in mice and enhances DNA damage repair. Hum Mol Genet , 25(20):4432-4447, 2016.
有	*論文104	Miyazaki Y, Du X, Muramatsu S and Gomez C M: A miRNA-mediated therapy for SCA6 blocks IRES-driven translation of the CACNA1A second cistron. Sci Transl Med , 8(347):347ra94, 2016.
有	論文105	Higashida H, Yokoyama S, Tsuji C and Muramatsu S : Neurotransmitter release: vacuolar ATPase V0 sector c-subunits in possible gene or cell therapies for Parkinson's, Alzheimer's, and psychiatric diseases. J Physiol Sci , 67(1):11-17, 2016.
有	論文106	Igarashi H, Koizumi K, Kaneko R, Ikeda K, Egawa R, Yanagawa Y, Muramatsu S , Onimaru H, Ishizuka T and Yawo H: A Novel Reporter Rat Strain That Conditionally Expresses the Bright Red Fluorescent Protein tdTomato. PLoS One , 11(5): e 0155687, 2016.
有	論文107	Ono S, Sato T and Muramatsu S : Freezing of gait in Parkinson's disease is associated with reduced 6-[18F]fluoro-L-m-tyrosine uptake in the locus coeruleus. Parkinsons Dis , 2016: Article ID 5430920, 5 pages, 2016.
有	論文108	Kanazawa M, Ohba H, Harada N, Kakiuchi T, Muramatsu S and Tsukada H: Evaluation of 6-11C-methyl-m-tyrosine as a PET probe for presynaptic dopaminergic activity: a comparison PET study with β -11C-L-DOPA and 18F-FDOPA in Parkinson disease monkeys. J Nucl Med , 57(2):303-308, 2015.
有	論文109	Sumi K, Uno K, Matsumura S, Miyamoto Y, Furukawa-Hibi Y, Muramatsu S , Nabeshima T and Nitta A: Induction of neuronal axon outgrowth by Shati/Nat8l by energy metabolism in mice cultured neurons. Neuroreport , 9; 26(13):740-746, 2015.
有	論文110	Ohnishi T, Yanazawa M, Sasahara T, Kitamura Y, Hiroaki H, Fukazawa Y, Kii I, Nishiyama T, Kakita A, Takeda H, Takeuchi A, Arai Y, Ito A, Komura H, Hirao H, Satomura K, Inoue M, Muramatsu S , Matsui K, Tada M, Sato M, Saijo E, Shigemitsu Y, Sakai S, Umetsu Y, Goda N, Takino N, Takahashi H, Hagiwara M, Sawasaki T, Iwasaki G, Nakamura Y, Nabeshima Y, Teplow DB and Hoshi M: Na, K-ATPase α 3 is a death target of Alzheimer patient amyloid- β assembly. Proc Natl Acad Sci U S A , 11;112(32):E4465-E4474, 2015.
有	論文111	Nakamura S, Osaka H, Muramatsu S , Aoki S, Jimbo EF and Yamagata T: Mutational and functional analysis of Glucose transporter I deficiency syndrome. Mol Genet Metab , 116(3):157-162, 2015.
有	論文112	Lee NC, Muramatsu S , Chien YH, Liu WS, Wang WH, Cheng CH, Hu MK, Chen PW, Tzen KY, Byrne BJ and Hwu WL: Benefits of neuronal preferential systemic gene therapy for neurotransmitter deficiency. Mol Ther , 23(10):1572-1581, 2015.

有	論文113	Kakegawa W, Mitakidis N, Miura E, Abe M, Matsuda K, Takeo Y H, Kohda K, Motohashi J, Takahashi, A, Nagao S, Muramatsu S , Watanabe M, Sakimura K, Aricescu A R and Yuzaki M: Anterograde C1ql1 signaling is required in order to determine and maintain a single-winner climbing fiber in the mouse cerebellum. <i>Neuron</i> , 85: 316–329, 2015
有	*論文114	Ito H, Fujita K, Tagawa K, Chen X, Homma H, Sasabe T, Shimizu J, Shimizu S, Tamura T, Muramatsu S , and Okazawa H: HMGB1 facilitates repair of mitochondrial DNA damage and extends the lifespan of mutant ataxin-1 knock-in mice. <i>EMBO Mol Med</i> , 7(1): 78–101, 2014
有	*論文115	Ito H, Shiwaku H, Yoshida C, Homma H, Luo H, Chen X, Fujita K, Musante L, Fischer U, Frints SGM, Romano C, Ikeuchi Y, Shimamura T, Imoto S, Miyano S, Muramatsu S , Kawauchi T, Hoshino M, Sudol M, Arumughan A, Wanker EE, Richi T, Schwartz C, Matsuzaki F, Bonni A, Kalscheuer VM, and Okazawa H: In utero gene therapy rescues microcephaly caused by Pqbp1-hypofunction in neural stem progenitor cells. <i>Mol Psychiatry</i> , 20: 459–471, 2015
有	論文116	Miyamoto Y, Iida A, Sato K, Muramatsu S , and Nitta A: Knockdown of dopamine D2 receptors in the nucleus accumbens core suppresses methamphetamine-induced behaviors and signal transduction in mice. <i>Int J Neuropsychopharmacol</i> , 18: 1–7, 2014
有	論文117	Miyamoto Y, Ishikawa Y, Iegaki N, Sumi K, Fu K, Sato K, Furukawa-Hibi Y, Muramatsu S , Nabeshima T, Uno K, and Nitta A: Overexpression of Shati/Nat8l, an N-acetyltransferase, in the nucleus accumbens attenuates the response to methamphetamine via activation of group II mGluRs in mice. <i>Int J Neuropsychopharmacol</i> , 17:1283–1294, 2014
有	論文118	Hwu WL, Lee NC, Chien YH, Muramatsu S , and Ichinose H: AADC deficiency: occurring in humans, modeled in rodents. <i>Adv Pharmacol</i> , 68: 273–284, 2013
有	*論文119	Yamashita T, Chai HL, Teramoto S, Tsuji S, Shimazaki K, Muramatsu S , and Kwak S: Rescue of amyotrophic lateral sclerosis phenotype in a mouse model by intravenous AAV9-ADAR2 delivery to motor neurons. <i>EMBO Mol Med</i> , 5(11): 1710–1719, 2013
有	論文120	Iida A, Takino N, Miyauchi H, Shimazaki K, and Muramatsu S : Systemic delivery of tyrosine-mutant AAV vectors results in robust transduction of neurons in adult mice. <i>Bio Med Res Int</i> , 2013; 974819, 2013
有	*論文121	Iwata N, Sekiguchi M, Hattori Y, Takahashi A, Asai M, Ji B, Higuchi M, Staufenbiel M, Muramatsu S , and Saido TC: Global brain delivery of neprilysin gene by intravascular administration of AAV vector in mice. <i>Sci Rep</i> , 3: 1472, 2013
有	論文122	Lee NC, Shieh YD, Chien YH, Tzen KY, Yu IS, Chen PW, Hu MH, Hu Mk, Muramatsu S , Ichinose H, and Hwu WL: Regulation of the dopaminergic system in a murine model of aromatic L-aminoacid decarboxylase deficiency. <i>Neurobiol Dis</i> , 52: 177–190, 2013
有	論文123	Yan Y, Miyamoto Y, Nitta A, Muramatsu S , Ozawa K, Yamada K, and Nabeshima T: Intrastratial gene delivery of GDNF persistently attenuates methamphetamine self-administration and relapse in mice. <i>Int J Neuropsychopharmacol</i> , 16(7): 1559–1567, 2013

(部門名) 脳神経外科学

査読の有無	通し番号	
-------	------	--

有	*論文124	Uga M, Dan I, Sano T, Dan H, and Watanabe E : Optimizing the general linear model for functional near-infrared spectroscopy: an adaptive hemodynamic response function approach. <i>Neurophotonics</i> , 1(1): 015004, 2014
有	*論文125	Uga M, Saito T, Sano T, Yokota H, Oguro K, Rizki EE, Mizutani T, Katura T, Dan I, and Watanabe E .: Direct cortical hemodynamic mapping of somatotopy of pig nostril sensation by functional near-infrared cortical imaging (fNCI). <i>Neuroimage</i> , 91: 138–145, 2014

(部門名) 消化器内科学部門

査読の有無	通し番号	
有	*論文126	Yano T , Nemoto D, Ono K, Miyata Y, Numao N, Iwashita C, Nagayama M, Takahashi H, Lefor AK, Yamamoto H : Gel immersion endoscopy: a novel method to secure the visual field
有	*論文127	Hayashi Y, Yamamoto H , Yano T , Kitamura A, Takezawa T, Ino Y, Sakamoto H, Miura Y, Shinhata H, Sato H, Sunada K, and Sugano K: A calibrated, small-caliber tip, transparent hood to aid endoscopic balloon dilation of intestinal strictures in Crohn's disease: successful use of prototype. <i>Endoscopy</i> , 45 Suppl 2: E373–374, 2013

(部門名) 循環器内科学部門

査読の有無	通し番号	
無	*論文128	Townsend RR, Mahfoud F, Kandzari DE, Kario K , Pocock S, Weber MA, Ewen S, Tsioufis K, Tousoulis D, Sharp ASP, Watkinson AF, Schmieder RE, Schmid A, Choi JW, East C, Walton A, Hopper I, Cohen DL, Wilensky R, Lee DP, Ma A, Devireddy CM, Lea JP, Lurz PC, Fengler K, Davies J, Chapman N, Cohen SA, DeBruin V, Fahy M, Jones DE, Rothman M, Böhm M; SPYRAL HTN-OFF MED trial investigators*. Catheter-based renal denervation in patients with uncontrolled hypertension in the absence of antihypertensive medications (SPYRAL HTN-OFF MED): a randomised, sham-controlled, proof-of-concept trial. <i>Lancet</i> . 2017 Nov 11;390(10108):2160-2170
無	*論文129	Mahfoud F, Bakris G, Bhatt DL, Esler M, Ewen S, Fahy M, Kandzari D, Kario K , Mancia G, Weber M, Böhm M. Reduced blood pressure-lowering effect of catheter-based renal denervation in patients with isolated systolic hypertension: data from SYMPLICITY HTN-3 and the Global SYMPLICITY Registry. <i>Eur Heart J</i> . 2017; 38: 93-100.
無	論文130	Kandzari DE, Kario K , Mahfoud F, Cohen SA, Pilcher G, Pocock S, Townsend R, Weber MA, Böhm M. The SPYRAL HTN Global Clinical Trial Program: Rationale and design for studies of renal denervation in the absence (SPYRAL HTN OFF-MED) and presence (SPYRAL HTN ON-MED) of antihypertensive medications. <i>Am Heart J</i> . 2016; 171: 82-91.
有	論文131	Kario K , Ogawa H, Okumura K, Okura T, Saito S, Ueno T, Haskin R, Negoita M, and Shimada K: SYMPLICITY HTN-Japan Investigators. SYMPLICITY HTN-Japan- First Randomized Controlled Trial of Catheter-Based Renal Denervation in Asian Patients. <i>Circ J</i> , 79: 1222–1229, 2015

(部門名) 心臓血管外科学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文132	Toriumi S, Ikemoto T, Waki H, Nagai M, Eguchi K, Shimpo M, Katsuki T, Kurumisawa S, Aizawa K, Misawa Y , Kario K. Life- and limb saving endovascular therapy in a patient with acute abdominal aortic dissection. <i>Cardiovasc Interv Ther</i> 2017;32:190-195
有	論文133	Akutsu H, Aizawa K, Sato H, Misawa Y . Chylomediastinum after cardiac surgery through median sternotomy: a case report. <i>Cardiovascular and Thoracic Open</i> 2017;3:1-2,
有	論文134	Kawahito K, Kimura N, Komiya K, Nakamura M, Misawa Y . Blood flow competition after aortic valve bypass: an evaluation using computational fluid dynamics. <i>Interact Cardiovasc Thorac Surg</i> . 2017 May 1;24(5):670-676
有	論文135	上杉知資、川人宏次、 三澤吉雄 。心外型バルサルバ洞動脈瘤破裂の1例。 <i>胸部外科</i> 2017;70:385-388
有	論文136	高丸利加子、川人宏次、相澤啓、 三澤吉雄 。大動脈解離遠隔期にElephant trunkの狭窄によって血管内容血を来した1例。 <i>胸部外科</i> 2017;70:514-517
有	論文137	Ohki S, Takazawa, Akutsu H, Misawa Y . Late complications after Cabrol technique in a patient with Marfan syndrome. <i>Clinical Case Reports</i> 2017;5:1081-1083
有	論文138	齊藤翔吾、 三澤吉雄 、榊澤壮樹、相澤啓、川人宏次。高度気管狭窄症例における下部胸骨部分切開による大動脈弁置換：Forestier病の1例。 <i>胸部外科</i> 2017;70:536-539
有	論文139	Misawa Y . Off-pump sutureless repair for ischemic left ventricular free wall rupture. <i>J Cardiothorac Surg</i> 2017 May 19;12(1):36.
有	論文140	Muraoka A, Aizawa K, Misawa Y . Waffle procedure for selected patients with constrictive pericarditis. <i>Ann Clin Case Rep</i> 2017 ; 2 : 1325
有	論文141	Sato H, Aizawa K, Muraoka A, Misawa Y . Cardiac angiosarcoma of the right atrium with cardiac tamponade. <i>Br J Med Med Res</i> ; 2016 : 12(5) : 1-5
有	論文142	Akutsu H, Kaminishi Y, Kurumisawa S, Misawa Y . Bioprosthetic aortic valve replacement 12 years after percutaneous aortic valvuloplasty in a young adult. <i>Acute Medicine & Surgery</i> 2016;3:364-368
有	論文143	Kurumisawa S, Kaminishi Y, Muraoka A, Misawa Y . Unique Nonstructural Dysfunction of the Omnicarbon Valve: Case Report <i>J Cardiothorac Surg</i> : 2016 Mar 29 ; 11 : 40
有	論文144	Ohki S, Kurumisawa S, Misawa Y . Chylous ascites after abdominal aortic aneurysm repair <i>Ann Vasc Dis</i> 2016;9:48-50

有	論文145	Kawahito K, Aizawa K, Oki S, Saito T, Misawa Y .Heart valve surgery in hemodialysis-dependent patients: nutrition status <i>impact on surgical outcome</i> . <i>J Artif Organs</i> 2016 ; 19 : 134-140
有	論文146	Ohki S, Aoyama Y, Takazawa I, Sato H, Sakano Y, Misawa Y .Operation for infected thrombus in the false lumen after ascending aortic repair for acute aortic dissection. <i>Cardiovascular and Thoracic Open</i> 2016 2:1-3
有	論文147	佐藤 健、 三澤吉雄 、河田政明、前川慶之。肺動脈絞扼術により肺病変が劇的に改善された21-トリソミーに伴う心室中隔欠損症の1例 <i>胸部外科</i> 2016 ; 69 : 365-369
有	論文148	Misawa Y , Muraoka A, Aizawa K. Long-term durability of Starr-Edwards caged valves in selected patients. <i>Intern Med</i> : 2016 September ; 55 : 2521-1
有	論文149	Aizawa K, Kawahito K, Misawa Y . Long-term outcomes of tear-orientated ascending/hemiarch replacements <i>for acute type A aortic dissection</i> . <i>Gen Thorac Cardiovasc Surg</i> 2016;64:403-8
有	論文150	Takazawa I, Kurumisawa S, Sato H, Aizawa K, Misawa Y . Staphylococcus aureus infective endocarditis in patients with atopic dermatitis: three cases and review. <i>Austin Cardio and Cardiovascular Case Reports</i> 2016;1:1009
有	論文151	Misawa Y , Kawada M, Endo S.Localized pericarditis induced by an expanded polytetrafluoroethylene membrane: two case report and short review. <i>Austin Cardio and Cardiovascular Case Reports</i> 2016;1:1010
有	論文152	Kumagai Y, Kurumisawa S, Aizawa K, Misawa Y .A case report of type B acute aortic dissection with massive pericardial effusion. <i>Ann Clin Case Rep</i> . 2016;1:1113
有	論文153	Kurumisawa S, Ohki S, Sugaya A, Misawa Y . A case of chronic aortic dissection with medial calcification. <i>BJMMR</i> 2016;18(10):1-4
有	論文154	Kawahito K, Takazawa I, Misawa Y . A rare case of myocardial recovery after mechanical ventricular support for severe peripartum cardiomyopathy. <i>Artificial Organs</i> 2016;40:1092-3
有	論文155	Muraoka A, Kawahito K, Misawa Y . A large intercostal branch in a patient after coronary artery bypass grafting with the internal thoracic artery. <i>Emergency Surgery: Clinics in Surgery</i> 2016;1:1251
有	論文156	Misawa Y , Muraoka A, Aizawa K, Ohki S, Kawahito K, and Sato H. Recurrent dysfunction after open-heart valve surgery. <i>J Cardiovasc Disord</i> 2016;3:1025
有	論文157	Misawa Y , Sakano Y, Kurumisawa S. Aortic surgery for pregnant women. <i>Internal Medicine Review</i> 2016;2(July):1-6
有	論文158	Misawa Y : Valve-related complications after mechanical heart valve implantation. <i>Surgery Today</i> , 45(10): 1205–1209, 2015
有	論文159	Kurumisawa S and Misawa Y : Successful surgical treatment of ruptured thoracic aortic aneurysm in pregnancy. <i>Asian Cardiovac Thorac Ann</i> , 24(3): 292, 2016 March

有	論文160	Takazawa I, Kawahito K, Sugaya A, Yokota A, Hoshide S, Kario K, and Misawa Y : Catastrophic myocardial ischemia resulting from a left coronary artery anomaly with an origin in the right sinus of Valsalva. <i>Gen Thorac Cardiovasc Surg</i> , 2014 October 4 Epub ahead of print
有	論文161	Kurumisawa S, Sugaya A, Akutsu H, Takazawa I, Ohki S, and Misawa Y : A case of delayed visceral ischemia induced by type B aortic dissection. <i>Acute Medicine & Surgery</i> , 2: 131–133, 2015
有	論文162	相澤啓, 小西宏明, 齊藤力, 三澤吉雄 : 急性心筋梗塞後に発症した心室中隔穿孔に対するinfarct-exclusion法の検討. <i>心臓</i> , 47: 29–33, 2015
有	論文163	榎澤壮樹, 相澤啓, 高澤一平, 佐藤弘隆, 小西宏明, 三澤吉雄 : 僧帽弁兼大動脈弁置換術で発症した術中左室破裂の1例. <i>胸部外科</i> 68: 349–352, 2015
有	論文164	菅谷彰, 佐藤弘隆, 榎澤壮樹, 高澤一平, 村岡新, 大木伸一, 川人宏次, 三澤吉雄 : 大動脈基部置換における異常冠動脈への対処. <i>心臓</i> , 印刷中
有	論文165	佐藤健, 高澤一平, 相澤啓, 三澤吉雄 : 機能的僧帽弁閉鎖不全を伴った心サルコイドーシスに対する弁置換術の1例. <i>胸部外科</i> , 68: 233–236, 2015
有	論文166	中村真, 村岡新, 相澤啓, 阿久津博彦, 榎澤壮樹, 三澤吉雄 : 生体弁による大動脈弁兼僧帽弁置換術後6年でパンヌス形成をきたした1例. <i>胸部外科</i> , 印刷中
有	論文167	Sato H, Kawahito K, Aizawa K, and Misawa Y : Popliteal artery pseudoaneurysm associated with osteochondroma. <i>J Vasc Surg</i> , 59: 825–825, 2014

(部門名) 移植外科

有	論文168	Okada N, Mizuta K , Oshima M, Yamada N, Sanada Y, Ihara Y, Urahashi T, Ishikawa J, Tsuji T, Hishikawa S, Teratani T, Kobayashi E: A novel split liver protocol using the subnormothermic oxygenated circuit system in a porcine model of a marginal donor procedure. <i>Transplant Proc</i> . 47, 419-426, 2015.
---	-------	---

(部門名) 小児外科

査読の有無	通し番号	
有	論文169	Kawahatra I , Ono S , Maeda K : Biodegradable polydioxanone sent as new treatment strategy for tracheal syenosis in a rabbit model J Pediatr Surg. 51:1967-1971, 2016
有	論文170	Ono S , Maeda K , Baba K, Usui Y, Tsuji Y, Kawahara I, Fukuta A, and Sekine S: Balloon tracheoplasty as initial treatment for neonates with symptomatic. congenital tracheal stenosis. <i>Pediatr Surg Int</i> , 30(9): 957–960, 2014

(部門名) 分子病態研究部

査読の有無	通し番号	
-------	------	--

有	論文171	Hirata S, Murata T, Suzuki D, Nakamura S, Jono-Ohnishi R, Hirose H, Sawaguchi A, Nishimura S , Sugimoto N, Eto K. Selective Inhibition of ADAM17 Efficiently Mediates Glycoprotein Ib α Retention During Ex Vivo Generation of Human Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Platelets. <i>Stem Cells Transl Med.</i> , 2017 Mar;6(3):720-730. doi: 10.5966/sctm.2016-0104. Epub 2016 Oct 5.
有	*論文172	Nakamura S, Takayama N, Hirata S, Seo H, Endo H, Ochi K, Fujita K, Koike T, Harimoto K, Dohda T, Watanabe A, Okita K, Takahashi N, Sawaguchi A, Yamanaka S, Nakauchi H, Nishimura S , and Eto K: Expandable Megakaryocyte Cell Lines Enable Clinically Applicable Generation of Platelets from Human Induced Pluripotent Stem Cells. <i>Cell Stem Cell</i> , 14(4): 535–548, 2014
有	論文173	Sakata A, Ohmori T, Nishimura S , Suzuki H, Madoiwa S, Mimuro J, Kario K, and Sakata Y: Paxillin is an intrinsic negative regulator of platelet activation in mice. <i>Thromb J</i> , 12(1): 1, 2014
有	*論文174	Nishimura S , Nagasaki M, Okudaira S, Aoki J, Ohmori T, Ohkawa R, Nakamura K, Igarashi K, Yamashita H, Eto K, Uno K, Hayashi N, Kadowaki T, Komuro I, Yatomi Y, and Nagai R : ENPP2 contributes to adipose Tissue expansion and insulin resistance in diet-induced obesity. <i>Diabetes</i> , 63(12): 4154–4164, 2014
有	論文175	Noda S, Asano Y, Nishimura S , Taniguchi T, Fujiu K, Manabe I, Nakamura K, Yamashita T, Saigusa R, Akamata K, Takahashi T, Ichimura Y, Toyama T, Tsuruta D, Trojanowska M, Nagai R , and Sato S: Simultaneous downregulation of KLF5 and Fli1 is a key feature underlying systemic sclerosis. <i>Nat Commun</i> , 5: 5797, 2014
有	論文176	Tanaka M, Ikeda K, Suganami T, Komiya C, Ochi K, Shirakawa I, Hamaguchi M, Nishimura S , Manabe I, Matsuda T, Kimura K, Inoue H, Inagaki Y, Aoe S, Yamasaki S, and Ogawa Y: Macrophage-inducible C-type lectin underlies obesity-induced adipose tissue fibrosis. <i>Nat Communications</i> , 5: 4982, 2014
有	論文177	Nishimura D, Sakai H, Sato T, Sato F, Nishimura S , Toyama-Sorimachi N, Bartsch J, and Sehara-Fujisawa A: Roles of ADAM8 in elimination of injured muscle fibers prior to skeletal muscle regeneration. <i>Mechanisms of Development</i> , 135, 58–67, 2015
有	論文178	Ueno M, Maeno T, Nishimura S , Ogata F, Masubuchi H, Hara K, Yamaguchi K, Aoki F, Suga T, Nagai R , and Kurabayashi M: Alendronate inhalation ameliorates elastase-induced pulmonary emphysema in mice by induction of apoptosis of alveolar macrophages. <i>Nat Communications</i> , 6: 6332, 2015
有	*論文179	Nishimura S , Nagasaki M, Kunishima S, Sawaguchi A, Sakata A, Sakaguchi H, Ohmori T, Manabe I, J Italiano, Ryu T, Takayama N, Komuro I, Kadowaki T, Eto K, and Nagai R : IL-1 α induces thrombopoiesis through megakaryocyte rupture in response to acute platelet needs. <i>J Cell Biology</i> , 209(3): 453–466, 2015

(部門名) 抗加齢医学研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文180	Muñoz-Castañeda JR, Herencia C, Pendón-Ruiz de Mier MV, Rodríguez-Ortiz ME, Díaz-Tocados JM, Vergara N, Martínez-Moreno JM, Salmerón MD, Richards WG, Felsenfeld A, Kuro-o M , Almadén Y, Rodríguez M. Differential regulation of renal Klotho and FGFR1 in normal and uremic rats. <i>FASEB J.</i> 1(9):3858-3867, 2017.
有	論文181	Watanabe R, Fujita N, Sato Y, Kobayashi T, Morita M, Oike T, Miyamoto K, Kuro-o M , Michigami T, Fukumoto S, Tsuji T, Toyama Y, Nakamura M, Matsumoto M, Miyamoto T. Enpp1 is an anti-aging factor that regulates Klotho under phosphate overload conditions. <i>Sci rep</i> 7(1):7786, 2017.

有	論文182	Kohara M, Masuda T, Shiizaki K, Akimoto T, Watanabe Y, Honma S, Sekiguchi C, Miyazawa Y, Kusano E, Kanda Y, Asano Y, Kuro-o M , Nagata D. Association between circulating fibroblast growth factor 21 and mortality in end-stage renal disease. <i>PLoS One</i> 12(6):e0178971, 2017.
有	論文183	Alesutan I, Voelkl J, Feger M, Kratschmar DV, Castor T, Mia S, Sacherer M, Viereck R, Borst O, Leibrock C, Gawaz M, Kuro-o M , Pilz S, Tomaschitz A, Odermatt A, Pieske B, Wagner CA, Lang F. Involvement of Vascular Aldosterone Synthase In Phosphate-Induced Osteogenic Transformation Of Vascular Smooth Muscle Cells. <i>Sci rep</i> 7(1):2059, 2017.
有	論文184	Santoso P, Nakata M, Shiizaki K, Boyang Z, Parmila K, Otgon-Uul Z, Hashimoto K, Satoh T, Mori M, Kuro-o M , Yada T. Fibroblast growth factor 21, assisted by elevated glucose, activates paraventricular nucleus NUCB2/Nesfatin-1 neurons to produce satiety under fed states. <i>Sci rep</i> 7:45819, 2017.
有	論文185	Yamada H, Kuro-o M , Ishikawa SE, Funazaki S, Kusaka I, Kakei M & Hara K. Daily variability in serum levels of calciprotein particles and their association with mineral metabolism parameters: A cross-sectional pilot study. <i>Nephrology (Carlton)</i> . 12994, 2017.
有	論文186	Kawakami K, Takeshita A, Furushima K, Miyajima M, Hatamura I, Kuro-o M , Furuta Y & Sakaguchi K. Persistent fibroblast growth factor 23 signalling in the parathyroid glands for secondary hyperparathyroidism in mice with chronic kidney disease. <i>Sci rep</i> 7 40534, 2017.
有	論文187	Hu MC, Shi M, Gillings N, Flores B, Takahashi M, Kuro-o M & Moe OW. Recombinant □Klotho may be prophylactic and therapeutic for acute to chronic kidney disease progression and uremic cardiomyopathy. <i>Kidney Int</i> . 91 (5), 1104-1114, 2017.
有	論文188	Yamada H, Kuro-o M , Hara K, Ueda Y, Kusaka I, Kakei M & Ishikawa SE. The Urinary Phosphate to Serum Fibroblast Growth Factor 23 Ratio Is a Useful Marker of Atherosclerosis in Early-Stage Chronic Kidney Disease. <i>PLoS One</i> . 11 (8), e0160782, 2016.
有	論文189	Wehling-Henricks M, Li Z, Lindsey C, Wang Y, Welc SS, Ramos JN, Khanlou N, Kuro-o M & Tidball JG. Klotho gene silencing promotes pathology in the mdx mouse model of Duchenne muscular dystrophy. <i>Hum Mol Genet</i> 25, 2465-2482, 2016.
有	論文190	Leibrock CB, Voelkl J, Kuro-o M , Lang F & Lang UE. 1,25(OH)2D3 dependent overt hyperactivity phenotype in klotho-hypomorphic mice. <i>Sci Rep</i> 6 24879, 2016.
有	論文191	Kuro-o M & Moe OW. FGF23-αKlotho as a paradigm for a kidney-bone network. <i>Bone</i> 100, 4-18, 2016.

有	論文192	<u>Kuro-o M</u> . The FGF23 and Klotho system beyond mineral metabolism. <i>Clin Exp Nephrol</i> 21 (Suppl 1), 64-69, 2016.
有	論文193	Hu MC, Shi M, Zhang J, Addo T, Cho HJ, Barker SL, Ravikumar P, Gillings N, Bian A, Sidhu SS, <u>Kuro-o M</u> & Moe OW. Renal Production, Uptake, and Handling of Circulating α Klotho. <i>J Am Soc Nephrol</i> 27, 79-9, 2016.
有	論文194	Hu MC, Shi M, Cho HJ, Adams-Huet B, Paek J, Hill K, Shelton J, Amaral AP, Faul C, Taniguchi M, Wolf M, Brand M, Takahashi M, <u>Kuro-o M</u> , Hill JA & Moe OW. Klotho and phosphate are modulators of pathologic uremic cardiac remodeling. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26, 1290-1302, 2015.
有	論文195	Leibrock CB, Alesutan I, Voelkl J, Pakladok T, Michael D, Schleicher E, Kamyabi-Moghaddam Z, Quintanilla-Martinez L, <u>Kuro-o M</u> & Lang F. NH4Cl Treatment Prevents Tissue Calcification in Klotho Deficiency. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26, 2423-2433, 2015.
有	論文196	Dubal DB, Zhu L, Sanchez PE, Worden K, Broestl L, Johnson E, Ho K, Yu GQ, Kim D, Betourne A, <u>Kuro-o M</u> , Masliah E, Abraham CR & Mucke L. Life Extension Factor Klotho Prevents Mortality and Enhances Cognition in hAPP Transgenic Mice. <i>J Neurosci</i> 35, 2358-2371, 2015.
有	論文197	Barker SL, Pastor J, Carranza D, Quinones H, Griffith C, Goetz R, Mohammadi M, Ye J, Zhang J, Hu MC, <u>Kuro-o M</u> , Moe OW & Sidhu SS. The demonstration of α Klotho deficiency in human chronic kidney disease with a novel synthetic antibody. <i>Nephrol Dial Transplant</i> 30, 223-233, 2015.
有	論文198	Xie J, Yoon J, An SW, <u>Kuro-o M</u> & Huang CL. Soluble Klotho Protects against Uremic Cardiomyopathy Independently of Fibroblast Growth Factor 23 and Phosphate. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26, 1150-1160, 2014.
有	論文199	Ravikumar P, Ye J, Zhang J, Pinch SN, Hu MC, <u>Kuro-o M</u> , Hsia CC & Moe OW. Alpha-Klotho protects against oxidative damage in pulmonary epithelia. <i>Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol</i> 307, L566-575, 2014.
有	論文200	Moe OW & <u>Kuro-o M</u> . Fibroblast growth factor 23 and uremic vascular calcification: is it time to escalate from biomarker status to pathogenic agent? <i>Kidney Int</i> 85, 1022-1023, 2014.
有	論文201	<u>Kuro-o M</u> . Calciprotein particle (CPP): a true culprit of phosphorus woes? <i>Nefrologia</i> 34, 1-4, 2014.

有	論文202	Jiang L, Xiao L, Sugiura H, Huang X, Ali A, Kuro-o M , Deberardinis RJ & Boothman DA. Metabolic reprogramming during TGFbeta1-induced epithelial-to-mesenchymal transition. <i>Oncogene</i> 34, 3908-3916, 2014.
有	論文203	Hu MC, Shi M, Cho HJ, Adams-Huet B, Paek J, Hill K, Shelton J, Amaral AP, Faul C, Taniguchi M, Wolf M, Brand M, Takahashi M, Kuro-o M , Hill JA & Moe OW. Klotho and Phosphate Are Modulators of Pathologic Uremic Cardiac Remodeling. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26, 1290-1302, 2014.
有	論文204	Hu MC, Kuro-o M & Moe OW. alphaKlotho and vascular calcification: an evolving paradigm. <i>Curr Opin Nephrol Hypertens</i> 23, 331-339, 2014.
有	論文205	Haenzi B, Bonny O, Masson R, Lienhard S, Dey JH, Kuro-o M & Hynes NE. Loss of Memo, a novel FGFR regulator, results in reduced lifespan. <i>FASEB J</i> 28, 327-336, 2014.
有	論文206	Dubal DB, Yokoyama JS, Zhu L, Broestl L, Worden K, Wang D, Sturm VE, Kim D, Klein E, Yu GQ, Ho K, Eilertson KE, Yu L, Kuro-o M , De Jager PL, Coppola G, Small GW, Bennett DA, Kramer JH, Abraham CR, Miller BL & Mucke L. Life extension factor klotho enhances cognition. <i>Cell reports</i> 7, 1065-1076, 2014.
有	論文207	Borst O, Munzer P, Schmid E, Schmidt EM, Russo A, Walker B, Yang W, Leibrock C, Szteyn K, Schmidt S, Elvers M, Faggio C, Shumilina E, Kuro-o M , Gawaz M & Lang F. 1,25(OH) ₂ vitamin D ₃ -dependent inhibition of platelet Ca ²⁺ signaling and thrombus formation in klotho-deficient mice. <i>FASEB J</i> 28, 2108-2119, 2014.
有	論文208	Shumilina E, Nurbaeva MK, Yang W, Schmid E, Szteyn K, Russo A, Heise N, Leibrock C, Xuan NT, Faggio C, Kuro-o M & Lang F. Altered regulation of cytosolic Ca ²⁺ concentration in dendritic cells from klotho hypomorphic mice. <i>Am J Physiol Cell Physiol</i> 305, C70-77, 2013.
有	論文209	Shen ZJ, Hu J, Ali A, Pastor J, Shiizaki K, Blank RD, Kuro-o M & Malter JS. Pin1 null mice exhibit low bone mass and attenuation of BMP signaling. <i>PLoS One</i> 8, e63565, 2013.
有	論文210	Radhakrishnan VM, Ramalingam R, Larmonier CB, Thurston RD, Laubitz D, Midura-Kiela MT, McFadden RM, Kuro-o M , Kiela PR & Ghishan FK. Post-Translational Loss of Renal TRPV5 Calcium Channel Expression, Ca(2+) Wasting, and Bone Loss in Experimental Colitis. <i>Gastroenterology</i> 145, 613-624, 2013.
有	論文211	Lin Y, Kuro-o M & Sun Z. Genetic Deficiency of Anti-Aging Gene Klotho Exacerbates Early Nephropathy in STZ-Induced Diabetes in Male Mice. <i>Endocrinology</i> 154, 3855-3863, 2013.

有	論文212	Kuro-o M. Klotho, phosphate and FGF-23 in ageing and disturbed mineral metabolism. <i>Nat Rev Nephrol</i> 9, 650-660, 2013.
---	-------	--

(部門名) 小児科学

読の有	通し番号	
有	論文213	Nakamura S, Muramatsu SI, Takino N, Ito M, Jimbo EF, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T, Osaka H. Gene therapy for Glut1-deficient mouse using an adeno-associated virus vector with the human intrinsic GLUT1 promoter. <i>The journal of gene medicine</i> 2018:e3013.
有	論文214	Akiyama T, Osaka H. Shimbo H, Kuhara T, Shibata T, Kobayashi K, Kurosawa K, Yoshinaga H.: SSADH deficiency possibly associated with enzyme activity-reducing SNPs. <i>Brain Dev</i> 38(9):871-4, 2016.
有	論文215	Kondo T, Funayama M, Miyake M, Tsukita K, Era T, Osaka H. Ayaki T, Takahashi R, Inoue H.: Modeling Alexander disease with patient iPSCs reveals cellular and molecular pathology of astrocytes. <i>Acta Neuropathol Commun</i> 4(1):69, 2016.
有	論文216	Nakamura S, Osaka H. Muramatsu SI, Takino N, Ito M, Aoki S, Jimbo EF, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T.: Gene therapy for a mouse model of glucose transporter-1 deficiency syndrome. <i>Mol Genet Metab Rep</i> 10:67-74, 2017.
有	論文217	Kojima K, Anzai R, Ohba C, Goto T, Miyauchi A, Thony B, Saitsu H, Matsumoto N, Osaka H. Yamagata T.: A female case of aromatic L-amino acid decarboxylase deficiency responsive to MAO-B inhibition. <i>Brain Dev</i> 38(10):959-63, 2016.

(部門名) 呼吸器内科学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文218	Kurosaki F, Yoshimoto T, Nakayama M, Bando M, Hagiwara K. Pulmonary Mycobacterium heckeshornense infection in a healthy woman. <i>J Infect Chemother</i> . 2018 Feb 3. pii: S1341-321X(18)30023-0. doi: 10.1016/j.jiac.2018.01.006.
有	論文219	Sawata T, Bando M, Nakayama M, Mato N, Yamasawa H, Takahashi M, Okamoto H, Sugiyama Y. Clinical significance of changes in Torque teno virus DNA titer after chemotherapy in patients with primary lung cancer. <i>Respir Investig</i> . 2018; 56: 173-178.
有	論文220	Mato N, Hirahara K, Ichikawa T, Kumagai J, Nakayama M, Yamasawa H, Bando M, Hagiwara K, Sugiyama Y, Nakayama T. Memory-type ST2+CD4+ T cells participate in the steroid-resistant pathology of eosinophilic pneumonia. <i>Sci Rep</i> . 2017; 7: 6805. doi: 10.1038/s41598-017-06962-x.
有	論文221	Sawahata M, Nakamura Y, Sugiyama Y. Appendectomy, tonsillectomy, and risk for sarcoidosis - A hospital-based case-control study in Japan. <i>Respir Investig</i> . 2017; 55: 196-202.
有	論文222	大貫 次利, 中山 雅之, 坂東 政司, 中野 智之, 佐多 将史, 中屋 孝清, 間藤 尚子, 山本 真一, 山沢 英明, 遠藤 俊輔, 杉山 幸比古. 凝血塊による気道閉塞に対しハイマン鉗子で摘出後に気管支充填術と気管支動脈塞栓術にて止血できた大量喀血の1例. <i>気管支学</i> 2016, 38; 377-381.

(部門名) 麻酔科

読 の 有	通し番号	
無	論文223	<u>五十嵐孝</u> , <u>竹内護</u> : 慢性腰痛に対する硬膜外腔内視鏡手術. 日本医師会雑誌 146 (1), 88-89, 2017
無	論文224	<u>五十嵐 孝</u> , <u>島田 宣弘</u> , 丹羽 康則, 佐藤 正章, 村井 邦彦, <u>竹内 護</u> : エピドラスコピーの最新知見. 日臨麻誌 37 (2), 270-274, 2017

《 図 書 》

(部門名) 東洋医学部門

	通し番号	
図書1		<u>村松慎一</u> : 筋萎縮性側索硬化症の遺伝子治療. In 神経治療. 日本神経治療学会、34(3):262-265, 2017.
図書2		<u>村松慎一</u> : 遺伝子治療 パーキンソン病の新展開ー発症の分子機構と新規治療パーキンソン病の新規治療. In 医学のあゆみ. 医歯薬出版株式会社、262(6):688-691頁、2017
図書3		<u>村松慎一</u> : 神経変性疾患 特集 実り始めた再生医療・遺伝子治療 臨床応用された遺伝子治療. In 小児内科. 東京医学社、49(7)2017-7:1000-1003頁、2017
図書4		<u>村松慎一</u> : パーキンソン病の遺伝子治療 特集パーキンソン病 -基礎・臨床の最新情報-. In 日本臨床. 日本臨床社、75 (1): 146-150頁、2017
図書5		<u>村松慎一</u> : Parkinson病 神経疾患と遺伝子治療 今, 着実に実り始めた遺伝子治療ー最新研究と今後の展開. In 遺伝子医学MOOK 30. 金田安史 編、メディカルドゥ、248-251頁、2016
図書6		<u>村松慎一</u> : パーキンソン病における遺伝子治療の有効性「Yes」の立場から. In Frontiers in Parkinson Disease. メディカルレビュー社、9 (4):14(176)-16 (178) 頁、2016
図書7		安藤喜仁、 <u>村松慎一</u> : パーキンソン病の Visual View Graft - induced dyskinesiaの病態. In Frontiers in Parkinson Disease. メディカルレビュー社、9 (2):24(82)-28(86) 頁、2016
図書8		小野(浅利)さやか、藤本健一、佐藤俊彦、 <u>村松慎一</u> : FMT-PETによるParkinson病の病態解析. In 機能的脳神経外科. 日本定位・機能神経外科学会、54(2015): 23-27頁、2015
図書9		<u>村松慎一</u> : これからの治療-iPS, 遺伝子治療-. In カレントセラピー. ライフメディコム、33(10): 70-74頁、2015
図書10		<u>村松慎一</u> : パーキンソン病の細胞移植ー歴史ー. In 難病と在宅ケア. 日本プランニングセンター、21(7): 53-55頁、2015
図書11		山形崇倫, <u>村松慎一</u> : 小児神経疾患の遺伝子治療ー日本発遺伝子治療製品の開発に向けて. In バイオインダストリー. シーエムシー出版、32(8):28-33頁、2015

図書12	<u>村松慎一</u> ：Parkinson病の遺伝子治療．In 神経治療学．日本神経治療学会、32(2)：99-102頁、2015
図書13	<u>村松慎一</u> ：神経疾患の遺伝子治療の現状と展望．In 小林祥泰，水澤英洋，山口修平 編：神経疾患最新の治療 2015-2017，南江堂，pp4-6，2015
図書14	<u>村松慎一</u> ：神経疾患に対する遺伝子治療．In 血液フロンティア 特集 遺伝子治療の臨床展開，25(5)：41(625)-45(629)，2015
図書15	<u>村松慎一</u> ：神経疾患に対するAAVベクターを用いた遺伝子治療．In Pharma Medica 特集 遺伝子治療の現在，33(4)：37-39，2015
図書16	<u>村松慎一</u> ：Parkinson病に対する遺伝子治療の現状と課題．In 機能的脳神経外科，53：20-24，2014
図書17	<u>村松慎一</u> ，小野さやか：遺伝子治療と再生医療．In 難病と在宅ケア，20(9)：56-59，2014
図書18	<u>村松慎一</u> ：パーキンソン病の遺伝子治療．In 別冊医学のあゆみ，pp131-134，2014
図書19	Kondo Y, Okuno T, Asari S, and <u>Muramatsu S</u> : Cell therapy for Parkinson's disease. In Human Fetal Tissue Transplantation: Edited by Stubblefield P and Bhattacharya N, pp193-203, Springer-Verlag, London, 2013
図書20	<u>村松慎一</u> ：パーキンソン病の遺伝子治療・細胞移植．In アクチュアル 脳・神経疾患の臨床 パーキンソン病と運動異常：辻省次 総編集，高橋良輔 専門編集，中山書店，pp384-391，2013
図書21	<u>村松慎一</u> ，藤本健一，加藤正哉，浅利さやか，水上浩明，中村優子，池口邦彦，川上忠孝，卜部匡司，久米晃啓，福嶋敬宜，佐藤俊彦，渡辺英寿，小澤敬也，中野今治：Parkinson病に対するAADC遺伝子治療の長期効果．In 機能的脳神経外科，52：38-42，2013
図書22	<u>村松慎一</u> ：パーキンソン病の遺伝子治療．In 医学のあゆみ 遺伝子・再生医療研究から学ぶパーキンソン病，247(10)：1119-1122，2013

(部門名) 心臓血管外科学部門

通し番号	
図書23	<u>三澤吉雄</u> ：心臓と血管の病気の最新治療．In 2013年版日経実力病院調査，日本経済新聞出版社，pp127-129，2013

(部門名) 分子病態研究部

通し番号	
図書24	<u>西村智</u> ：慢性組織炎症と血栓の生体蛍光イメージング．細胞 The Cell、Vol. 49 No. 7、ニューサイエンス社、p 21-25、2017
図書25	<u>西村智</u> ：血小板造血の謎とこたえ．血液フロンティア、医薬ジャーナル社、Vol. 27(6)、p 59-63、2017

図書26	<u>西村智</u> ：脂肪組織における免疫バランスの可視化解析—螢光をいかに生体を使うか． 医学の歩み 代謝調節における免疫細胞の役割、医歯薬出版株式会社、257巻6号 p. 665-672、2016
図書27	<u>西村智</u> ：脂肪組織中の制御性B細胞は肥満によって起こる脂肪組織炎症を負に制御する． In 細胞工学, 33(4): 434-445, 2014
図書28	<u>西村智</u> ：冠動脈硬化・急性冠症候群 急性血栓イベントを最新分子イメージングで解く． In Medicina, 51(4): 590-593, 2014
図書29	<u>西村智</u> ：生体分子イメージングによる微小循環の可視化と病態解析． In 臨床高血圧 State of the ART, 19(4): 12-16, 2014
図書30	<u>西村智</u> ：肥満に伴う脂肪組織リモデリング． In 日本臨床 増刊号 最新肥満症学 基礎・臨床研究の最前線, L72: 324-330, 2014
図書31	<u>西村智</u> ：メタボリックシンドロームにおける免疫・炎症性細胞のクロストーク． In 糖尿病学2014, pp44-49, 2014
図書32	<u>西村智</u> ：肥満の医学—臨床と研究の最先端． In 医学のあゆみ：生体分子イメージングでみる脂肪組織炎症の発生過程—手法論を含めて, 250(9): 845-850, 2014
図書33	<u>西村智</u> ：生体分子イメージングによる血栓形成・血管機能異常の可視化． In 内科：特集 一般内科外来でみる出血傾向「ぶつけてないのにアザ！」にあわてない, 114(2): 279-283, 2014
図書34	<u>西村智</u> ：二光子バイオイメージングと生活習慣病． In 医学のあゆみ, 1251(11): 1065-1068, 2014
図書35	<u>西村智</u> ：肥満に伴う脂肪組織炎症の免疫制御メカニズム In 代謝・内分泌系の慢性炎症, 別冊BioClinica慢性炎症と疾患, 4(1): 54-58, 2015
図書36	<u>西村智</u> ：肥満に伴う脂肪組織炎症と免疫細胞． In 内分泌・糖尿病・代謝内科, 39(6): 496-500, 2015

(部門名) 抗加齢医学研究部

通し番号	
図書37	椎崎和弘, <u>黒尾誠</u> ：CKDにおけるKlothoの役割． In 腎疾患・透析最新の治療 2014-2016, 南江堂, p5, 2014
図書38	<u>黒尾誠</u> ：FGF23-Klotho内分泌系とCKDにおける老化現象． In Annual Review 2015 腎臓, 中外医学社, p9, 2015
図書39	椎崎和弘, 三浦裕, 黒須洋, <u>黒尾誠</u> ：FGF23-Klotho内分泌系の生理機能． In 腎と骨代謝, 日本メディカルセンター, p6, 2015
図書40	土井盛博, 正木崇生, <u>黒尾誠</u> ：Klotho蛋白の腎保護作用． In 腎と骨代謝, 日本メディカルセンター, p9, 2015

《 学 会 発 表 》

(部門名) ウイルス学部門

通し番号	
------	--

学会1	<u>Okamoto H</u> : Liver-S3 Hepatitis E virus. Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2016, Kobe, Japan, November 2-5, 2016
学会2	Tanggis, Takahashi M, Kabayashi T, Nagashima S, Nashizawa T, <u>Okamoto H</u> : Production of monoclonal antibodies against the rat hepatitis E virus ORF3 protein and their application for studies of the ORF3 proteins. The 64th Annual Meeting of the Japanese Society for Virology, Sapporo, Japan, October 23-25, 2016
学会3	Owada Y, Oshiro Y, Inagaki Y, Takano K, Yuzawa K, Ohnishi H, Nagashima S, Takahashi M, <u>Okamoto H</u> , Ohkohchi N : Hepatitis E virus infection in heart and kidney transplant recipients in Japan ~progress report~. The 64th Annual Meeting of the Japanese Society for Virology, Sapporo, Japan, October 23-25, 2016
学会4	Nagashima S, Kobayashi T, Tanggis, Takahashi M, Nishizawa T, <u>Okamoto H</u> : Characterization of hepatitis E virus cell entry. The 64th Annual Meeting of the Japanese Society for Virology, Sapporo, Japan, October 23-25, 2016
学会5	Kobayashi T, Nagashima S, Nishizawa T, Tanggis, Takahashi M, <u>Okamoto H</u> : Development of a plasmid-based reverse genetics system for hepatitis E virus. The 64th Annual Meeting of the Japanese Society for Virology, Sapporo, Japan, October 23-25, 2016
学会6	鶴岡未央、三浦雅人、井上 淳、 <u>岡本宏明</u> : 同一のウイルスに汚染された豚レバーを全く違う経路から喫食して感染したと思われるE型急性肝炎の2例. 第41回日本肝臓学会東部会（東京） 2016年12月8日～9日
学会7	水野 恵、芳賀弘明、仁科武人、勝見智大、奥本和夫、齋藤貴史、 <u>岡本宏明</u> 、上野義之: 当院におけるE型急性肝炎症例の検討. 第41回日本肝臓学会東部会（東京） 2016年12月8日～9日
学会8	山崎勇一、長沼 篤、 <u>岡本宏明</u> : 急性肝炎の動向 E型急性肝炎30例の臨床的、ウイルス学的特徴. 第41回日本肝臓学会東部会（東京） 2016年12月8日～9日
学会9	<u>岡本宏明</u> : 内科領域におけるウイルス感染症～ウイルス感染症に対する最新の知識と治療～ A、E型肝炎. 第44回内科学の展望（広島） 2016年11月27日
学会10	<u>岡本宏明</u> : E型肝炎の現況とHEV研究の最近の知見. 第59回日本消化器病学会甲信越支部例会例会 第36回日本消化器病学会甲信越支部教育講演会（甲府） 2016年11月19日
学会11	大和田洋平、大城幸雄、稲垣勇紀、高野恵輔、湯沢賢治、大西浩史、長嶋茂雄、高橋雅春、 <u>岡本宏明</u> 、大河内信弘: わが国の心・腎移植患者におけるE型肝炎ウイルス感染の全国実態調査 ～全国スクリーニング中間報告～. 第52回日本移植学会総会（東京） 2016年9月30日～10月1日
学会12	眞田幸弘、横山孝二、熊谷秀規、片野 匠、平田雄大、岡田憲樹、山田直也、井原欣幸、浦橋泰然、 <u>岡本宏明</u> 、水田耕一: HBc抗体陽性ドナーを用いた生体肝移植後にoccult B型肝炎ウイルス感染を認めた小児例. 第43回日本小児栄養消化器肝臓学会（筑波） 2016年9月16日～18日

学会13	大和田洋平、大城幸雄、稲垣勇紀、高野恵輔、湯沢賢治、大西浩史、長嶋茂雄、高橋雅春、 岡本宏明 、大河内信弘：わが国の腎移植患者におけるE型肝炎ウイルス感染の全国実態調査 ～全国スクリーニング中間報告～. 第32回腎移植・血管外科研究会（姫路）2016年5月26日～28日
学会14	國田 智、高橋雅春、 岡本宏明 ：ラットを用いたE型肝炎ウイルス感染モデルの確立. 第63回日本実験動物学会総会（川崎） 2016年5月18日～20日
学会15	嶋田圭太、山本栄和、内田皓士、川端誠一、磯野香織、本田正樹、林田信太郎、阪本靖介、猪股裕紀洋、 岡本宏明 ：E型肝炎ウイルスによる劇症肝炎に対し生体肝移植を施行した1例. 第116回日本外科学会定期学術集会（大阪） 2016年4月14日～16日
学会16	大和田洋平、大城幸雄、稲垣勇紀、高野恵輔、湯沢賢治、大西浩史、長嶋茂雄、高橋雅春、 岡本宏明 、大河内信弘：わが国の臓器移植患者におけるE型肝炎ウイルスの感染実態. 第116回日本外科学会定期学術集会（大阪） 2016年4月14日～16日
学会17	Tanggis, Takahashi M, Nagashima S, Kobayashi T, Nishizawa T, Okamoto H : Construction of infectious cDNA clones of rat hepatitis E virus and their application for studies of replication mechanism. The 63rd Annual Meeting of the Japanese Society for Virology, Fukuoka, Japan, November 22-24, 2015
*学会18	Nagashima S, Takahashi M, Tanggis, Kobayashi T, Nishizawa T, Okamoto H : Characterization of hepatitis E virus particles released by the cellular exosomal pathway. The 63rd Annual Meeting of the Japanese Society for Virology, Fukuoka, Japan, November 22-24, 2015
学会19	Kobayashi T, Takahashi M, Tanggis, Jirintai, Nagashima S, Nishizawa T, Okamoto H : Production and characterization of monoclonal antibodies against rat hepatitis E virus capsid protein and their application. The 63rd Annual Meeting of the Japanese Society for Virology, Fukuoka, Japan, November 22-24, 2015
学会20	横山孝二、熊谷秀規、今川智之、 岡本宏明 、山形崇倫：母子感染によるOccult hepatitis B virus infectionの3例. 第42回日本小児栄養消化器肝臓学会（広島） 2015年10月16日～18日
学会21	清水千聖、小林 剛、深井泰守、安岡秀敏、山崎勇一、柿崎 暁、佐藤 賢、草野元康、山田正信、 岡本宏明 ：輸血によるE型急性肝炎の1例. 第618回日本内科学会関東地方会（東京） 2015年10月10日
学会22	渡邊俊司、森本直樹、岩下ちひろ、村山 梢、廣澤拓也、永山 学、津久井舞未子、竹澤敬人、高岡良成、大竹俊哉、富山 剛、木平 健、小野和則、今井政人、磯田憲夫、 岡本宏明 、山本博徳：当院および関連施設でのダクラタスビル・アスナプレビル併用療法の使用経験. 第19回日本肝臓学会大会（東京）2015年10月8日～9日
学会23	大和田洋平、大城幸雄、稲垣勇紀、高野恵輔、湯沢賢治、 岡本宏明 、大河内信弘：移植医療におけるHCV治療up-to-date わが国の腎移植患者におけるE型肝炎ウイルス感染の実態調査 第1次全国アンケート調査報告. 第51回日本移植学会総会（熊本） 2015年10月1日～3日
学会24	稲垣勇紀、大城幸雄、 岡本宏明 、大河内信弘：肝移植患者における慢性E型肝炎ウイルス感染の全国実態調査. 第51回日本移植学会総会（熊本） 2015年10月1日～3日

学会25	稲垣勇紀、大城幸雄、 岡本宏明 、大河内信弘：肝移植後患者におけるE型肝炎ウイルス感染状況．第14回日本組織移植学会総会（大阪） 2015年8月29日
学会26	Oshiro Y, Inagaki Y, Ohkohchi N, and Okamoto H : A nationwide survey of hepatitis E virus infection in liver transplant recipients in Japan. The International Liver Congress 2015–50 Annual meeting of the European Association of the Study of the Liver, Vienna, Austria, April 22–26, 2015
学会27	小林富成，高橋雅春，長嶋茂雄，西澤勉，吉林台， 岡本宏明 ：E型肝炎ウイルスの複製機構に関与する5'非翻訳領域の構造と機能に関する研究．第62回日本ウイルス学会学術集会，横浜，2014年11月10日
学会28	長嶋茂雄，吉林台，小林富成，唐吉思，高橋雅春，西澤勉， 岡本宏明 ：E型肝炎ウイルスの細胞侵入機構の解析．第62回日本ウイルス学会学術集会，横浜，2014年11月10日
学会29	唐吉思，吉林台，高橋雅春，長嶋茂雄，小林富成，西澤勉， 岡本宏明 ：ウサギE型肝炎ウイルスの培養細胞への馴化に伴うゲノム変異の解析．第62回日本ウイルス学会学術集会，横浜，2014年11月10日
学会30	小林富成，高橋雅春，長嶋茂雄，西澤勉，吉林台， 岡本宏明 ：E型肝炎ウイルスの複製機構に関与する5'非翻訳領域の構造と機能に関する研究．第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸，2013年11月10日
<u>*学会31</u>	長嶋茂雄，高橋雅春，吉林台，小林富成，西澤勉， 岡本宏明 ：細胞内膜輸送系を利用したE型肝炎ウイルスの放出機構の解析．第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸，2013年11月10日
学会32	田野井智倫，大城幸雄，服部眞次，竹内薫，永田恭介，安江博， 岡本宏明 ，大河内信弘：ブタ由来E型肝炎ウイルス(HEV)のラットへの感染実験 E型肝炎ワクチン開発に向けて．第49回日本肝臓学会総会，東京，2013年6月7日
学会33	岡本宏明 ：(特別講演) E型肝炎ウイルスについての最近の知見．第9回肝免疫・ウイルス・フロンティア，京都，2013年4月6日

(部門名) 動物資源開発部門

通し番号	
学会34	國田智 、 牧村幸敏 、二井卓哉、林晃生、井上泰秀：ヘアレスミニブタ摘出皮膚を用いた消毒薬効力評価系の確立．第64回日本実験動物学会，郡山，2017年5月25日～27日．
学会35	國田智 ，高橋雅春， 岡本宏明 ：ラットを用いたE型肝炎ウイルス感染モデルの確立．第63回日本実験動物学会総会，川崎，2016年5月18～20日．
<u>*学会36</u>	寺谷工， 牧村幸敏 ，半田紀子，笠原尚哉，浦橋泰然，高山達也， 菱川修司 ，小林英司， 國田智 ：ブタ臓器を用いた医療技術トレーニング担体の作出および評価．第62回日本実験動物学会，京都，2015年5月28日～30日．
学会37	牧村幸敏 ，平野暁教，藤田淳， 菱川修司 ， 國田智 ：心機能評価にMRIを用いる動物実験におけるテレメトリー法の適用．第62回日本実験動物学会総会，京都，2015年5月28～30日

(部門名) 医療技術トレーニング部門

* 学会38	<u>Yoshimitsu Izawa</u> , <u>Shuji Hishikawa</u> , Hiroyuki Maruyama, Tomohiro Muronoi, Nobuyuki Watanabe, Yukitoshi Makimura, Hideki Sasanuma, Keisuke Yamashita, Masayuki Suzukawa, Naohiro Sata, Alan K Lefor. Ex-vivo training with a pump is useful for training of repair of cardiac injury: Evaluated with Objective Structured Assessment of Technical Skills (OSATS). 10th Annual Congress of Korean Society of Acute Care Surgery, 4th Joint Scientific Congress of KSACS and JSACS. Busan, Republic of Korea. 2016.4.9.
--------	--

(部門名) 再生医学研究部

通し番号	
学会39	阿部朋行, 柴田宏昭, 原弘真, 魚崎英毅, 大貫貴広, 竹内絢香, 原明日香, ボラジギン・サラントラガ, 長尾慶和, <u>花園豊</u> : 異種移植系における同一ドナー由来リンパ球の影響. 第20回日本異種移植研究会, 大阪, 2018年3月10日
学会40	<u>Hanazono Y</u> : Strategy and tactics for genome-editing therapy in hematology. The 9th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences, Osaka, Japan, February 7-8, 2018
* 学会41	長尾恭光, 富永薫, 坂下英司, 阿部朋行, 秋本千鶴, <u>花園豊</u> , 遠藤仁司: 微細環境を用いた再樹立法による多能性幹細胞の高品質化. 第40回日本分子生物学会, 兵庫, 2017年12月6~9日
* 学会42	Hara H, and <u>Hanazono Y</u> : Generation of germfree pigs and their applications. 第14回自治医科大学国際シンポジウム, 栃木, 2017年7月1日
* 学会43	原弘真, 永山学, 柴田宏昭, 須田互, 大貫貴広, <u>菱川修司</u> , 國田智, 阿部朋行, 新幸二, 本田賢也, <u>花園豊</u> : ヒト腸内細菌定着ブタの作出と腸内細菌叢のメタ16S解析. 第5回 日本先進医工学ブタ研究会, 静岡, 2017年10月13日-14日
* 学会44	原弘真, 柴田宏昭, 中野和明, 阿部朋行, 魚崎英毅, 大貫貴広, <u>菱川修司</u> , 國田智, 渡邊将人, 濡木理, 長嶋比呂志, <u>花園豊</u> : 無菌環境下におけるSCIDブタ長期飼育の試み. 第5回 日本先進医工学ブタ研究会, 静岡, 2017年10月13日-14日
学会45	Abe T, Shibata H, Uosaki H, Hara H, Ohnuki T, Byambaa S, Chanthra N, Sarentonglaga B, Fukumori R, Nagao Y, and <u>Hanazono Y</u> : Generation of CD45-positive Hematopoietic Cells from Human iPS Cells in Vivo in Ovine Fetal Liver. International Society for Stem Cell Research 2017 Annual Meeting, Boston, USA, June 14-17, 2017
学会46	阿部朋行, 柴田宏昭, 魚崎英毅, 原弘真, 大貫貴広, スブドビャンバー, ナーウィンジャントラ, ボラジギンサラントラガ, 福森理加, 長尾慶和, <u>花園豊</u> : ヒトiPS細胞由来造血細胞のヒツジ体内での長期生着. 第64回日本実験動物学会総会, 福島, 2017年5月25日-27日

<u>*学会47</u>	原弘真, 柴田宏昭, 中野和明, 魚崎英毅, 大貫貴広, スブドビャンバー, ナーウィングジャントラー, 菱川修司 , 國田智, 長嶋比呂志, 濡木理, 花園豊 : ブタの無菌的娩出・飼育技術の確立とSCIDブタ飼育の試み. 第64回日本実験動物学会総会, 福島, 2017年5月25日-27日
学会48	花園豊 , 菱川修司 : アニマルラボの事例紹介と問題提起. 日本外科学会定期学術集会, 神奈川, 2017年4月27日-29日
学会49	花園豊 : ブタの実験動物としての有用性と可能性. 第31回日本整形外科学会基礎学術集会教育研修講演, 福岡, 2016年10月13日
学会50	阿部朋行, 大貫貴広, 河野正太, 原弘真, 柴田宏昭, 菱川修司 , 國田智, 花園豊 : 血小板減少モデルブタに輸注したヒト血小板の体内動態. 第4回日本先進医工学ブタ研究会, 静岡, 2016年10月7日~8日
学会51	大貫貴広, 阿部朋行, 河野正太, 原弘真, 柴田宏昭, 菱川修司 , 國田智, 花園豊 : ブスルファンによる血小板減少モデルブタの作出. 第4回日本先進医工学ブタ研究会, 静岡, 2016年10月7日-8日
学会52	花園豊 : 当番世話人講演「ブタを用いる研究の現状と展望」. 第4回日本先進医工学ブタ研究会, 静岡, 2016年10月7日-8日
<u>*学会53</u>	原弘真, 大貫貴広, 河野正太, 阿部朋行, 柴田宏昭, 中野和明, 長嶋比呂志, 菱川修司 , 國田智, 花園豊 : 無菌ブタの作出とその無菌的管理技術の確立. 第4回日本先進医工学ブタ研究会, 静岡, 2016年10月7日-8日
学会54	Abe T, Ohnuki T, Hara H, Shibata H, Kono S, and Hanazono Y : The fates of infused human platelets in busulfan-induced thrombocytopenic pigs. 第15回自治医科大学シンポジウム, 栃木, 2016年9月16日
<u>*学会55</u>	渡邊将人, 松成ひとみ, 中野和明, 梅山一大, 高柳就子, 長屋昌樹, 宮川周士, 花園豊 , 中内啓光, 長嶋比呂志: ブタにおけるゲノム編集技術を用いた遺伝子ノックアウト. 日本ゲノム編集学会第1回大会, 広島, 2016年9月6日-7日
学会56	河野正太, 阿部朋行, 大貫貴広, 花園豊 : ブタに輸注したヒト血小板の体内動態. 第18回日本異種移植研究会, 長崎, 2016年2月20日
<u>*学会57</u>	渡邊将人, 松成ひとみ, 中野和明, 梅山一大, 長屋昌樹, 宮川周士, 花園豊 , 中内啓光, 長嶋比呂志: 人工ヌクレアーゼを用いた遺伝子ノックアウト細胞の樹立およびブタの作出効率. 第38回日本分子生物学会, 兵庫, 2015年12月1-4日

学会58	花園豊 ：自治医科大学におけるブタ利用研究．第3回日本先進医工学ブタ研究会，東京，2015年10月16-17日
学会59	武石透輝，中野和明，浅野吉則，内倉鮎子，畑江将太，福田暢，八島紗耶香，松成ひとみ，渡邊将人，梅山一大，長屋昌樹， 花園豊 ，長嶋比呂志：クサビラオレンジを全身性に発現するミニブタ系統の開発．第108回繁殖生物学会，宮崎，2015年9月17-20日
学会60	中野和明，渡邊将人，松成ひとみ，内倉鮎子，浅野吉則，武石透輝，畑江将太，高草木大地，梅木育麿，福田暢，八島紗耶香，勝俣佑起，梅山一大，長屋昌樹， 花園豊 ，長嶋比呂志：胚盤胞補完法はIL2R γ 遺伝子ノックアウト免疫不全ブタの免疫細胞を救済する．第108回繁殖生物学会，宮崎，2015年9月17-20日
学会61	福田暢，中野和明，浅野吉則，武石透輝，畑江将太，内倉鮎子，梅木育麿，笠井悠里，勝俣佑起，八島紗耶香，松成ひとみ，渡邊将人，梅山一大，長屋昌樹， 花園豊 ，長嶋比呂志：Gamete Intra Fallopian Transfer(GIFT)法による糖尿病発症ミニブタの作出．第108回繁殖生物学会，宮崎，2015年9月17-20日
<u>* 学会62</u>	八島紗耶香，中野和明，浅野吉則，笠井悠里，勝俣佑起，福田暢，高草木大地，梅木育麿，武石透輝，畑江将太，松成ひとみ，渡邊将人，梅山一大，長屋昌樹， 花園豊 ，長嶋比呂志：胚盤胞補完によって救済されたIL2R γ 遺伝子ノックアウトキメラブタは正常な繁殖能力を有する．第108回繁殖生物学会，宮崎，2015年9月17-20日
学会63	河野正太，菱川修司，阿部朋行，長田直希，國田智， 花園豊 ：ブスルファンによる血小板減少モデルブタの作出．第158回獣医学会学術集会，十和田，2015年9月7-9日
学会64	Urabe M, Abe T, Uchibori R, Tsukahara T, Kume A, Mizukami H, Hanazono Y , and Ozawa K: Re-evaluation of thymidine kinase mutants as a safety switch for iPS cells. The 21th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, Osaka, July 24-26, 2015
学会65	渡邊将人，松成ひとみ，中野和明，梅山一大，長屋昌樹，宮川周士， 花園豊 ，中内啓光，長嶋比呂士：ゲノム編集を用いた遺伝子ノックアウトクローンブタの作出効率．日本動物細胞工学会2015年度大会，青葉，2015年7月9-10日
学会66	阿部朋行，長尾慶和，原明日香，スブド・ビャンバー，柳瀬公秀，ボラジギン・サントラガ，緒方和子，山口美緒，福森理加， 花園豊 ：ヒツジ子宮内移植系におけるヒト造血細胞の生着促進・増幅技術の開発．第17回日本異種移植研究会，下野，2015年3月14日
学会67	Matsunari H, Watanabe M, Nakano K, Uchikura A, Asano Y, Hatae S, Takeishi T, Umeyama K, Nagaya M, Miyagawa S, Hanazono Y , Nakauchi H, and Nagashima H: Production efficiency of gene knockout pigs using genome editing and somatic cell cloning. 41th Annual Conference of the International Embryo Transfer Society, Versailles, France, January10-13, 2015
学会68	花園豊 ：ブタを利用するiPS細胞研究：マウスからヒトへの橋渡し．第3回実験動物科学シンポジウム，山形，2014年12月12日
学会69	花園豊 ：ブタ体内でヒト血液・臓器を育てる研究について．第2回日本先進医工学ブタ研究会，静岡，2014年10月24-25日
学会70	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y , Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S , Kobayashi E , and Hanazono Y : Transplantation-related Immunity of Porcine Induced Pluripotent Stem Cells in the MHC-matched Allogeneic Setting. The 2nd Annual Meeting of Japanese Society of Swine for Advanced Technology and Translational Research, Shizuoka, October 24-25, 2014
学会71	水上喜久，阿部朋行，柴田宏昭， 牧村幸敏 ，藤城修平，柳瀬公秀， 菱川修司 ， 小林英司 ， 花園豊 ：Transplantation-related Immunity of Porcine Induced Pluripotent Stem Cells in the MHC-matched Allogeneic Setting．第13回自治医科大学シンポジウム，下野，2014年9月5日

学会72	阿部朋行, スブド・ビャンバー, 柳瀬公秀, 原明日香, 長尾慶和, 花園豊 : Hematopoietic Engraftment of Human iPS Cells in Sheep after in Utero Transplantation. 第13回自治医科大学シンポジウム, 下野, 2014年9月5日
学会73	武石透輝, 中野和明, 松成ひとみ, 林田豪太, 浅野吉則, 内倉鮎子, 畑江将太, 大海原雅人, 渡邊将人, 梅山一大, 長屋昌樹, 花園豊 , 長嶋比呂志: 全身性にクサビラオレンジを発現するミニブタ交雑種の開発. 第107回日本繁殖生物学会, 帯広, 2014年8月21-24日
学会74	中野和明, 渡邊将人, 松成ひとみ, 小林美里奈, 松村幸奈, 坂井理恵子, 倉本桃子, 林田豪太, 浅野吉則, 内倉鮎子, 梅山一大, 長屋昌樹, 花園豊 , 長嶋比呂志: ゲノム編集と体細胞クローニングによる免疫不全ブタの作出. 第107回日本繁殖生物学会大会, 帯広, 2014年8月21-24日
学会75	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y , Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S , Kobayashi E , and Hanazono Y : Immune responses against induced pluripotent stem cells in porcine MHC-matched allogeneic setting. Swine in Biomedical Research Conference 2014, Raleigh, NC, USA, July 6-8, 2014
学会76	Watanabe M, Nakano K, Matsunari H, Kobayashi M, Matsumura Y, Sakai R, Kuramoto M, Hayashida G, Asano Y, Uchikura A, Umeyama K, Nagaya M, Hanazono Y , and Nagashima H: Generation of X-linked SCID pigs by genome editing and somatic cell cloning. Swine in Biomedical Research International Conference 2014, Raleigh, NC, USA. July 6-8, 2014
学会77	花園豊 : 動物を用いたヒト血液細胞の作出. 第62回日本輸血・細胞治療学会総会, 奈良, 2014年5月15日
学会78	阿部朋行, 長尾慶和, 柳瀬公秀, 原明日香, ボラジギン・サラントラガ, 緒方和子, 花園豊 : ヒツジ子宮移植系におけるヒト造血細胞の生着・増幅技術の開発. 第61回日本実験動物学会総会, 札幌, 2014年5月5日
学会79	花園豊 : 幹細胞治療研究における医学と獣医学の連携. 平成25年度獣医学術学会年次大会, 幕張, 2014年2月21-23日
学会80	新井良和, 大鐘潤, 藤城修平, 中野和明, 塩田邦郎, 花園豊 , 長嶋比呂志: 実物としてのマウス多能性幹細胞DNAメチル化プロファイルに基づく幹細胞評価: ブタiPS細胞を例として. 第7回日本エピジェネティクス研究会年会, 奈良, 2013年5月30-31日
学会81	下澤律浩, 藤城修平, 水上喜久, 阿部朋行, 花園豊 : カニクイザル初期胚を用いたES細胞の特性に関する検討. 第54回日本卵子学会, 東京, 2013年5月25-26日
学会82	阿部朋行, 花園豊 : ヒト化ヒツジの作製を目指して. 第60回日本実験動物学会総会ワークショップ, つくば, 2013年5月17日
学会83	花園豊 : 血液再生: マウスからヒトへ. 第12回日本再生医療学会総会, 横浜, 2013年3月21-23日
学会84	Arai Y, Ohgane J, Fujishiro S, Nakano K, Matsunari H, Watanabe M, Umeyama K, Azuma D, Uchida N, Sakamoto N, Makino T, Yagi S, Shiota K, Hanazono Y , and Nagashima H: Evaluation of porcine induced pluripotent stem cells based on the DNA methylation profile of mouse embryonic stem cell-specific hypomethylated loci. 36th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan, Kobe, December 3-6, 2013
学会85	渡邊将人, 中野和明, 松成ひとみ, 松田泰輔, 金井貴博, 小林美里奈, 松村幸奈, 坂井理恵子, 倉本桃子, 林田豪太, 浅野吉則, 高柳就子, 新井良和, 梅山一大, 長屋昌樹, 花園豊 , 長嶋比呂志: Zinc finger nuclease発現mRNAによるIL2R γ 遺伝子ノックアウトブタの作出. 第36回日本分子生物学会, 神戸, 2013年12月3-6日

学会86	花園豊 ：マウスからヒトへ：ブタを利用する橋渡し研究．第1回日本先進医工学ブタ研究会，大阪，2013年11月12日
学会87	長尾慶和，阿部朋行，柳瀬公秀，ボラジギン・サラントラガ，緒方和子，山口美緒，林聡， 花園豊 ：ヒツジ子宮内異種移植(I)：生着条件の検討．第16回日本異種移植研究会，大阪，2013年11月10日
学会88	阿部朋行，長尾慶和，柳瀬公秀，ボラジギン・サラントラガ，緒方和子，山口美緒，林聡， 花園豊 ：ヒツジ子宮内異種移植(II)：長期間の造血再構築．第16回日本異種移植研究会，大阪，2013年11月10日
学会89	Hanazono Y : Human-to-animal reversed xenogeneic transplantation for producing human blood in animals. Joint Meeting of the 2nd Symposium of the East Asia Xenotransplantation Association (EAXA) /the 16th Japan Xenotransplantation Association (JXA), Osaka, November 10, 2013
学会90	Hanazono Y : Porcine iPS. 12th Congress of International Xenotransplantation Association, Osaka, November 10–13, 2013
学会91	Nagao, Y, Abe T, Tanaka Y, Sasaki K, Masuda S, Sarentonglaga B, Ogata K, Yamaguchi M, Hayashi S, Kitano Y, and Hanazono Y : Factors influencing engraftment of monkey embryonic stem cells in sheep after xenogeneic in utero transplantation. Oral presentation. 12th Congress of the International Xenotransplantation Association, Osaka, November 10–13, 2013
学会92	Abe T, Masuda S, Sarentonglaga B, Ogata K, Yamaguchi M, Hayashi S, Nagao Y, and Hanazono Y : Long-term comparative study on the engraftment of human hematopoietic stem cells in sheep after xenogeneic in utero transplantation. 12th Congress of International Xenotransplantation Association, Osaka, November 10–13, 2013
学会93	花園豊 ：再生医学研究：臨床応用をめざして．第77回日本皮膚科学会東部支部学術大会，大宮，2013年9月21–22日

(部門名) 救急医学

<u>*学会94</u>	伊澤祥光、菱川修司 、牧村幸敏、鈴川正之、佐田尚宏．下大静脈/肝静脈損傷を伴う肝損傷に対する一時的止血デバイスの開発．第116回日本外科学会定期学術集会．大阪 2016年4月16日．
--------------	--

(部門名) 先端治療開発部門

通し番号	
学会95	許懷哲，絵野沢伸， 小林英司 ：新生仔期胸腺全摘出マイクロミニブタを用いたヒト肝細胞移植実験モデル．第15回日本再生医療学会総会，大阪，2016年3月17–19日
学会96	小林英司 ，絵野沢伸，許懷哲：ヒト由来肝細胞のin vivoバイオリアクターとしての世界最小ミニブタの確立．第33回日本肝移植研究会，神戸，2015年5月28–29日

(部門名) 東洋医学部門

通し番号	
------	--

学会97	<u>村松慎一</u> : 遺伝子治療がもたらす次世代の医療. 第17回日本再生医療学会総会 共催学術セミナー22, 横浜, 2018年3月21-23日
学会98	<u>村松慎一</u> : AAVベクターによる神経疾患の遺伝子治療. 第17回日本再生医療学会総会 シンポジウム, 横浜, 2018年3月21-23日
学会99	<u>村松慎一</u> : 神経疾患の遺伝子治療. 平成29年度 第20回ヒューマンサイエンス総合研究ワークショップ 遺伝子治療の実用化に向けた新たな展望ー最新動向と今後の課題ー, 東京, 2018年3月15-16日
学会100	<u>Muramatsu S</u> : Gene therapy for ALS. 3rd Global ARO Network Workshop, Tokyo, Japan, March 7, 2018
学会101	<u>Muramatsu S</u> : Gene therapy for neurodegenerative diseases. 21st US-Japan Cellular and Gene Therapy Conference, Maryland, USA, March 1, 2018
学会102	<u>Muramatsu S</u> : Gene therapy for CNS disorders: current protocols and future applications. The 5th IMSUT-CGCT Symposium 2018, Tokyo, Japan, Jan 30, 2018
学会103	<u>村松慎一</u> : AAVベクターによる遺伝子治療. 先導的学際研究機構 創薬サイエンス部門シンポジウム 「我が国が切り拓く難病治療の未来」, 大阪, 2018年1月19日
学会104	<u>村松慎一</u> : 脳に届くAAVベクター. 自治医科大学先端医療技術開発センター シンポジウム2017, 自治医科大学, 2017年11月20日
学会105	<u>村松慎一</u> : パーキンソン病など神経疾患の遺伝子治療はもう現実. 第23回世界神経学会議 WCN2017 Patients Awareness Day -患者さんとともに神経疾患を考える-, 京都, 2017年9月16日
学会106	<u>村松慎一</u> : AAVベクターによる遺伝子治療. 第47回新潟神経学夏期セミナー(新潟) 2017年7月27日~29日
学会107	Sehara Y, Fujimoto K, Ikeguchi K, Katakai Y, Ono F, Takino N, Ito M, Ozawa K, <u>Muramatsu S</u> : Life-long behavioral recovery after gene therapy in a primate model of Parkinson disease. The 40th annual meeting of the Japan neuroscience society, Makuhari, Japan, July 20-23, 2017
学会108	Ohmori T, Nagao Y, Mizukami H, Sakata A, <u>Muramatsu S</u> , Ozawa K, Tominaga S, Hanazono Y, Nishimura S, Nureki O, Sakata Y: The cure of hemophilia B by CRISPR/Cas9-mediated genome editing. The 23rd annual meeting of JSGCT, Okayama, Japan, July 20-22, 2017
学会109	Miyazaki Y, <u>Muramatsu S</u> , Gomez C.M., Sobue G: AAV-based therapeutic delivery of miRNA in neurodegenerative diseases. The 23rd annual meeting of JSGCT, Okayama, Japan, July 20-22, 2017
学会110	Sehara Y, Fujimoto K, Ikeguchi K, Katakai Y, Ono F, Takino N, Ito M, Ozawa K, <u>Muramatsu S</u> : Life-long behavioral recovery and persistent expression of transgenes after gene therapy in a primate model of Parkinson disease. The 23rd annual meeting of JSGCT, Okayama, Japan, July 20-22, 2017

学会111	Kojima K, Miyauchi A, Nakajima T, Saitoh S, Muramatsu S , Osaka H, Yamagata T: Gene therapy for aromatic L-amino acid decarboxylase (AADC) deficiency: Indication for milder patients. The 23rd annual meeting of JSGCT, Okayama, Japan, July 20-22, 2017
学会112	Nakamura S, Osaka H, Muramatsu S , Takino N, Ito M, Jimbo E.F, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T: Gene therapy for Glut1-deficient mouse using AAV vector with the human intrinsic GLUT1 promoter. The 23rd annual meeting of JSGCT, Okayama, Japan, July 20-22, 2017
学会113	村松慎一 :神経変性疾患の遺伝子治療-今後の新しい治療展開. 第2回神経代謝病研究会(東京) 2017年7月5日
学会114	Muramatsu S : Adeno-associated virus(AAV)-based gene therapy. The 4th IMSUT-CGCT Symposium 2017, Tokyo, Japan, June 27, 2017
学会115	Sehara Y, Fujimoto K, Ikeguchi K, Katakai Y, Ono F, Takino N, Ito M, Ozawa K, Muramatsu S : Life-long transgene expressions of dopamine-synthesizing enzymes in a primate model of Parkinson disease. The ASGCT 20th annual meeting, Washington DC, USA, May 10-13, 2017
学会116	大貫良幸, 小野さやか, 中嶋剛, 小島華林, 斎藤順一, 多賀直行, 渡辺英寿, 小澤敬也, 佐藤俊彦, 平井真洋, 小坂仁, 川合健介, 山形崇倫, 村松慎一 : FMT-PETによる芳香族アミノ酸脱炭酸酵素(AADC)欠損症に対する定位脳遺伝子治療の評価. 第56回日本定位・機能神経外科学会(大阪) 2017年1月27日~28日
学会117	Muramatsu S : Gene therapy for neurodegenerative diseases. European Society of Gene & Therapy, Florence, Italy, October 18-21, 2016
学会118	村松慎一 : パーキンソン病にウイルスベクターを用いた遺伝子治療は可能かーYES. 第10回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres(京都) 2016年10月6日~8日
学会119	Muramatsu S : Gene therapy for central nervous system disorders. The 22th Annual Meeting of the Japan Society of Gene and Cell Therapy, Tokyo, Japan, Jul 28-30, 2016
学会120	Hwu WL, Chien YH, Lee NC, Tseng SH, Muramatsu S , Byrne B: Gene therapy for AADC deficiency: toward a standard therapy. The 22th Annual Meeting of the Japan Society of Gene and Cell Therapy, Tokyo, Japan, Jul 28-30, 2016
学会121	Yamagata T, Kojima K, Nakajima T, Miyauchi A, Mizukami H, Osaka H, Muramatsu S : Development and clinical application of gene therapy using AAV for child neurological diseases. The 22th Annual Meeting of the Japan Society of Gene and Cell Therapy, Tokyo, Japan, Jul 28-30, 2016
学会122	Kojima K, Miyauchi A, Nakajima T, Asari-Ono S, Saga Y, Mizukami H, Sato T, Muramatsu S , Osaka H, Yamagata T: Improved motor and cognitive function of Aromatic L-Amino acid Decarboxylase(AADC) deficient patients following gene therapy using the AAV2 vector. The 22th Annual Meeting of the Japan Society of Gene and Cell Therapy, Tokyo, Japan, Jul 28-30, 2016
学会123	Nakamura S, Osaka H, Muramatsu S , Takino N, Aoki S, F.Jimbo E, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T: Gene therapy for a mouse model of glucose transporter-1 deficiency syndrome. The 22th Annual Meeting of the Japan Society of Gene and Cell Therapy, Tokyo, Japan, Jul 28-30, 2016

学会124	<u>村松慎一</u> ：神経疾患の遺伝子治療。平成28年度日本生化学会関東支部例会(栃木) 2016年6月11日
学会125	<u>Muramatsu S</u> : In vivo monitoring of AADC gene delivery by PET. 57th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology, Kobe, Japan, May 18-21, 2016
学会126	Ando Y, Asari-Ono S, Nakajima T, Watanabe K, Saga Y, Mizukami H, Watanabe E, Sato T, Ozawa K, <u>Muramatsu S</u> : The second clinical study on AADC Gene Therapy for Parkinson's Disease. 57th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology, Kobe, Japan, May 18-21, 2016
学会127	Asari-Ono S, Nakajima T, Kojima K, Miyauchi A, Saitou J, Saga Y, Mizukami H, Taga N, Takeuchi M, Watanabe E, Ozawa K, Sato T, Kato M, Osaka H, Yamagata T, <u>Muramatsu S</u> : FMT-PET analysis in gene therapy for AADC deficiency. 57th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology, Kobe, Japan, May 18-21, 2016
学会128	<u>Muramatsu S</u> : Gene Therapy for AADC Deficiency – clinical study in Japan. 3rd International AADC 2-day Medical & Scientific Conference, London, UK, May 13-14, 2016
学会129	山形崇倫, 小島華林, 宮内彰彦, 多賀直行, 小野さやか, 齋藤順一, 嵯峨泰, 水上浩明, 加藤光広, 中嶋剛, 小坂仁, <u>村松慎一</u> ：AADC欠損症に対する遺伝子治療。第15回日本再生医療学会総会(大阪) 2016年3月17日～19日
学会130	<u>村松 慎一</u> ：AAV ベクターを用いた遺伝子治療。小児難治性神経疾患に対する遺伝子治療シンポジウム～AADC欠損症での有効例の報告～(東京) 2016年1月30日
学会131	<u>村松慎一</u> ：神経疾患の遺伝子治療。第57回日本先天代謝異常学会総会(大阪) 2015年11月12日～14日
学会132	<u>Muramatsu S</u> : Gene therapy for Neurodegenerative Diseases. The 21th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy, Osaka, Japan, Jul 24-26, 2015
学会133	小野さやか, 本健一, 川合耕一郎, 齋藤順一, 佐藤俊彦, <u>村松慎一</u> ：パーキンソン病における軽度認知機能障害と線条体AADC機能解析。第56回日本神経学会学術大会, 新潟, 2015年5月20-23日
学会134	<u>村松慎一</u> ：Parkinson病の細胞移植-歴史。第56回日本神経学会学術大会教育講演, 新潟, 2015年5月20-23日
学会135	小野さやか, 藤本健一, 池口邦彦, 佐藤俊彦, <u>村松慎一</u> ：FMT-PETによるParkinson病の病態解析。第54回日本定位・機能神経外科学会, 東京, 2015年1月16-17日
学会136	<u>村松慎一</u> ：AAVベクターによる遺伝子治療。第54回日本定位・機能神経外科学会, 東京, 2015年1月16-17日
学会137	<u>Muramatsu S</u> : Gene therapy for Parkinson's disease: Current status and challenges. The First Asian Symposium on AADC Deficiency, Taipei, Taiwan, December 21, 2014
学会138	<u>村松慎一</u> ：Parkinson病の遺伝子治療。第32回日本神経治療学会総会, 東京, 2014年11月20-22日

学会139	小野さやか, 藤本健一, 池口邦彦, 佐藤俊彦, <u>村松慎一</u> : FMT-PETによるパーキンソン病のすくみ足の病態解析. 第8回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス, 京都, 2014年10月2-4日
学会140	<u>村松慎一</u> : 遺伝子治療と細胞治療. 神経変性の制御をめざして. 第8回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス, 京都, 2014年10月2-4日
学会141	飯田麻子, 滝野直美, 嶋崎久仁子, 伊藤美加, <u>村松慎一</u> : 大型動物の広範な中枢神経領域に遺伝子導入可能なアデノ随伴ウイルスベクターの開発. 第57回日本神経化学学会大会, 奈良, 2014年9月29日-10月1日
学会142	<u>村松慎一</u> , 新田淳美: パーキンソン病の遺伝子治療. AAVベクターを応用した神経・精神疾患の病態解明～基礎から臨床まで～. 第57回日本神経化学学会大会, 奈良, 2014年9月29日-10月1日
学会143	浅利さやか, <u>村松慎一</u> , 藤本健一, 齋藤順一, 佐藤俊彦, 福嶋敬宜, 中野今治: パーキンソン病の遺伝子治療: AADC発現の5年間の評価. 第55回日本神経学会学術大会, 福岡, 2014年5月21-24日
学会144	<u>村松慎一</u> : Gene therapy for Parkinson's disease in Japan: Current status and problems. 第55回日本神経学会学術大会シンポジウム, 福岡, 2014年5月21-24日
学会145	Iida A, Takino N, Miyauchi H, Itoh M, Shibata H, Ono F, and <u>Muramatsu S</u> : Widespread transduction of brain and spinal neurons following intra-theal injection of AAV9/3 vectors in nonhuman primates and pigs. International symposium "New Frontier of Molecular Neuropathology 2014", Tokyo, March 16-17, 2014
学会146	<u>村松慎一</u> : Parkinson病に対する遺伝子治療の現状と課題. 第53回日本定位・機能神経外科学会 シンポジウム, 大阪, 2014年2月7-8日
学会147	小野さやか, 藤本健一, 池口邦彦, <u>村松慎一</u> , 中野今治: 多系統萎縮症 (NSA-P) のFMT-PET解析. Movement Disorder Society Japan 第7回学術集会, 東京, 2013年10月10-12日
学会148	Iwata N, Sekiguchi M, Hattori Y, Takahashi A, Asai M, Ji B, Higuchi M, <u>Muramatsu S</u> , and Saido TC: Global and effective gene delivery of neprilysin to the brain via intravascular administration of AAV vector in alzheimer's disease mice. The 19th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy, Okayama, July 4-6, 2013
学会149	Iida A, Takino N, Miyauchi H, Shibata H, Ono F, and <u>Muramatsu S</u> : Widespread neuronal transduction in the primate brain via intrathecal administration of adeno-associated virus vectors. The 19th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy, Okayama, July 4-6, 2013
学会150	Nitta A, Ishikawa Y, Iegaki Y, Sumi K, Hurukawa-Hibi Y, <u>Muramatsu S</u> , Nabeshima T, Uno K, and Miyamoto Y: Different effects of shat1/nat8l-overexpression on the responses to methamphetamine between in mice nucleus accumbens and dorsal striatum. The 36th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society, Kyoto, June 20-23, 2013
学会151	Iwashita Y, Tokuoka H, Munezane H, <u>Muramatsu S</u> , and Ichinose H: Distinct regulation mechanism of the dopamine content in the striatum from that in the midbrain. The 36th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society, Kyoto, June 20-23, 2013
学会152	Iida A, Takino N, Miyauchi H, Shibata H, Ono F, and <u>Muramatsu S</u> : Widespread transduction of neurons in the primate brain using intrathecal injection of AAV vectors. The 36th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society, Kyoto, June 20-23, 2013
学会153	<u>Muramatsu S</u> : Gene therapy for Parkinson's disease: Advances and challenges. The 36th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society, Kyoto, June 20-23, 2013

学会154	Miyamoto Y, Iegaki N, Sumi K, Ishikawa Y, Furuta T, Hibi Y, Muramatsu S , Nabeshima T, Uno K, and Nitta A: Overexpression of shat1/nat8l in the dorsal striatum affects emotional behaviors via dysfunction of serotonergic neuronal system in mice. The 36th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society, Kyoto, June 20–23, 2013
学会155	村松慎一 ：パーキンソン病のAADC遺伝子治療：長期効果遺伝子発現の検証. 第54回日本神経学会学術大会，東京，2013年5月29日–6月1日
学会156	浅利さやか，藤本健一，池口邦彦， 村松慎一 ，中野今治：FMT-PETによる多系統萎縮症(MSA-P)の線条体ドパミン機能解析. 第54回日本神経学会学術大会，東京，2013年5月29日–6月1日
学会157	Muramatsu S : Gene therapy clinical trial update for AADC. Cell and Gene Therapies for Inherited Metabolic Disease, London, UK, April 17, 2013

(部門名) 脳神経外科学

通し番号	
学会158	Uga M, Saito S, Yokota , Oguro K, Rizki EE, Mizutani T, Dan I, and Watanabe E : The development of functional Near-infrared Cortical Imaging (fNCI): the direct cortical hemodynamic mapping of the miniature pig's somatosensory area. fNIRS2014, Montréal, Canada, October 10–12, 2014
学会159	Uga M, Saito T, Yokota H, Oguro K, Rizki EE, Mizutani T, Katura T, Dan I, and Watanabe E : The direct brain hemodynamic imaging of pig by functional Near-infrared Cortical Imaging (fNCI). The 20th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (OHBM 2014 Annual Meeting), Hamburg, Germany, June 18–20, 2014
学会160	宇賀美奈子，齋藤敏之，横田英典，小黒恵司，リゼキ・エドミ・エディソン，水谷勉，桂卓成，檀一平太， 渡辺英寿 ：Functional Near-infrared Cortical Imaging (fNCI) of the miniature pig brain : The comparison of hemoglobin species. 第37回日本神経科学大会，横浜，2014年9月11–13日

(部門名) 消化器内科学部門

通し番号	
学会161	Yano T , Nemoto D, Ono K, Miyata Y, Numao N, Lefor A, and Yamamoto H : Gel immersion endoscopy: A novel method of securing the visual field during endoscopy. DDW 2015, Washington DC, USA, May 19, 2015

(部門名) 循環器内科学部門

通し番号	
学会162	Böhm M, Kandzari D, Townsend R, Mahfoud F, Kario K , Pocock S, Weber M, Ewen S, Tsioufis K, Tousoulis D, Sharp A, Watkinson T, Schmieder R, Schmid A, Choi J, East C, Walton A, Hopper I, Cohen D, Wilensky R, Lee D, Ma A, Devireddy C, Lea J, Lurz P, Fengler K, Davies J, Chapman N on behalf of the SPYRAL HTN-OFF MED Trial Investigators. Investigation of catheter-based renal denervation in patients with uncontrolled hypertension in the absence of antihypertensive medications: Three-month results from the randomized, sham-controlled, proof of concept SPYRAL HTN-OFF MED Trial, European Society of Cardiology Congress 2017, Barcelona, Spain. August

学会163	<u>Kario K</u> Impact of renal denervation in Asia – evidence and perspectives. Taiwan Hypertension Society annual meeting, Taipei, Taiwan, December 18, 2016.
学会164	<u>Kario K</u> , Bakris GL, and Bhatt D: Resistant hypertension; Preferential reduction in morning/nocturnal hypertension by renal denervation for drug-resistant hypertension: A new ABPM analysis of SYMPLICITY HTN-3 and HTN-Japan. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12–15, 2015

(部門名) 心臓血管外科学部門

通し番号	
学会165	榑澤壮樹, 川人宏次, <u>三澤吉雄</u> : 透析患者の心臓手術における予後予測指標としてのPrognostic nutritional index の有用性. 第55回日本人工臓器学会大会 (東京) 2017年9月3日.
学会166	Takazawa I., <u>Misawa Y.</u> : Prophylactic effectiveness of vacuum assisted closure for high risk patients undergoing cardiovascular surgery through median sternotomy. 2017 International Coronary Congress, New York, USA, Aug 20 2017.
学会167	榑澤壮樹, 齊藤力, 村岡新, 相澤啓, 大木伸一, <u>三澤吉雄</u> : 急性A型解離に対しElephant trunk 法を用いた弓部置換術5年後に溶血性貧血を来し、ステントグラフト内挿術にて改善を認めた1 例. 第23回日本血管内治療学会総会 (奈良) 2017年7月28日.
学会168	菅谷彰, 川人宏次, 村岡新, 相澤啓, 榑澤壮樹, 阿久津博彦, 佐藤弘隆, 高澤一平, 上杉知資, <u>三澤吉雄</u> : No touch SVG の短期成績. 第22回日本冠動脈外科学会学術大会 (大阪) 2017年7月14日.
学会169	村岡新, 川人宏次, <u>三澤吉雄</u> : 動脈グラフトを用いたSequential grafting における4点結節側々吻合. 第22回日本冠動脈外科学会学術大会 (大阪) 2017年7月13日.
学会170	Kurumisawa S., Kawahito K., <u>Misawa Y.</u> : The utility of the prognostic nutritional index in hemodialysis dependent patients who undergo cardiovascular surgery. ASAIO (the American Society for Artificial Internal Organs) 63th Annual Conference, Chicago, USA, June 22 2017.
学会171	菅谷彰, 川人宏次, 相澤啓, 佐藤弘隆, <u>三澤吉雄</u> : 下大静脈/右心系へ進展した静脈内平滑筋腫症の2例. 第37回日本静脈学会総会 (徳島) 2017年6月15日.
学会172	相澤啓, 大木伸一, <u>三澤吉雄</u> : 腹部大動脈瘤破裂における2期的閉腹の経験. 第47回日本心臓血管外科学会学術総会 (東京) 2017年2月28日.
学会173	榑澤壮樹, 川人宏次, 上杉知資, 菅谷彰, 阿久津博彦, 高澤一平, 佐藤弘隆, 村岡新, 相澤啓, 大木伸一, 齊藤力, <u>三澤吉雄</u> : 透析患者の心臓手術における予後指標としてのprognostic nutritional indexの有用性. 第47回日本心臓血管外科学会学術総会 (東京) 2017年2月27日.
学会174	村岡新, 川人宏次, 相澤啓, <u>三澤吉雄</u> : 狭小冠動脈に対する4点結節側々吻合を用いた冠動脈血行再建. 第30回日本冠疾患学会学術集会 (東京) 2016年12月11日.
学会175	榑澤壮樹, 川人宏次, <u>三澤吉雄</u> : 透析患者における冠動脈バイパス術の治療成績ー長期成績に影響する気管因子の検討. 第54回日本人工臓器学会大会 (米子) 2016年11月24日.

学会176	川人宏次, 菅谷 彰, 木村直行, <u>三澤吉雄</u> : 4-D flow MRIを用いたComputational Fluid Dynamics (CFD)によるApico-Aortic Bypass術後の血行動態解析 - 心臓大血管領域におけるPatient Specific CFDの可能性. 第69回日本胸部外科学会定期学術集会 (岡山) 2016年9月29日.
学会177	佐藤弘隆, 川人宏次, 菅谷彰, 棚澤壮樹, 高澤一平, 村岡新, 相澤啓, 大木伸一, 齊藤 力, <u>三澤吉雄</u> : VSPに対する右室アプローチによるdouble patch法の治療成績. 第21回日本冠動脈外科学会学術大会 (久留米) 2016年7月14日.
学会178	Kawahito K., Nakamura M., Kimura N., Komiya K., <u>Misawa Y.</u> : Blood flow stagnation at the descending aorta after aortic valve bypass: a patient-specific evaluation of hemodynamics using magnetic resonance imaging based computational fluid dynamics simulation. ASAIO 62th Annual Conference, SAN FRANCISCO, June 16 2016.
学会179	相澤 啓, 川人宏次, <u>三澤吉雄</u> : A型大動脈解離に合併した大動脈逆流制御のための中枢側断端形成の工夫. 第44回日本血管外科学会学術総会 (東京) 2016年5月26日.
学会180	棚澤壮樹, 齊藤力, 阿久津博彦, 佐藤弘隆, <u>三澤吉雄</u> : 外傷性胸部大動脈損傷に対するステントグラフト内挿術の治療経験. 第44回日本血管外科学会学術総会 (東京) 2016年5月25日.
学会181	高澤一平, 相澤啓, 菅谷彰, 阿久津博彦, 棚澤壮樹, 佐藤弘隆, 村岡 新, 大木伸一, 川人宏次, <u>三澤吉雄</u> : 開心術後予防的vacume assisted closureの使用経験. 第44回日本血管外科学会学術総会 (東京) 2016年5月25日.
学会182	相澤 啓, <u>三澤吉雄</u> , 大木伸一: 超高齢者(85歳以上)のA型急性大動脈解離に対する手術. 第46回日本心臓血管外科学会学術総会 (名古屋) 2016年2月17日.
学会183	阿久津博彦, 川人宏次, 佐藤弘隆, 高澤一平, 福富基城, 緒方信彦, 荻尾七臣, <u>三澤吉雄</u> : 急性心筋梗塞による循環虚脱症例に対し, 心肺蘇生後に両心VADを導入し救命した1例. 第53回日本人工臓器学会大会 (東京) 2015年11月21日.
学会184	川人宏次, 佐藤弘隆, 相澤啓, 大木伸一, 齊藤力, <u>三澤吉雄</u> : 透析患者の弁膜症手術において術前低栄養状態は短期/長期手術成績に悪影響を及ぼす. MIA症候群における悪循環と低栄養. 第53回日本人工臓器学会大会 (東京) 2015年11月21日.
学会185	相澤啓, 川人宏次, <u>三澤吉雄</u> : A型急性大動脈解離術後, 遠隔期手術危険因子の検討. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会 (神戸) 2015年10月20日.
学会186	棚澤壮樹, 相澤啓, 大木伸一, <u>三澤吉雄</u> : 当院における基部置換術の遠隔成績の検討. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会 (神戸) 2015年10月18日.
学会187	佐藤弘隆, 川人宏次, 菅谷彰, 棚澤壮樹, 高澤一平, 村岡新, 相澤啓, 大木伸一, 齊藤力, <u>三澤吉雄</u> : 慢性透析患者に対する弁膜症手術の短期/長期成績 - 術前の栄養状態が予後に及ぼす影響について. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会 (神戸) 2015年10月18日.
学会188	高澤一平, 相澤啓, 阿久津博彦, 棚澤壮樹, 佐藤弘隆, 村岡新, 大木伸一, 川人宏次, <u>三澤吉雄</u> : A型急性大動脈解離における手術死亡因子の検討. 第43回日本血管外科学会学術総会, 横浜, 2015年6月5日
学会189	佐藤弘隆, 川人宏次, 阿久津博彦, 棚澤壮樹, 高澤一平, 村岡新, 相澤啓, 大木伸一, 齊藤力, <u>三澤吉雄</u> : 大血管手術時の循環停止が術中高血糖に与える影響 - 人工臓器(日機装STG-55)による連続血糖解析. 第43回日本血管外科学会学術総会, 横浜, 2015年6月4日
学会190	棚澤壮樹, 齊藤力, 阿久津博彦, <u>三澤吉雄</u> : 胸郭出口症候群に合併した左腋窩動脈瘤に対してハイブリッド治療を行った1例. 第43回日本血管外科学会学術総会, 横浜, 2015年6月5日

学会191	榎澤壮樹，相澤啓，大木伸一， <u>三澤吉雄</u> ：臓器虚血を伴ったA型急性大動脈解離の手術成績．第45回日本心臓血管外科学会学術総会，京都，2015年2月18日
学会192	相澤啓，大木伸一，川人宏次， <u>三澤吉雄</u> ：遠隔成績から見たA型大動脈解離治療方針の検討．第43回日本血管外科学会学術総会，横浜，2015年6月3日
学会193	高澤一平，川人宏次，菅谷彰，河田政明， <u>三澤吉雄</u> ：大動脈壁内走行を伴う左冠動脈起始異常に対するunroofing手術．第19回日本冠動脈外科学会学術大会，東京，2014年7月11日
学会194	高澤一平，川人宏次，榎澤壮樹，佐藤弘隆，村岡新，相澤啓，上西祐一朗，大木伸一，齊藤力， <u>三澤吉雄</u> ：慢性透析患者に対する弁膜症手術における予後不良因子の解析．第67回日本胸部外科学会定期学術集会，福岡，2014年10月2日
学会195	佐藤弘隆，齊藤力，榎澤壮樹，高澤一平，村岡新，相澤啓，大木伸一，小西宏明，川人宏次， <u>三澤吉雄</u> ：胸腹部大動脈瘤に対するdebranched TEVARの3例の経験．第42回日本血管外科学会学術総会，青森，2014年5月22日
学会196	佐藤弘隆，川人宏次，榎澤壮樹，高澤一平，村岡新，相澤啓，上西祐一朗，大木伸一，齊藤力，小西宏明， <u>三澤吉雄</u> ：糖尿病/非糖尿病患者の開心術中血糖値変動人工臓器を用いた持続血糖値測定の観点から．第44回日本心臓血管外科学会学術総会，熊本，2014年2月19日
学会197	村岡新，阿久津博彦，菅谷彰，榎澤壮樹，高澤一平，佐藤弘隆，相澤啓，大木伸一，齊藤力，川人宏次， <u>三澤吉雄</u> ：単一施設におけるBicarbon弁の15年間406例の臨床成績．第67回日本胸部外科学会定期学術集会，福岡，2014年10月2日

（部門名）移植外科学部門

通し番号	
* 学会198	Okada N, <u>Mizuta K</u> , Oshima M, Yamada N, Sanada Y, Ihara Y, Urahashi T, Ishikawa J, Tsuji T, <u>Hishikawa S</u> , Teratani T, and <u>Kobayashi E</u> : A split liver technique under the use of oxygenated circuit for donor cardiac death in pigs. 13th Congress of the Asian Society of Transplantation, Kyoto, September 4–5, 2013
学会199	岡田憲樹， <u>水田耕一</u> ，大島正充，石川 潤，岩崎史嵩，鈴木良次，辻 孝，山田直也，眞田幸弘，井原欣幸，浦橋泰然， <u>菱川修司</u> ，寺谷工， <u>小林英司</u> ：心停止ブタを用いた酸素化灌流法による分割肝移植法．第113回日本外科学会定期学術集会，福岡，2013年4月11–13日

（部門名）小児外科

通し番号	
学会200	<u>Maeda K</u> , <u>Ono S</u> , Baba K, Usui Y, Tsuji Y, Kawahara I, and Fukuta A: Laryngotracheal reconstruction for the treatment of severe pediatric airway stenosis. The 48th Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons, Jeju, Korea, May 17–21, 2015
学会201	<u>小野滋</u> ， <u>前田貢作</u> ，馬場勝尚，薄井佳子，辻由貴，河原仁守：声門下腔狭窄症に対する治療戦略と治療成績．第52回日本小児外科学会学術集会，神戸，2015年5月28–30日

（部門名）分子病態研究部

通し番号	
------	--

学会202	西村智 、坂田飛鳥、瀬尾欣也、江藤浩之：The contribution of endothelial damage and platelet age to thrombotic and regenerative processes. 第77回日本血液学会学術集会(石川) 2015年10月16日～18日
*学会203	西村智 ：バイオイメージングを用いた血栓止血学研究「みる」と「わかる」. 第37回日本血栓止血学会学術集会(山梨) 2015年5月21日～23日
*学会204	Nishimura S : Two photon high-speed XYZT imaging identify novel rapid 'rupture'-type thrombopoiesis from bone marrow megakaryocyte. Focus on Microscopy 2015, Germany, March 29- April 1, 2015
学会205	Nishimura S : Artery cell contraction via ROS and NO balance visualized by in vivo multi-photon imaging technique. Focus on Microscopy 2014, Sidney, Australia, April 13-16, 2014
学会206	西村智 ：生体二光子イメージングによる炎症病態解析 In vivo multi-photon imaging of inflammatory diseases. 第70回日本顕微鏡学会, 千葉, 2014年5月10-12日
学会207	西村智 ：(招待講演)NO,ROSのin vivoイメージング. 第14回日本NO学会学術集会, 佐賀, 2014年5月16-17日
学会208	西村智 ：生体二光子イメージングで明らかになる肥満脂肪組織における免疫・炎症性細胞の活性化機構. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日
学会209	西村智 , 江藤浩之, 永井良三 :生体非線形イメージングを用いた血栓形成過程における内皮・血小板・白血球クロストークの解明. 第36回日本血栓止血学会学術集会, 大阪, 2014年5月29-31日
学会210	西村智 , 江藤浩之, 永井良三 ：サイトカインバランスにより規定される血小板造血モード：分子イメージングによる可視化解析. 第36回日本血栓止血学会学術集会, 大阪, 2014年5月29-31日
学会211	西村智 ：光で見る生活習慣病の分子細胞メカニズム. 日本医用レーザー協会総会・定例会, 東京, 2014年6月4日
学会212	西村智 ：(招待講演)蛍光で生体を見る・知る. 第18回GI Cell Biology研究会, 東京, 2014年6月5日
学会213	西村智 , 長崎実佳, 矢富裕, 永井良三 ：オートタキシンは脂肪細胞分化を制御しメタボリック症候群に寄与する. 第56回日本脂質生化学会, 大阪, 2014年6月6-7日
学会214	Nishimura S , Eto K, and Nagai R : Thrombus development processes dependent on endothelial injuries: visualized by in vivo twophoton imaging. 60th Annual Meeting of the Scientific and Standardization Committee of the ISTH, Milwaukee, WI, USA, June 23-26, 2014
学会215	Nishimura S : Top Rated Abstract in Platelet Physiology: Morphological Distinction Unravels Mechanisms of Platelet Biogenesis from Bone Marrow Megakaryocytes.60th Annual Meeting of the Scientific and Standardization Committee of the ISTH, Milwaukee, WI, USA, June 23-26, 2014
学会216	西村智 ：サイトメトリーによる転写因子KLF5による血小板産生制御機構の解明. 第24回日本サイトメトリー学会学術集会, 大阪, 2014年6月28-29日
学会217	西村智 ：スペクトラムサイトメトリーを用いた細胞機能の多次元解析(シンポジウム招待講演). 第24回日本サイトメトリー学会学術集会, 大阪, 2014年6月28-29日

学会218	Nishimura S: Seeing the single platelet behavior in in vitro and living animals. XIII European Symposium on Platelet and Granulocyte Immunobiology 2014, Bad Homburg, Germany, July 3–6, 2014
学会219	Nishimura S: Thrombus formation, artery contractions, and aneurysm formations: examined by in vivo twophoton molecular imaging and laser manipulation. 第46回日本動脈硬化学会総会学術集会, 東京, 2014年7月10–11日
学会220	西村智: 生体非線形イメージングにより明らかになる慢性炎症と生活習慣病の関わり. 成人病の病因・病態の解明に関する研究助成. 第20回TMFC研究発表会, 大阪, 2014年7月12–13日
学会221	Nishimura S: Cell-cell Interactions in Diseased Conditions Revealed by Three Dimensional and Intravital Two Photo Microscope: From Visualization to Quantification. International Conference on Biomedical Engineering and Systems 2014, Prague, Czech Republic, August 14–15, 2014
学会222	西村智: 蛍光による生体恒常性・ダイナミクスの多面的解析(招待講演). 第4回 Basic Research Conference in 信濃町, 東京, 2014年8月29–30日
学会223	西村智: 非線形顕微鏡の生体への応用(招待講演). 応用物理学会 第24回基礎セミナー: バイオメディカルエンジニアリング, 名古屋, 2014年9月5日
学会224	西村智: 生体二光子イメージングによるマウス角膜傷害・炎症・再生過程の可視化. 第50回日本眼光学学会総会, 金沢, 2014年9月6–7日
学会225	Nishimura S: Artery Cell Contraction Processes via ROS and NO Balance Visualized by In Vivo Multi-photon Imaging and Laser Injury Technique. World Molecular Imaging Congress 2014, Seoul, Korea, September 17–20, 2014
学会226	Nishimura S: Thrombus Development Processes are Determined by Endothelial Injuries: Examined by In vivo Multi-photon Molecular Imaging. World Molecular Imaging Congress 2014, Seoul, Korea, September 17–20, 2014
学会227	西村智: 非線形顕微鏡を用いた多面的生体評価システムの開発(招待講演). 創薬薬理フォーラム. 第22回シンポジウム, 東京, 2014年9月26日
学会228	西村智: 蛍光で見る造血・血栓・炎症(招待講演). 第36回埼玉先端血液懇話会, 埼玉, 2014年10月17日
学会229	西村智: 二光子顕微鏡を用いた血管・間質相互作用の可視化解析. In vivo イメージングフォーラム2014, 東京, 2014年10月23日
学会230	西村智: アディポネクチン・腹囲測定 of 臨床的意義: マススケール臨床データの網羅的クラスター解析. 第35回日本肥満学会, 宮崎, 2014年10月24–25日
学会231	西村智: 脂肪から分泌されるENPP2は褐色脂肪組織機能と全身代謝を制御する. 第35回日本肥満学会, 宮崎, 2014年10月24–25日
学会232	Nishimura S, Eto K, and Nagai R: (Plenary Session) Two modes of thrombopoiesis: Dynamically regulated by TPO and IL-1 α balances. 第76回日本血液学会学術集会, 大阪, 2014年10月31日–11月2日
学会233	Nishimura S, Eto K, and Nagai R: Thrombus development processes dependent on endothelial injuries: Visualized by in vivo imaging. 第76回日本血液学会学術集会, 大阪, 2014年10月31日–11月2日
学会234	西村智: 蛍光で見る生体と血管(招待講演). 第21回九州血液血管研究会, 福岡, 2014年11月8日
学会235	西村智: 生体分子イメージングによる血管機能解析: 平滑筋収縮と血栓形成過程. 第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 沖縄, 2014年11月22–23日

学会236	西村智 ：非線形顕微鏡と定量化手法による仮説抽出：機能形態融合型イメージングを目指して．第37回日本分子生物学会年会，横浜，2014年11月25-27日
学会237	西村智 ：蛍光生体イメージによる血管機能解析：平滑筋収縮と血栓形成過程(招待講演)．第24回日本循環薬理学会，山形，2014年12月5日
学会238	Nishimura S : Immune cells cross-talks and activation processes in adipose tissue inflammation associated with metabolic diseases. (日本免疫学会研究奨励賞) 第43回日本免疫学会学術集会，京都，2014年12月10-12日
学会239	西村智 ：非線形顕微鏡を用いた生体内部可視化デバイスの開発と医療応用．2014年度第5回産と学をつなぐSENRIの会，大阪，2015年1月22日
学会240	Nishimura S : (招待講演) Fluorescence imaging of cardiovascular systems. International Symposium on Multi-dimensional Fluorescence Live Imaging of Cellular Functions and Molecular Activities, 京都，2015年1月26-28日
学会241	西村智 ：(シンポジウム)生体角膜イメージング．角膜カンファレンス2015 第39回日本角膜学会総会/第31回日本角膜移植学会，高知，2015年2月11-13日
学会242	西村智 ：動脈硬化に伴う初期記憶力・高次機能低下は心血管イベントの独立危険因子となる．日本総合健診医学会 第43回大会，富山，2015年2月20-21日
*学会243	西村智 ：目でみる血栓形成過程：二光子顕微鏡の大型動物への応用．第17回日本異種移植種研究会，下野，2015年3月14日

(部門名) 抗加齢医学研究部

通し番号	
学会244	黒尾誠 、PTH過剰症に伴うミネラル代謝異常とCPPの位置づけ. 第62回日本透析医学会学術集会・総会、横浜、2017/6/16-18
学会245	黒尾誠 、リン恒常性を維持する臓器間ネットワークとその破綻. 第60回日本腎臓学会学術総会、仙台、2017/5/26-28
学会246	黒尾誠 、Klotho and Aging; Phosphate connection. 第81回日本循環器学会、金沢2017/3/08
学会247	黒尾誠 、CKD患者のサルコペニア・フレイルのメカニズムと薬物療法. 日本腎臓リハビリテーション学会、つくば、2017/2/19
学会248	黒尾誠 、リンが老化を加速する：種特異的な老化のメカニズム. 第6回臨床ゲノム医療学会、横浜、2016/12/17
学会249	黒尾誠 、Secreted Klotho as a Renoprotective Factor、American Society of Nephrology, Chicago. U.S.A. 2016/11/17

学会250	<u>黒尾誠</u> 、Klothoと老化. 第31回日本整形外科学会基礎学術集会、福岡、2016/10/14
学会251	<u>黒尾誠</u> 、CKD and Aging、 34th Congress of the International Society of Blood Purification. 広島、2016/9/9
学会252	<u>黒尾誠</u> 、Klothoと老化、骨、FGF23. 第37回日本循環制御医学会総会、東京 2016/7/9
学会253	<u>黒尾誠</u> 、リン制限の新しい考え方：誰に対して何を目標に行うべきか. 第4回日本腎不全栄養研究会学術集会、神戸、2016/6/25
学会254	<u>黒尾誠</u> 、CPPs: A true culprit of phosphorus woes? XVIII International Congress on Nutrition and Metabolism in Renal Disease. 沖縄、2016/4/23
学会255	<u>黒尾誠</u> 、Kidney as the major source of circulating α Klotho. American Society of Nephrology、 San Diego、 U.S.A. 2015/11/6
学会256	<u>黒尾誠</u> 、FGF23-independent action of Klotho. American Society of Bone and Mineral Research、 Seattle、 U.S.A. 2015/10/8
学会257	<u>黒尾誠</u> 、Klotho-FGF23系と心肥大・動脈硬化. 日本老年医学会、横浜、2015/6/14
学会258	<u>黒尾誠</u> 、腎臓と加齢：リンの役割. 日本腎臓学会、 名古屋、2015/6/7
学会259	<u>黒尾誠</u> 、Phosphate-centric view of CKD. 日本腎臓学会、 名古屋、 2015/6/6
学会260	<u>黒尾誠</u> ：CPP：動脈硬化の新規病原物質. 第46回日本動脈硬化学会総会・学術集会（東京）2014年7月10日～11日
学会261	<u>黒尾誠</u> ：CKDと動脈硬化. 第57回日本腎臓学会学術総会（名古屋）2014年7月4日～6日
学会262	<u>黒尾誠</u> ：Klotho-FGF内分泌系と腎性老化仮説. 第14回日本抗加齢医学会総会（大阪）2014年6月6日～8日
学会263	<u>Kuro-o M</u> : Pathogenesis of Vascular Calcification: Phosphate or Calciprotein Particles - Who Is The Culprit? ERA-EDTA, Amsterdam, Netherlands, May 31-June 3, 2014

学会264	<u>Kuro-o M</u> : FGF23/FGF receptors/Klotho for calcium and phosphate homeostasis. International Society of Nephrology Nexus Symposium, Bergamo, Italy, April 3-6, 2014
学会265	<u>Kuro-o M</u> : Chronic kidney disease as a premature aging syndrome. 8th International Congress on Uremia Research and Toxicity, Okinawa, Japan, March 13-15, 2014
学会266	<u>Kuro-o M</u> : Phosphate and FGF23-Klotho endocrine axis in pathophysiology of CKD. 8th International Congress on Uremia Research and Toxicity, Okinawa, Japan, March 13-15, 2014
学会267	<u>Kuro-o M</u> : Klotho, phosphate, and inflammation: A way of ageing in CKD. 43th National Congress of the Spanish Society of Nephrology, Bilbao, Spain, October 5-8, 2013

(部門名) 小児科学

通し番号	
学会268	Karin KOJIMA, Akihiko Miyauchi, Takeshi Nakajima , Naoyuki Taga, Shin-ichi Muramatsu, <u>Hitoshi Osaka</u> , Takanori Yamagata : Gradual improvements in the motor and cognitive function after gene therapy for patients with AADC deficiency. The 8th International Collaboration Forum of Human Gene Therapy for Genetic Disease. 東京, 2018年1月18日
学会269	Karin Kojima, Akihiko Miyauchi, Takeshi Nakajima , Shin-ichi Muramatsu, <u>Hitoshi Osaka</u> , Takanori Yamagata: Gradual improvements in the motor and cognitive function after gene therapy for patients with AADC deficiency. The 2017 Annual Meeting of the European Society of gene and cell therapy(ESGCT). Germany, Berlin, Oct 17-21, 2017.
学会270	Karin Kojima, Akihiko Miyauchi, Takeshi Nakajima, Shinji Saitoh, Shin-ichi Muramatsu, <u>Hitoshi Osaka</u> , Takanori Yamagata: Gene therapy for aromatic L-amino acid decarboxylase (AADC) deficiency: Indication for milder patients. 第23回日本遺伝子細胞治療学会学術集会, 岡山, 2017年7月20日～22日
学会271	Nakamura S, <u>Osaka H</u> , Muramatsu SI, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T, Osaka H. . Gene therapy for Glut1-deficient mouse using AAV vector with human intrinsic GLUT1 promoter. 第23回日本遺伝子細胞治療学会学術集会. 2017/7/20-22, 岡山.
学会272	<u>小坂仁</u> 第二回神経代謝病研究会—新しい神経代謝病の治療に向けて— 遺伝子治療シンポジウム—遺伝子治療研究— 「グルコースとランスポーター1欠損症に対する遺伝子治療」 2017.7.5東京慈恵会医科大学
学会273	Karin KOJIMA, Akihiko Miyauchi, Takeshi Nakajima , Sayaka Asari, Hiroaki Mizukami, Shin-ichi Muramatsu, Hitoshi Osaka, Takanori Yamagata: Continuous improvement of motor and cognitive functions after gene therapy for AADC deficiency. 第59回日本小児神経学会学術集会, 大阪, 2017年6月15日～17日.

学会274	Nakamura S, <u>Osaka H</u> , Muramatsu S, Takino N, Ito M, Aoki S, Jimbo EF, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T: Gene therapy for a mouse model of glucose transporter-1 deficiency syndrome. The 20th Annual Meeting of the American Society of gene and cell therapy (ASGCT). Washington, DC, USA, May 10 - 13, 2017.
学会275	小島華林、村松慎一、宮内彰彦、水上浩明、 <u>小坂仁</u> 、川合謙介、山形崇倫、中嶋剛: 定位的脳手術によるAADC欠損症に対する遺伝子治療の効果—運動・認知機能の改善—. 第56回日本定位・機能神経外科学会. 大阪, 2017年1月 27日～ 28日
学会276	Karin Kojima, Akihiko Miyauchi, Takeshi Nakajima, Sayaka Asari-Ono, Hiroaki Mizukami, Hitoshi Osaka, Shin-ichi Muramatsu, Takanori Yamagata: Continuous improvement of motor, autonomic, and cognitive functions following gene therapy for AADC deficiency. The 2016 Annual Meeting of the European Society of gene and cell therapy(ESGCT). Italy, Florence, Oct 18-21,2016.
学会277	Nakamura S, Osaka H, Muramatsu S, Takino N, Aoki S , Jimbo EF, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T : Gene therapy for a mouse model of glucose transporter-1 deficiency syndrome. 第22回日本遺伝子細胞治療学会(東京) 2016年7月28日～30日
学会278	Nakamura S, <u>Osaka H</u> , Muramatsu S, Takino N, Aoki S , Jimbo EF, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T : Gene therapy for a mouse model of glucose transporter-1 deficiency syndrome. 第58回日本小児神経学会学術集会(東京) 2016年6月3日～5日
学会279	Nakamura S, <u>Osaka H</u> , Muramatsu S, Takino N, Aoki S , Jimbo EF, Shimazaki K, Onaka T, Ohtsuki S, Terasaki T, Yamagata T : Gene therapy for a mouse model of glucose transporter-1 deficiency syndrome. 第22回日本遺伝子細胞治療学会(東京) 2016年7月28日～30日
学会280	<u>小坂仁</u> 、中村幸恵、神保恵理子、村松慎一、山形崇倫：シンポジウム14：小児神経疾患に対する遺伝子治療の幕開け—AADC欠損症を中心に— アデノ随伴ウイルスがひらく遺伝性神経疾患治療。 第58回日本小児神経学会学術集会(東京) 2016年6月3日

(部門名) 呼吸器内科学部門

通し番号	
学会281	Nakayama M, Yamamoto S, Kaneko N, Mato N, Yamasawa H, Bando M, Hagiwara K. Bronchoscopy simulation training using a three-dimensional printer. ERS 2017, Milano, Italy, September 10, 2017.
学会282	中山雅之, 山本真一, 他：気管支鏡トレーニングモデル「ブロンコボーイ」を用いたEWS充填術のトレーニング。第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会(長崎) 2017年6月9日～10日

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311030

《特許出願》

(部門名) 再生医学研究部

特許1	発明者：大森司、長尾恭光、水上浩明、坂田飛鳥、坂田洋一、西村智、小澤敬也、村松慎一、富永眞一、 花園豊 発明の名称：肝臓ゲノム上の凝固関連因子遺伝子を破壊するためのAAVベクター 出願者：学校法人自治医科大学 出願日：平成29年1月13日 出願番号：特願2017-004198号
特許2	発明者： 花園豊 、阿部朋行、長尾慶和 発明の名称：造血系細胞の作製方法 出願者：自治医科大学、宇都宮大学 出願日：平成28年8月26日 出願番号：PCT/JP2016/075743
<u>*特許3</u>	発明者：遠藤仁司、長尾恭光、 花園豊 、富永薫、大森司 発明の名称：幹細胞を再樹立する方法 出願者：自治医科大学 出願日：平成28年4月5日 出願番号：特願2016-75758
<u>*特許4</u>	発明者：遠藤仁司、長尾恭光、 花園豊 、富永薫、大森司 発明の名称：異種間での多能性幹細胞再樹立法 出願者：自治医科大学 出願日：平成27年10月2日 出願番号：PCT/JP2015/078699
特許5	発明者： 花園豊 、阿部朋行、長尾慶和 発明の名称：造血系細胞の作製方法 出願者：自治医科大学、宇都宮大学 出願日：平成27年8月28日 出願番号：特願2015-168702
<u>*特許6</u>	発明者：遠藤仁司、長尾恭光、 花園豊 、富永薫、大森司 発明の名称：異種間での多能性幹細胞再樹立法 出願者：自治医科大学 出願日：平成26年10月2日 出願番号：特願2014-203679
<u>*特許7</u>	発明者： 花園豊 、渡邊将人、長嶋比呂志 発明の名称：遺伝子ノックアウトブタ 出願者：自治医科大学、明治大学 出願日：平成26年4月7日 出願番号：特願2014-078986
特許8	発明者： 花園豊 、佐々木京子 発明の名称：霊長類動物の胚性幹細胞から造血系細胞への分化の方法 出願者：田辺三菱製薬株式会社(平成29年7月13日付け自治医科大学に継承) 出願日：平成15年5月29日 出願番号：特願2003-153494

(部門名) 救急医学

<u>*特許9</u>	発明者：伊澤祥光、菱川修司 発明の名称：止血シャントデバイス 出願者：学校法人自治医科大学 出願国：日本 出願日：2014年8月6日 出願番号又は特許番号：特願2014-160881号
-------------	---

(11 研究成果の概要＜研究成果の副次的効果＞ 添付資料)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311030

(部門名) 東洋医学部門

特許10	発明者：村松慎一、小黒恵司、島崎久仁子 発明の名称：てんかん治療のためのアデノ随伴ウイルスベリオン 出願者：学校法人自治医科大学、株式会社遺伝子治療研究所 出願国：日本 出願日：2016年1月15日 出願番号又は特許番号：特願2016-6191
特許11	発明者：小坂仁、山形崇倫、<u>村松慎一</u> 発明の名称：グルコーストランスポーター1発現用アデノ随伴ウイルスベクター 出願者：学校法人自治医科大学 出願国：日本 出願日：2016年1月7日 出願番号又は特許番号：特願2016-1697

(部門名) 消化器内科学

<u>*特許12</u>	発明者：林芳和、山本博徳 発明の名称：内視鏡用フード 出願者：学校法人自治医科大学 出願国：日本 出願日：平成22年12月14日 出願番号又は特許番号：特許第5784900号
特許13	発明者：矢野智則 発明の名称：粘弾性組成物 出願者：学校法人自治医科大学/株式会社大塚製薬工場 出願国：日本 出願日：平成28年9月28日 出願番号又は特許番号：PCT/JP2016/078704

(部門名) 分子病態研究部

特許14	発明者：西村智 発明の名称：血小板解析方法及び血小板解析システム 出願者：国立大学法人 東京大学 出願国：日本 出願日：2010年6月1日 出願番号又は特許番号：特願2010-125869
特許15	発明者：西村智 発明の名称：インターロイキン1α (IL-1α)を含有する巨核球分化誘導及び血小板産生促進剤 出願者：国立大学法人 東京大学、国立大学法人 京都大学 出願国：日本 出願日：2014年5月14日 出願番号又は特許番号：特願2014-100376
特許16	発明者：西村智 発明の名称：撮影装置 出願者：西村 智 出願国：日本 出願日：平成29年2月29日 出願番号又は特許番号：特願2017-029356

(部門名) 麻酔科学

特許17	発明者：鈴木英雄、<u>五十嵐孝</u>、加藤紀弘 発明の名称：長期徐放型薬剤硬膜外留置システム 出願者：学校法人自治医科大学、国立学校法人宇都宮大学 出願国：日本 出願日：平成27年2月20日 出願番号又は特許番号：特願2010-268670
------	--